

取扱説明書



安全はクボタの願い

このマークは「お客様」「ディーラ」「クボタ」の三者が
一体となって安全宣言を行うための統一マークです。



陸内協排出ガス自主規制適合

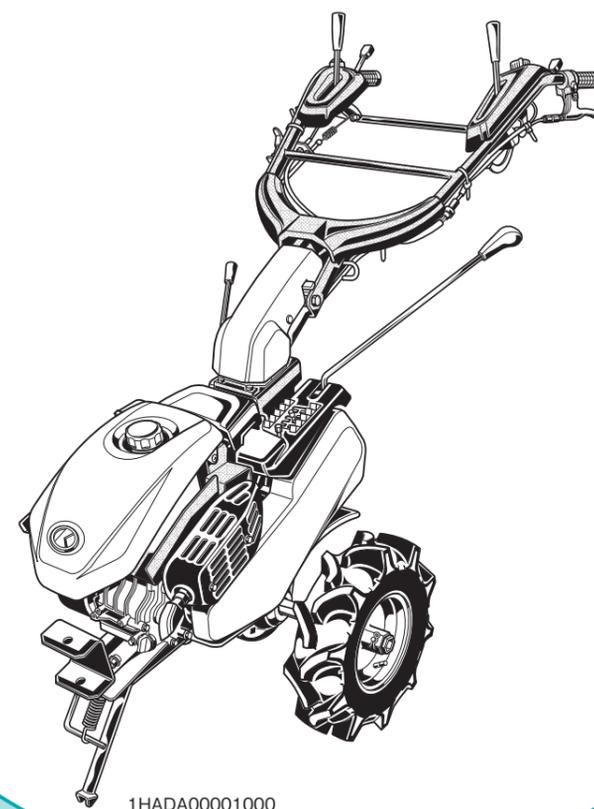
このラベルは「(社)日本陸用内燃機関
協会排出ガス自主規制適合エンジン」
であることを示しています。

株式会社クボタ

〒556-8601
大阪市浪速区敷津東1丁目2番47号

© 2022 Kubota Corporation

TA 701N 801N



1HADA00001000

ご使用前に必ずお読みください
いつまでも大切に保管してください

TA
701N
801N

OPERATOR'S MANUAL

操作装置のシンボルマーク

運転操作および保守管理のために、操作装置のシンボルマークが使用されています。シンボルマークの意味は下記のとおりですのでよく理解して戴き誤操作のないようご注意ください。



エンジン停止



チョークレバー



ガソリン燃料

専門用語の説明

ON 燃料コックレバー [開]

OFF 燃料コックレバー [閉]

R 変速位置 [後進]

PTO 動力取出し軸

本製品の使用目的について

本製品は、農業用機械ですので農作業以外では使用しないでください。
使用目的以外の作業、また夜間作業や改造はしないでください。
使用目的以外の作業や改造をした場合は、保証の対象になりませんのでご注意ください。
(詳細は保証書をご覧ください。)

仕様について

この取扱説明書では、仕様の異なる製品を下記のように表示していますので、お買上げの製品の仕様をお確かめのうえ、お間違いのないようお願いいたします。
なお、機種および仕様区分によっては付いていない装置の説明もあります。

- 操向クラッチ切替え装置付き SC 仕様
- 3. 50-7 タイヤ付き K 仕様
- 4. 00-7 タイヤ付き J 仕様
- ゴムラグ車輪付き N 仕様
- 16×7. 00-8 タイヤ付き W 仕様

修理・取扱い・手入れなどでご不明の点は **まず、購入先へ** ご相談ください

おぼえのため、該当する項目に記入されると便利です

購入先名		型式名
担当		区分
電話番号 () -		製造 (車台) 番号
		エンジン型式
		エンジン番号
ご購入日	キーナンバー	その他装着型式
		機械番号

※ご記入の際には、サービスと保証のページをご参照ください。
なお、型式により該当しない記入項目もあります。

ご購入先でご不明の点がございましたら、下記にお問合わせください。

クボタアグリサービス株式会社

秋田	事務	所：電(018)845-1601	〒011-0901	秋田市寺内字大小路207-54
仙台	事務	所：電(022)384-5162	〒981-1221	宮城県名取市田高字原182-1
東京	事務	所：電(048)862-1124	〒338-0832	さいたま市桜区西堀5-2-36
新潟	事務	所：電(025)285-1261	〒950-0992	新潟市中央区上所上1-14-15
金沢	事務	所：電(076)275-1121	〒924-0038	石川県白山市下柏野町956-1
大阪	事務	所：電(06)6470-5850	〒661-8567	兵庫県尼崎市浜1-1-1
福岡	事務	所：電(092)606-3161	〒811-0213	福岡市東区和白丘1-7-3
熊本	事務	所：電(096)357-6181	〒861-4147	熊本市南区富合町廻江846-1

株式会社 北海道クボタ

本社 所：電(011)661-2491 〒063-0061 北海道札幌市西区西町北16-1-1

株式会社 東海近畿クボタ

一宮事業 所：電(0586)24-5111 〒491-0031 愛知県一宮市観音町1-1

株式会社 中四国クボタ

本社 所：電(086)279-4511 〒703-8216 岡山市東区宍甘275

株式会社 クボタ

国内農機カスタマーセンター：電(0570)091313 〒590-0823 大阪府堺市堺区石津北町64

はじめに

このたびは、クボタ製品をお買い上げいただきありがとうございます。
製品をご使用になる前に本書をよくお読みいただき、正しくお使いください。本書は、いつでもご覧頂ける場所に、大切に保管してください。なお、予告なく製品の仕様が変更されることがあります。本書の内容が、製品と一致しない場合がありますので、あらかじめご了承ください。

⚠ 安全 第一

本書に記載した注意事項や機械に貼られた⚠の表示があるラベルは、人身事故の危険が考えられる重要な項目です。よく読んで必ず守ってください。
なお、⚠表示ラベルが汚損したり、はがれた場合はお買い上げの購入先に注文し、必ず所定の位置に貼ってください。

注意表示について

本取扱説明書では、特に重要と考えられる取扱い上の注意事項について、次のように表示しています。



注意事項を守らないと、死亡または重傷を負うことになるものを示します。



注意事項を守らないと、死亡または重傷を負う危険性があるものを示します。



注意事項を守らないと、ケガを負うおそれのあるものを示します。

重要：

注意事項を守らないと、機械の損傷や故障のおそれのあるものを示します。

補足：

その他、使用上役立つ補足説明を示します。

その他について

商標について

商 標	商標権者について
AdBlue®	AdBlue はドイツ自動車工業会 (VDA) の登録商標です。

本書に記載されている会社名、製品名、サービス名は、それぞれ各社の商標または登録商標です。本文中では、それらの名称には必ずしも商標表示 (™、®) を付記していません。

目次

安全に作業をするために	3
サービスと保証	15
ご相談窓口.....	15
認定番号.....	15
補修用部品の供給年限について.....	15
移動、運搬時の注意.....	16
各部の名称と装置の取扱い	17
管理機の外観.....	17
各部の名称とはたらき.....	18
1. 主クラッチレバー.....	18
2. フィンガーレバー.....	18
3. メインスイッチ.....	18
4. 補助主クラッチレバー.....	18
5. スロットルレバー.....	19
6. ハンドル高さ調節レバー.....	19
7. 操向クラッチレバー [SC 仕様].....	19
8. 操向クラッチ切替えボタン [SC 仕様].....	19
9. ハンドル回動レバー.....	20
10. リコイルスタータ.....	21
11. チョークレバー.....	21
12. 燃料コックレバー.....	21
13. 燃料タンクと燃料キャップ.....	22
14. 主変速レバー.....	22
14.1 主変速レバーの操作のしかた.....	23
15. 高速牽制ボルトの取扱い.....	23
16. PTO レバー.....	23
17. PTO 牽制金具の取扱い.....	24
18. マフラ.....	24
19. 六角ホイールチューブ [N 仕様以外].....	24
20. スタンド (スタンドレバー) の取扱い.....	24
20.1 スタンドを立てる方法.....	25
20.2 スタンドの格納のしかた.....	25
作業前の点検	26
調子よく作業するために.....	26
安全に作業するために.....	27
運転のしかた	29
新車時の扱いかた.....	29
1. 管理機の準備.....	29
2. ならし運転.....	29
エンジンの始動と停止のしかた.....	29
1. 始動のしかた.....	29
2. 停止のしかた.....	30
発進のしかた.....	32
作業のしかた	33
上手な作業のしかた.....	33
1. 作業前の準備.....	33
2. 耕うん作業手順.....	33
3. 旋回手順.....	33
各部の調節.....	34
1. エアクリーナの調節.....	34
2. ハンドル高さの調節.....	34

3. ハンドルの向き（正、逆）の変更方法.....	34
3.1 ハンドルの正位置から逆位置への切替え [SC 仕様]	35
3.2 ハンドルの正位置から逆位置への切替え [SC 仕様以外]	35
3.3 ハンドル逆位置から正位置への切替え [SC 仕様]	35
3.4 ハンドル逆位置から正位置への切替え [SC 仕様以外]	36
4. 輪距の調節、車輪交換のしかた	36
4.1 輪距の調節および車輪の交換の注意.....	37
管理機の点検、整備のしかた.....	39
廃棄物の処理について	39
洗車時の注意.....	39
定期点検箇所一覧表.....	40
管理機の給油一覧表.....	40
日常点検.....	40
1. 前回の異常箇所.....	41
2. 機械の周りを歩いて	41
3. 点検、整備.....	41
3.1 燃料の給油	41
3.2 エンジンオイルの点検	41
3.3 ミッションオイルの点検.....	41
3.4 エアクリーナの点検.....	42
3.5 各ケーブルの点検.....	42
3.6 その他の点検.....	42
安全に作業するための点検.....	42
使用時間に応じた点検、整備	42
1. エンジンオイルの交換.....	42
2. ミッションオイルの交換.....	43
3. エアクリーナエレメントの清掃とオイル交換.....	43
4. 燃料フィルタの清掃	44
5. 燃料チューブの交換	44
6. 点火プラグの調節、清掃、交換	44
必要に応じた点検、整備.....	45
1. ファンカバーの清掃	45
2. タイヤ空気圧	45
3. 主クラッチケーブルの調節.....	46
4. 操向クラッチケーブルの調節.....	47
5. ハンドル上下調節.....	47
6. PTO ケーブルの調節	47
7. スロットルケーブルの調節.....	47
8. スタンドの調節.....	47
使用後の手入れ.....	48
1. エンジン始動不良を防ぐために	48
2. 長期格納時の手入れ	48
3. 燃料の抜取り	48
管理機を運搬するとき.....	50
トラックへの積込み、積降ろし、運搬.....	50
付表	52
主要諸元.....	52
走行速度一覧表.....	54
標準付属部品.....	55
主な消耗部品一覧表.....	56
トラブルと処置	57
索引	58

⚠️ 安全に作業をするために

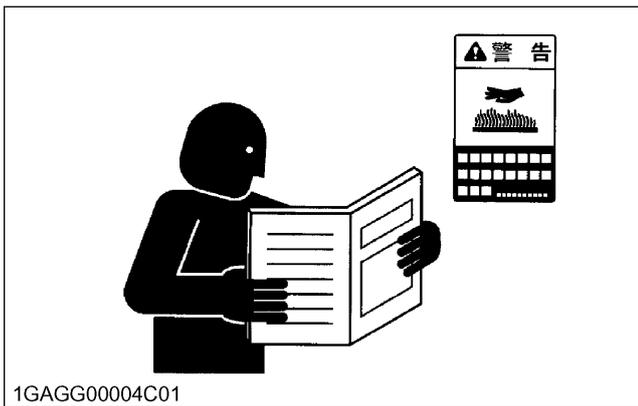
安全に作業をするために

本機をご使用になる前に、必ず本書をよく読み理解したうえで、安全な作業をしてください。安全に作業をしていただくため、ぜひ守っていただきたい注意事項は本章のとおりですが、これ以外にも、本文の中で危険、警告、注意、重要、および補足としてそのつど取り上げています。

運転前の注意事項

1. 正しい運転方法

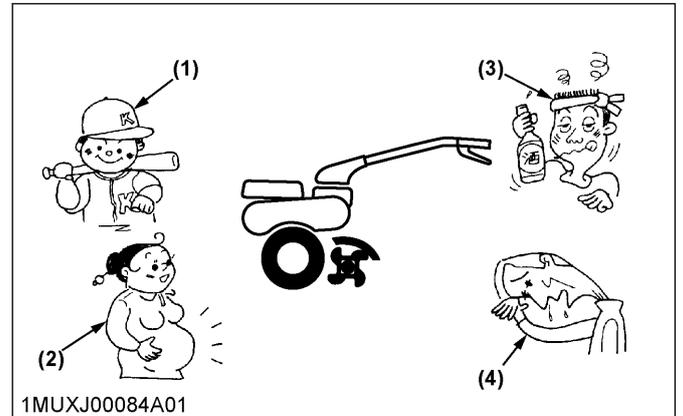
- 機械を動かす前に、取扱説明書と機械に貼ってある安全ラベルをよく読み、理解したうえで運転してください。
- 機械の運転操作、特に主クラッチの【切】は素早くできるよう、よく練習し、じゅうぶんに慣れてから作業してください。



2. 運転してはいけない人

次の項目に該当する場合は、機械を使用しないでください。

- 本書および安全ラベルの内容が理解できない人
- 視力不足などの万全ではない状態のため表示内容が読めない人
- 飲酒時や体調が悪いとき、また妊娠中の人
- 16才未満の人
- ハンドルを操縦する体力に自信の無い人

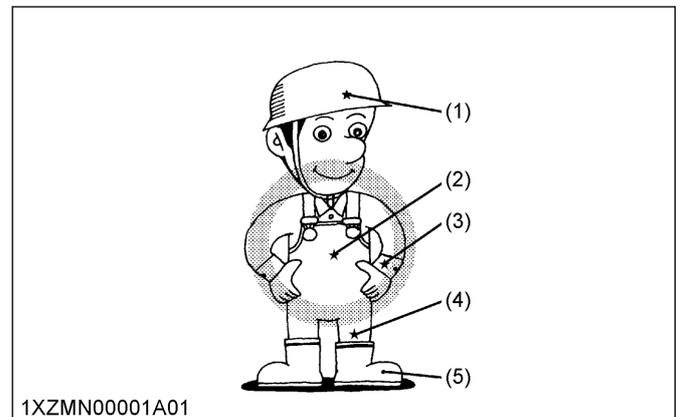


- (1) 16才未満
- (2) 妊婦
- (3) 飲酒運転
- (4) 過労病気

3. 作業に適した服装

- 回転部分や操縦装置に引っ掛かり事故の原因になる、だぶついた服、腰タオルなどの着衣はやめてください。
- ヘルメット、安全靴、保護メガネや手袋などの保護具を必要により着用してください。

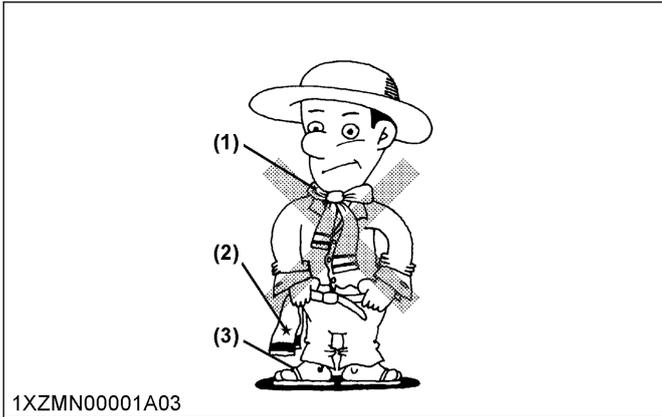
作業時の服装の良い例



- (1) ヘルメット
- (2) 活動的な服装
- (3) 袖口きっちり
- (4) スソきっちり
- (5) 滑りにくい靴

⚠️ 安全に作業をするために

作業時の服装の悪い例



- (1) 巻きタオル (3) サンダル
(2) 腰タオル

4. 周囲への注意

- 子供、ペットを近づけないでください。
- 見物人を近くに寄せないでください。
- 共同作業者が居るときは、互いに注意してください。

5. 他人に貸すときの注意

- 事前に運転のしかたを教え、“取扱説明書”を必ず読んでもらってください。
- 本書および安全ラベルの内容が理解できない人や子供には絶対運転させないでください。

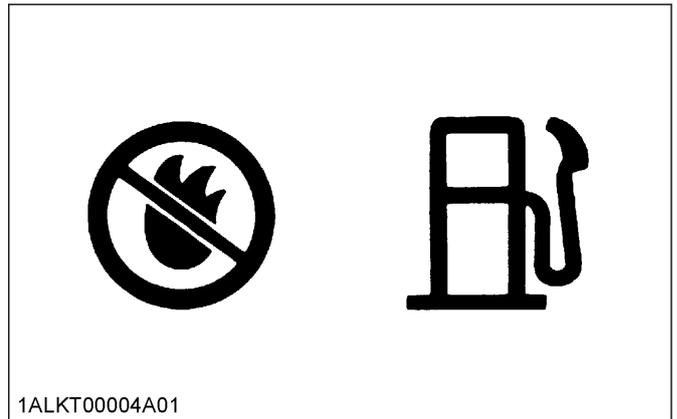


6. 給油および注油するとき

火気厳禁です。

- 燃料の給油および各部への注油時は必ずエンジンを停止し、規定量以上入れないでください。
- エンジン回転中やエンジンが熱い間は火災のおそれがあるので給油はしないでください。
- 煙草を吸ったり火気を近づけないでください。
- 給油口の赤色ゲージ以上に燃料を入れしないでください。
- 燃料補給後、給油キャップは漏れないようしっかり締めてください。

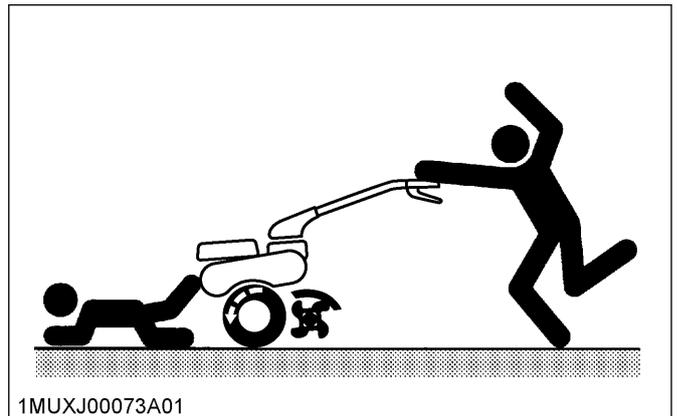
- こぼれた燃料は拭き取ってください。



始動時の注意事項

1. エンジンを回すとき

- 必ず本機の主クラッチレバーやPTOレバーを[切]位置にし、主変速レバーを“中立”にして、付近に人、特に子供を近づけないでください。もし主クラッチや変速が入っていると車体や爪軸が急に動いて事故になるおそれがあります。



- リコイルスタータを引っ張る方向に人がいないか、突起物や障害物が無いか確かめてから始動してください。傷害事故のおそれがあります。

2. 排ガスに注意

- 換気が不十分な所では、暖機運転や作業はしないでください。
排ガスにより一酸化炭素中毒のおそれがあります。
- ハウス内では排ガスが充満しないように、じゅうぶんに換気を行ってください。
排ガスによる中毒を起こし、死亡事故にいたるおそれがあります。

⚠ 安全に作業をするために



1GAGG00009A01

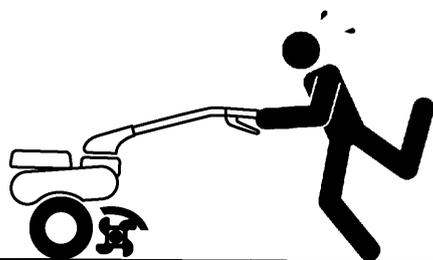


1MUXJ00069A01

移動、作業時の注意事項

1. 発進するとき

- 速い速度での走行はじゅうぶん注意してください。
- 車速の最低速で主クラッチレバーの[入]はゆっくり、[切]は素早きの操作を習熟したうえで使用してください。
- 小走りになるようなスピードを出したり、急発進、急旋回はしないでください。転倒などのおそれがあります。
- 後進の発進時は、ハンドルが持ち上がりやすいので、エンジンの回転を下げ、しっかりハンドルを押さえながらゆっくり主クラッチを入れてください。



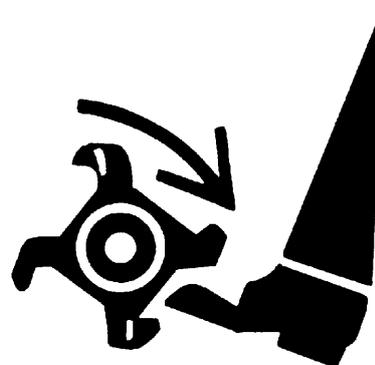
1MUXJ00074A01

2. ロータ装着時の後進は禁止

- ハンドルが跳上がり回転する爪に巻き込まれるおそれがあるので“後進”に変速しないでください。

3. 移動するとき

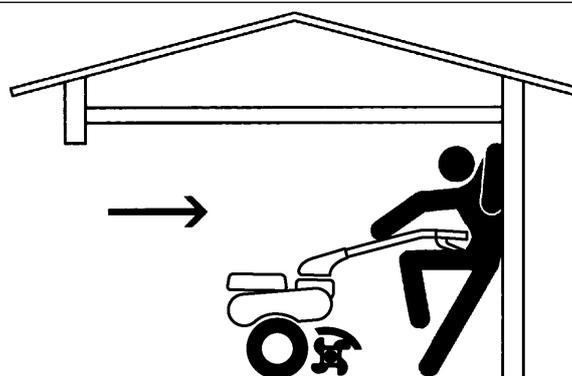
- 移動の際は、必ずロータリの回転を止めてください。



1ALKT00012A01

4. ハウス、車庫などでの移動

- 後方の壁、支柱、天井など障害物にはさまれるおそれがあるのでエンジン回転を下げ、後進してください。



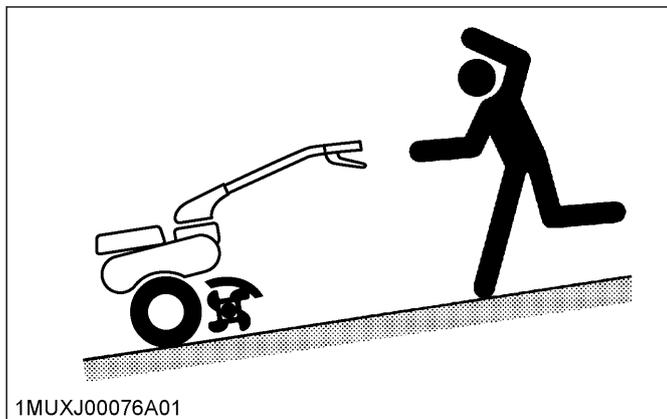
1MUXJ00075A01

- 屋根の低いハウス内や車の荷台では、エンジンを停止して手で引き出してください。

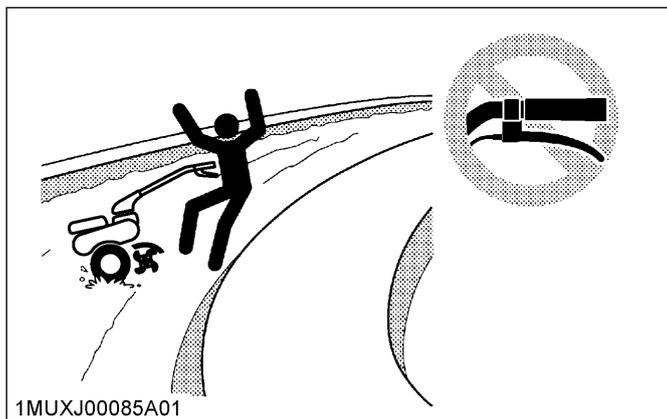
⚠️ 安全に作業をするために

5. 坂道を移動するとき

- 坂道、ほ場の出入り、あぜの乗越えなどの途中で主クラッチレバーを切ったり、主変速レバーを“中立”にすると、機体が思わぬ方向に進み危険です。



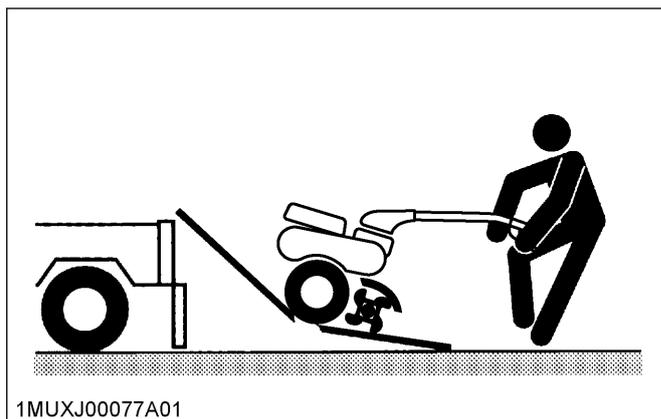
- 変速操作は、機械が平坦な場所以外では行わないでください。落下や転倒のおそれがあります。
- 坂道や凹凸、カーブの多い路上で高速運転すると、転倒したりして危険ですから必ず低速運転してください。



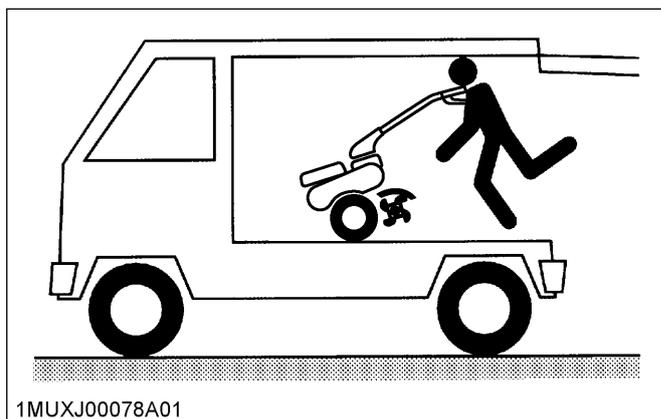
- 坂道で操向クラッチを操作すると、思わぬ方向に曲がり転倒のおそれがありますので、必ずハンドル操作で方向転換してください。

6. 運搬や積降ろしするとき

- 積みみや積降ろしは、平坦で交通の邪魔にならない安全な場所で行ってください。
- アユミ板はすべり止めの付いた、機体重量に耐える物で、トラックの荷台の高さ“1”に対しアユミ板の長さ“4以上”の物を使用し、確実に固定してください。



- 足元に注意し、車速は最低速で、上りは“前進 1 速”下りは“後進 1 速”で行い、途中で主クラッチを切ったり、変速操作をしないでください。落下や転倒のおそれがあります。
- 車などで運搬するときは、荷台に天井がある車を使用すると天井に首や体をはさまれるおそれがありますので、必ず荷台に天井が無い車を使用してください。



- 運搬時は燃料コックレバーを必ず“閉” ([OFF]位置) にし、給油キャップは漏れないようしっかり締めてください。燃料漏れが発生し、火災や爆発のおそれがあります。
- 機体の固定はフロントヒッチ、リアヒッチ、およびロープフックを使ってロープ掛けを行い、確実に床に固定してください。ハンドルを使っての固定はしないでください。

7. 耕うん作業するとき

- いつでも主クラッチが切れる姿勢で運転してください。車軸（ロータ）、爪軸（ロータリ）作業開始時や作業中、機体が思わぬ方向に飛び出し転倒や人身事故のおそれがあります。

⚠️ 安全に作業をするために

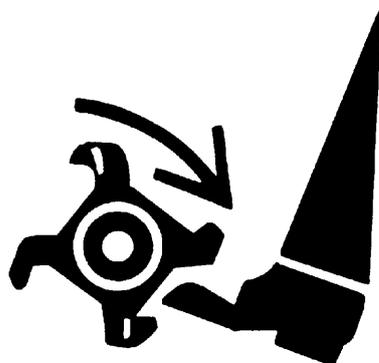


1MUXJ00079A01

- 作業前に、ほ場の状態をよく確認して、石、材木、針金、空カン、空ビンなどを取り除いてください。
- 作業前、作業後には機械の点検や整備を行ってください。特にエンジン本体、マフラ周辺、配線部にワラくずなどがたまっていると、火災の原因になります。
- 周辺の枯れ草やたい積ワラなどは作業前に取り除くか移動させてください。機械のマフラが接触すると、発火するおそれがあります。
- ほ場の中や周囲にある支柱、樹木や段差などは、作業前に位置を確認し、後進時にはさまれたり、転倒や転落しないよう安全な距離を保って、近づかないよう作業してください。
- ハウスや小屋の中、果樹園など障害物がある場所では、周囲をよく確認しながら作業してください。特に後進、旋回するときは、エンジン回転を下げ、ハンドルをしっかり押さえて行ってください。
- 長いワラや草など作業に支障のある物は、作業前に取り除いてください。機体が思わぬ方向に飛び出し、転倒などのおそれがあります。

8. 回転している爪に注意

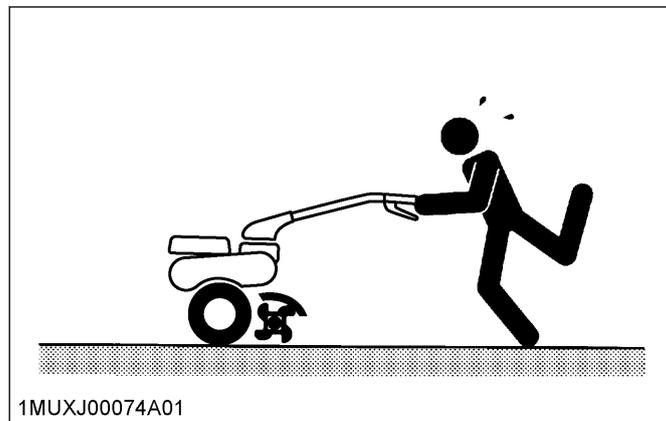
- ハンドル部を持ち上げ旋回するとき、足元および周囲にじゅうぶん注意してください。回転する爪に巻き込まれるおそれがあります。



1ALKT00012A01

9. ほ場がかたいとき

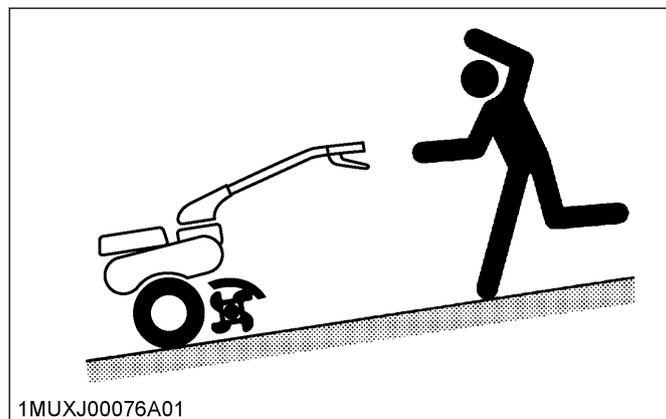
- かたいほ場では車速を遅めにして、耕深も浅めで作業を行ってください。機体が飛び出すおそれがあります。



1MUXJ00074A01

10. 機械から離れるとき

- エンジンは必ず停止させ、平たんで安定した場所に停車してください。移動や落下するおそれがあります。やむ無く傾斜地に停めるときは車止めをしてください。



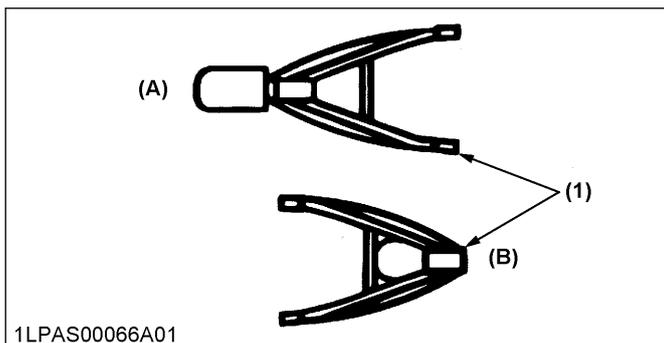
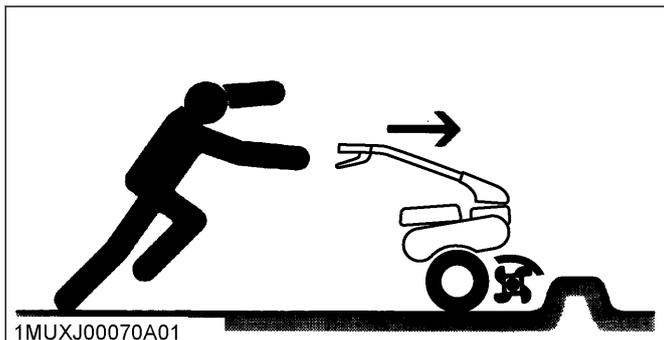
1MUXJ00076A01

- 周囲に草やワラなど燃えやすい物がある場所に停めないでください。火災のおそれがあります。

11. ハンドル回転するとき

- 操向クラッチワイヤの切替え
[SC仕様]は操向クラッチ切替えボタンを切り替えてください。
ハンドル位置を正から逆または逆から正に変更すると、操向クラッチの方向が左右入れ替わり思わぬ方向に旋回して危険です。

⚠ 安全に作業をするために

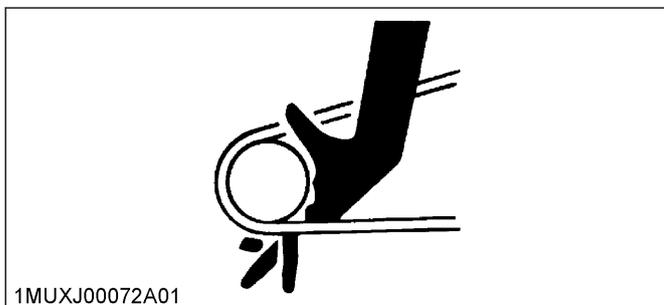


(1) ハンドル

(A) 正
(B) 逆

12. PTO 軸を使用するとき

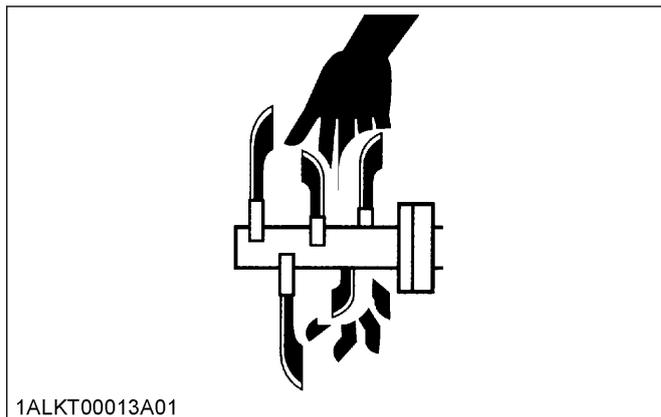
- 回転物に巻き込まれるおそれがあるので、まわりにカバーや囲いをしてください。
- 使用しないときはカバーを組み付けてください。



作業が終わったとき

1. 掃除をするとき

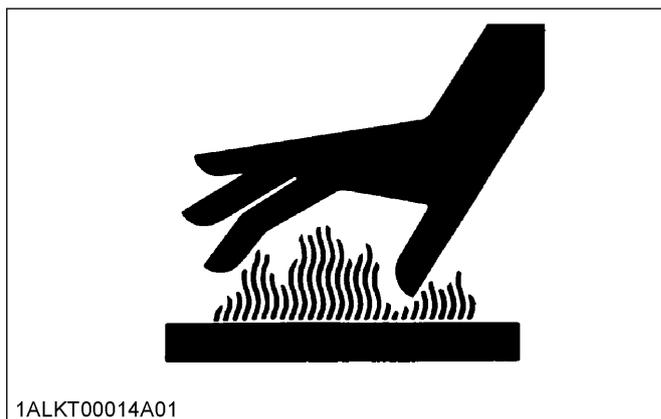
- 車軸（ロータ）、爪軸（ロータリ）などに巻き付いた草、ワラ、泥土などを取り除くときは、巻き込まれるおそれがあるので、必ずエンジンを停止してください。



点検整備時の注意事項

1. 点検、整備、アタッチメント脱着時の注意

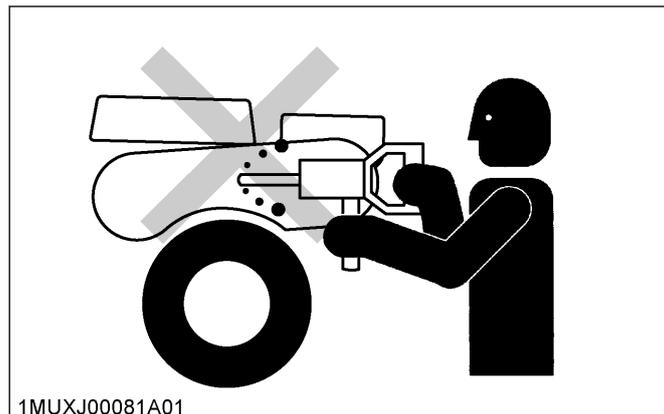
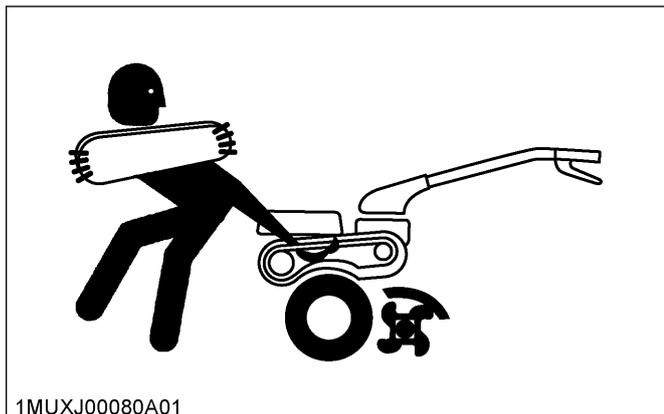
- 点検、整備、アタッチメントの脱着などは、機械が転倒しない平坦な所に機械を安定させて、エンジンを止め、高温部が冷めてから行ってください。



2. カバー類は必ず付ける

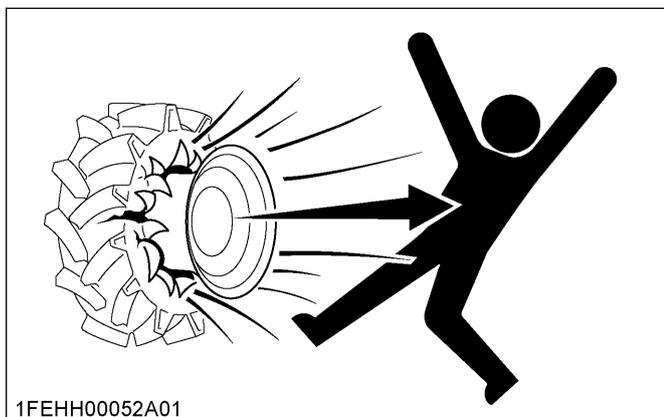
- ベルトカバー、PTO 軸カバーなどの防護カバーを取り外すときは、必ずエンジンを停止してください。巻き込まれるおそれがあります。
- 取り外したカバー類はもとどおり組み付けてください。

⚠️ 安全に作業をするために



3. タイヤの確認

- タイヤの空気圧は、取扱説明書に記載している規定圧力を、必ず守ってください。空気の入れすぎは、タイヤ破裂のおそれがあり、死傷事故を引き起こす原因になります。
- タイヤに傷があり、その傷がコード（糸）に達している場合は、使用しないでください。タイヤ破裂のおそれがあります。
- タイヤ、チューブ、リムなどの交換、修理は、必ず購入先にご相談ください。特別教育を受けた人が行うように、法で決められています。

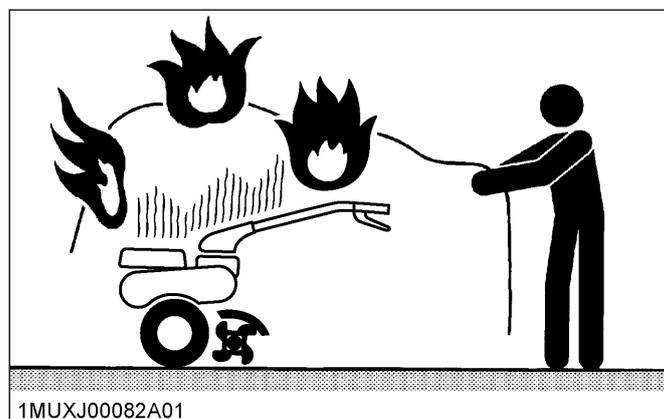


4. 機械の改造禁止

- 機械を改造しないでください。改造すると機能に影響を及ぼすばかりか人身事故にもつながるおそれがあります。

5. 格納するとき

- 機体に保管用カバーやシートを掛けるときは、火災予防のため、高温部が冷めてから行ってください。



- 乾いた草やワラなど可燃物のあるところでの保管はしないでください。火災のおそれがあります。

6. 廃棄物の処理

- 廃棄物をみだりに捨てたり、焼却すると、環境汚染につながり、法令により処罰されることがあります。
 - 機械から廃液を抜く場合は、容器に受けてください。
 - 地面へのたれ流しや河川、湖沼、海洋への投棄はしないでください。
 - 廃油、燃料、冷却水（不凍液）、尿素水（AdBlue）、冷媒、溶剤、フィルタ、バッテリー、ゴム類、その他の有害物を廃棄、または焼却するときは、購入先、または産業廃棄物処理業者などの事業者にご相談して、所定の規則に従って処理してください。

⚠️ 安全に作業をするために



1RGER00028A01

7. 夜間作業の禁止について

- 本機は夜間作業灯を装備していませんので、夜間作業はしないでください。思わぬ事故につながるおそれがあります。

8. 作業機の着脱について

- 作業機の着脱は、平たんで安全な場所で行ってください。
- PTO 作業機の装着、取外し、調整、掃除または修理をするときは、作業機が完全に止まるまで待ってください。



1ALKT00012A01

⚠ 安全に作業をするために

安全ラベル

1. 安全ラベルと貼付け位置

(1) 品番 KF082-4732-0



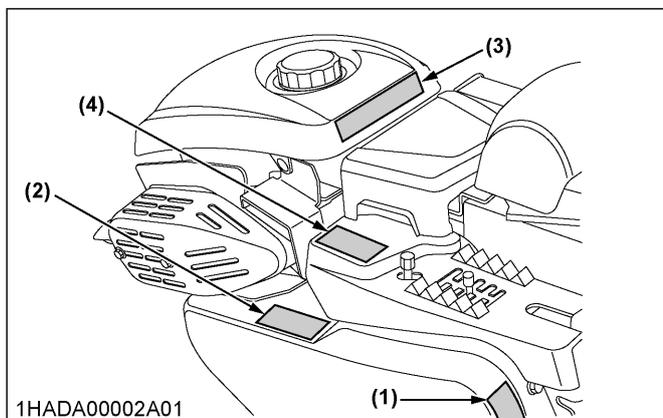
(2) 品番 KA071-4728-0



(3) 品番 KA861-4722-0



(4) 品番 KF082-4730-0



1HADA00033A01jaJP

⚠️ 安全に作業をするために

(1) 品番 KF082-4726-0

⚠️ 警告		 回転するツメに巻き込まれるおそれがあるので回転部に近づかないこと。	傷害事故防止のため、取扱説明書を読んで正しい取扱いをし機械の運転操作、特に主クラッチはすばやく切れるようよく練習し、しゅうぶんに慣れてから作業すること。 始動するとき ◆ 主クラッチを切り、変速を中立にすること。 ◆ 前後左右に人がいないことを確認すること。 運転するとき ◆ 坂道、積み降ろし、ほ場の出入り陸の乗り越え等では、遅い車速で運転し途中で変速しないこと。 ◆ 後進時はハンドルがはね上がるので、主クラッチがいつでも切れるようハンドルを下げ遅い車速で後進し、後の障害物に注意のこと。 ◆ 周囲に人を近づけないこと。 点検・整備するとき ◆ 必ずエンジンをとめ高温部が冷えてから行うこと。
トレーラ走行禁止 小型特殊自動車の認定を受けていません。		 後方に機械を移動する時は、 ◆ 屋根の低いハウス内や車の荷台ではエンジンを停止して手で移動させること。 ◆ 溝や壁などの障害物がないことを確認すること。	
 傷害事故防止のため、積み込み積み降ろし、ほ場の出入りの際は ◆ 操向クラッチレバーを切らないこと。 ◆ 主クラッチレバーを切らないこと。 ◆ 変速の操作を行わないこと。 ◆ 上りは前進、下りは後進で最低速度で進むこと。		 PTO軸を使用する時、巻き込まれるおそれがあるので回転物の周りにカバーや囲いを使用すること。使用しない時はカバーを装着すること。	
		 ロータ装着時、後進禁止 ハンドルがはね上がり、回転するツメに巻き込まれるおそれがあるので、後進に変速しないこと。	

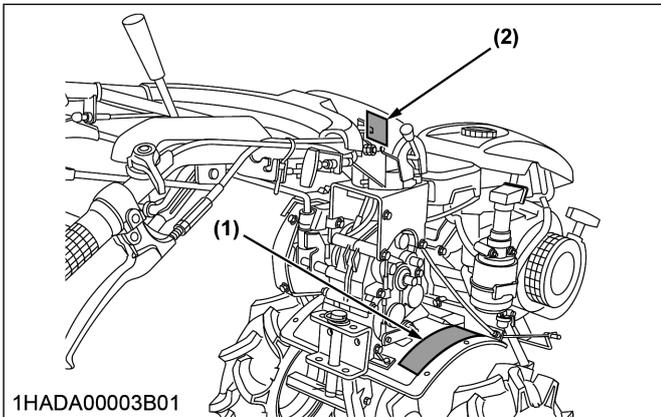
(2) 品番 KF082-4722-0

⚠️ 警告

操向クラッチ切替ボタン
 ハンドル正位置の時は
 「正」の文字が見えること。 

ハンドル逆位置の時は
 「逆」の文字が見えること。 

旋回時の傷害事故を防ぐため切替ボタンを正しく切替えること。



1HADAA00034A01jaJP

安全に作業をするために

2. 安全ラベルの手入れ

- 安全ラベルは、いつもきれいにして傷つけないようにしてください。
もし安全ラベルが汚れている場合は、石鹼水で洗い、やわらかい布で拭いてください。
- 高圧洗浄機で洗車すると、高圧水により安全ラベルが剥がれるおそれがあります。高圧水を直接、安全ラベルに掛けないでください。
- 破損や紛失した安全ラベルは、製品購入先に注文し、新しい安全ラベルに貼り替えてください。バッテリー、充電器のラベルは交換できません。
- 新しい安全ラベルを貼る場合は、貼付け面の汚れを完全に拭き取り、乾いた後、もとの位置に貼ってください。
- 安全ラベルが貼り付けられている部品を新品と交換するときは、安全ラベルも同時に交換してください。

サービスと保証

この製品には、保証書が添付してありますのでご使用前によくご覧ください。

ご相談窓口

警告

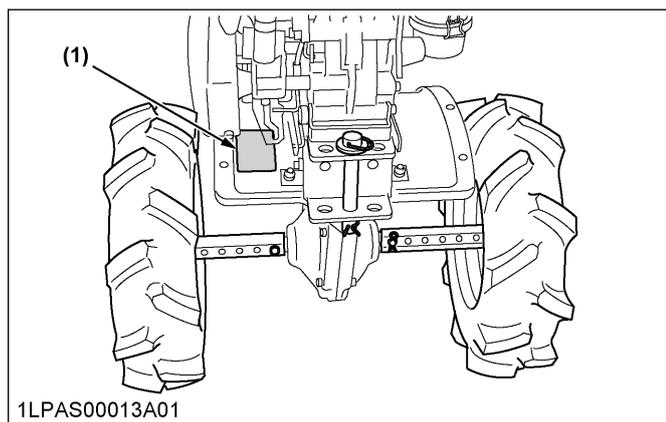
- 機械を改造しないでください。改造すると機能に影響を及ぼすばかりか、人身事故にもつながるおそれがあります。
改造した場合や取扱説明書に述べられた正しい使用目的と異なる場合は、メーカー保証の対象外になるのでご注意ください。
- トレーラ走行はできません。
小型特殊自動車の認定を受けておりません。
公道を走行すると、道路運送車両法に違反します。
公道を移動するときは、トラックなどの自動車に積んで運搬してください。

ご使用中の故障やご不審な点およびサービスについてのご用命は、お買い上げいただいた購入先にそれぞれ“ご相談窓口”を設けておりますのでお気軽にご相談ください。

その際、次の事項を併せてご連絡ください。

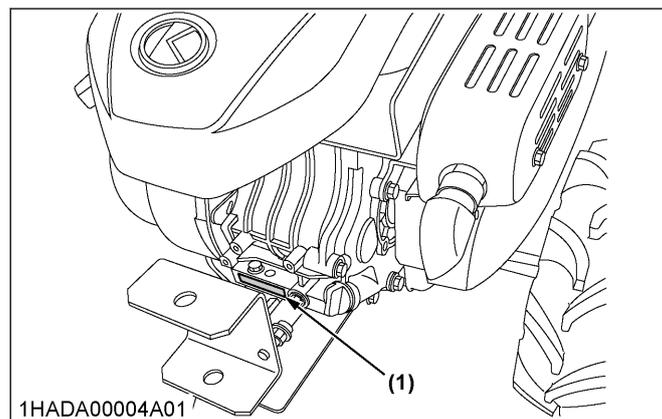
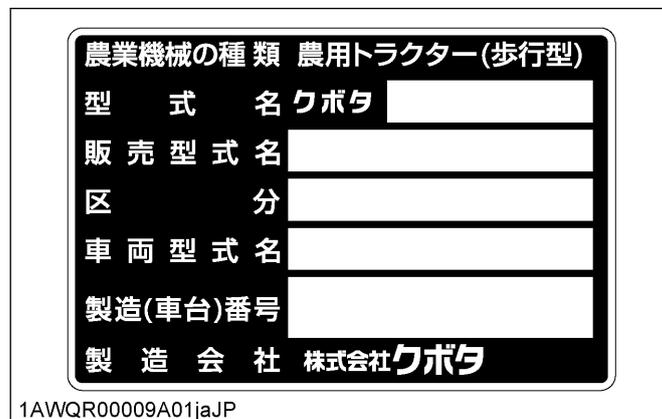
- 型式名と製造（車台）番号
- エンジン番号

なお、部品ご注文の際は、購入先に純正部品表を準備しておりますので、そちらでご相談ください。



(1) 銘板

銘板



(1) エンジン番号

認定番号

安全性検査の農機型式名および番号が必要な場合は、次の型式名および番号をご使用ください。

販売型式名	農機型式名	安全性検査合格番号
TA701N	TA701N	NARO 22/005
TA801N	TA801N	NARO 22/003
TA701N-SC	TA701N-SC	NARO 22/004
TA801N-SC	TA801N-SC	NARO 22/002

補修用部品の供給年限について

この製品の補修用部品の供給年限（期限）は製造打切り後9年といたします。

ただし、供給年限内であっても特殊部品につきましては、納期などについてご相談させていただく場合もあります。

補修用部品の供給は原則的に既記の供給年限で終了致しますが、供給年限経過後であっても部品供給のご要請があった場合には、納期および価格についてご相談させていただきます。

移動、運搬時の注意



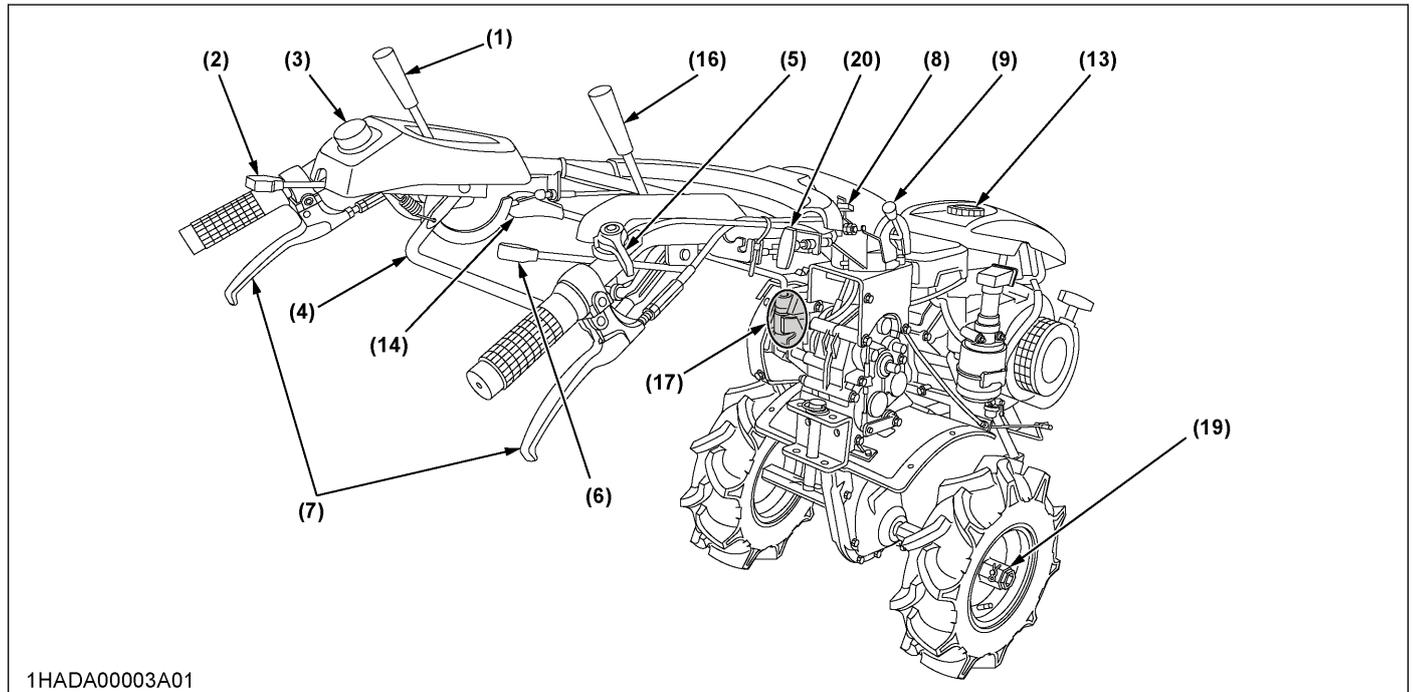
警告

- ・ トレーラ走行はできません。
小型特殊自動車の認定を受けておりません。
一般公道を走行すると、道路運送車両法に違反します。
一般公道を移動するときは、自動車（トラック）に積んで運搬してください。

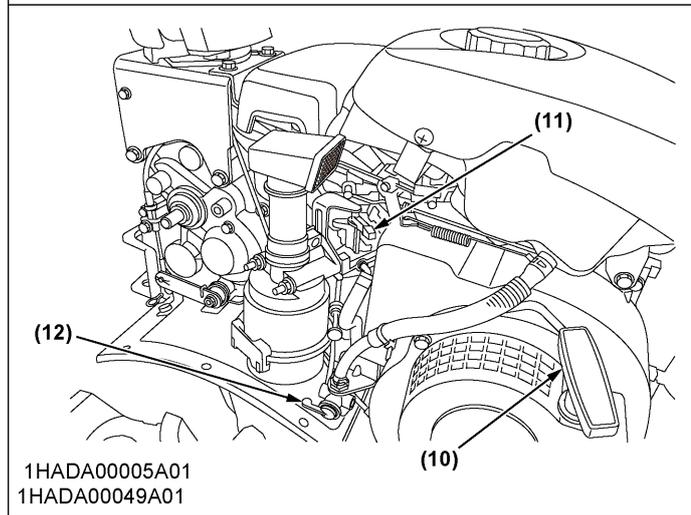
各部の名称と装置の取扱い

管理機の外観

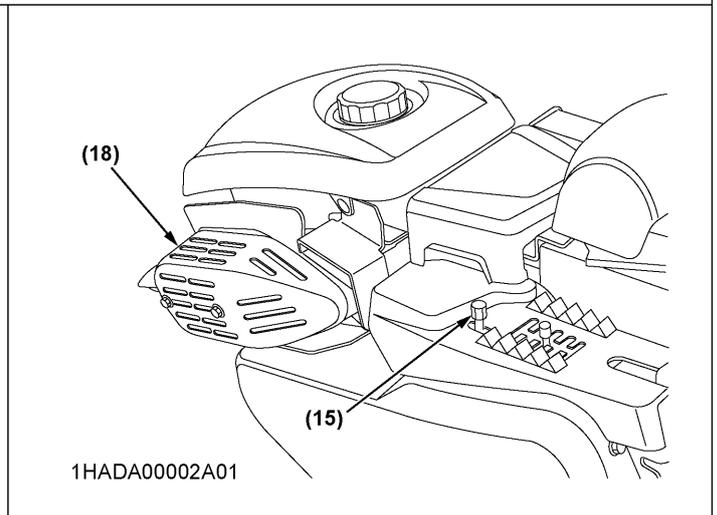
この項目では各部の名称と装置の取扱いを説明しています。



1HADA00003A01



1HADA00005A01
1HADA00049A01



1HADA00002A01

(1) 主クラッチレバー	18	(11) チョークレバー	21
(2) フィンガーレバー	18	(12) 燃料コックレバー	21
(3) メインスイッチ	18	(13) 燃料キャップ	22
(4) 補助主クラッチレバー	18	(14) 主変速レバー	22
(5) スロットルレバー	19	(15) 高速牽制ボルト	23
(6) ハンドル高さ調節レバー	19	(16) PTO レバー	23
(7) 操向クラッチレバー [SC仕様]	19	(17) PTO 牽制金具	24
(8) 操向クラッチ切替えボタン [SC仕様]	19	(18) マフラ	24
(9) ハンドル回転レバー	20	(19) 六角ホイールチューブ [N仕様以外]	24
(10) リコイルスタータ	21	(20) スタンドレバー	24

各部の名称とはたらき

1. 主クラッチレバー

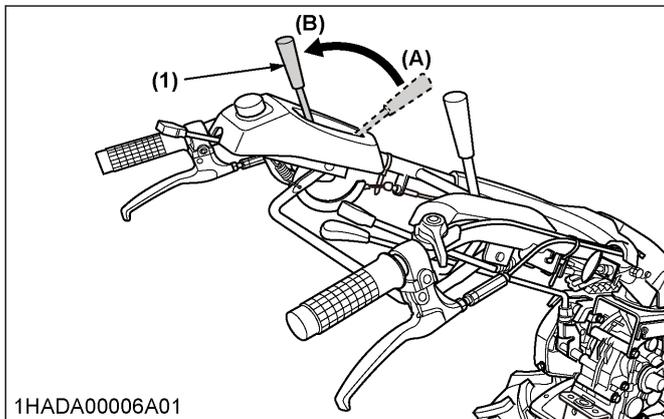


警告

- 傾斜地や後進するときなどは、ハンドルが持ち上がり危険な場合がありますので、主クラッチレバーをゆっくり操作してください。
- 狭い場所や後進の運転についてはエンジンの回転を低速にし、後方や上方など周りの安全を確かめ、ゆっくりと主クラッチレバーを操作してください。

エンジンからの動力を断続します。

- 主クラッチレバーを[入]位置にするとクラッチが入ります。
- 主クラッチレバーを[切]位置にするとクラッチが切れます。



(1) 主クラッチレバー

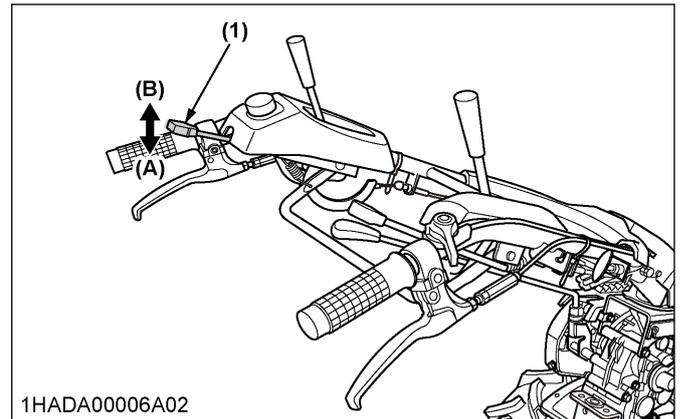
(A) 入位置
(B) 切位置

2. フィンガーレバー

フィンガーレバーは、エンジンからの動力を断続します。

主クラッチレバーとフィンガーレバーは連動しているので、どちらでもクラッチ操作ができます。

- フィンガーレバーを押し下げると、クラッチが入ります。
- フィンガーレバーを押し上げると、クラッチが切れます。



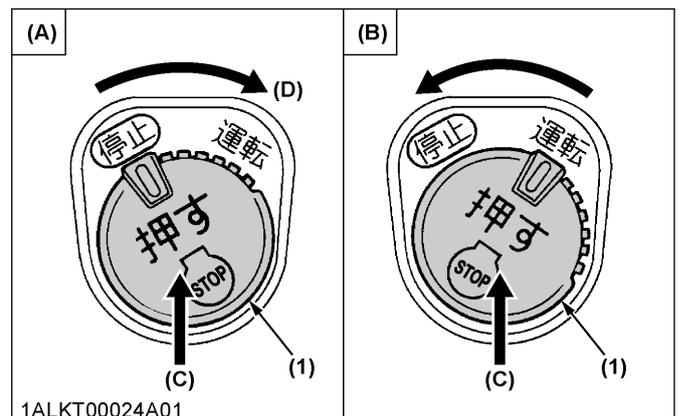
(1) フィンガーレバー

(A) 入位置
(B) 切位置

3. メインスイッチ

エンジンの運転または停止に使用します。

- メインスイッチを押しながら[運転]位置に回すと、エンジンの始動が可能になります。
- メインスイッチを押すと左に回って[停止]位置に戻り、エンジンが停止します。



(1) メインスイッチ

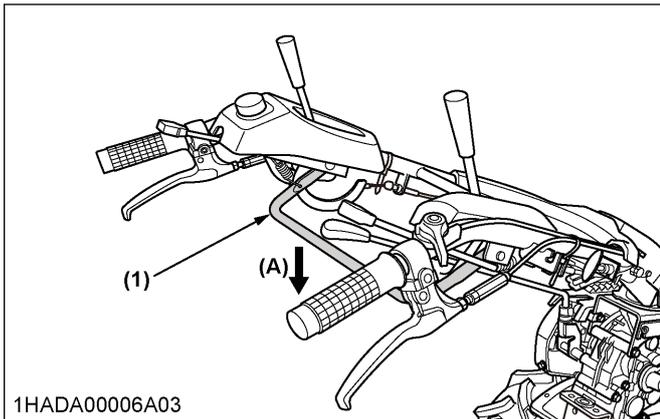
(A) 運転
(B) 停止
(C) 押す
(D) 回す

補足：

- 非常時はメインスイッチを押してください。エンジンが停止します。

4. 補助主クラッチレバー

非常時に補助主クラッチレバーを下方に押し下げると、主クラッチが切れ、走行とPTOがともに止まります。



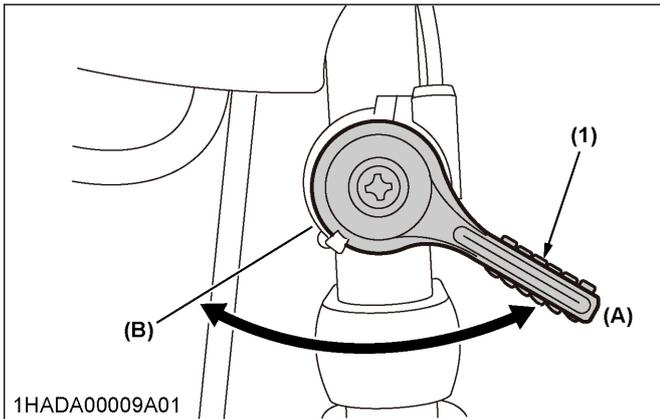
1HADA00006A03

(1) 補助主クラッチレバー (A) 切

5. スロットルレバー

スロットルレバーはエンジン回転の調整をします。

- ・ [高]の方向に回すとエンジン回転が上がります。
- ・ [低]の方向に回すとエンジン回転下がります。



1HADA00009A01

(1) スロットルレバー (A) 低 (B) 高

6. ハンドル高さ調節レバー



警告

- ・ 単体のとき、ハンドル高さ調節レバーの操作は、必ずスタンドを立てて行ってください。
- ・ ロータリ付きの場合、ロータリを持ち上げているときは、危険のため操作はしないでください。
- ・ 走行時または作業時は、危険のため操作はしないでください。
- ・ 操作するときは、必ず主クラッチを切り、周囲を確認するとともにゆっくり操作し、操作後はハンドルが確実に固定されているか確認してください。

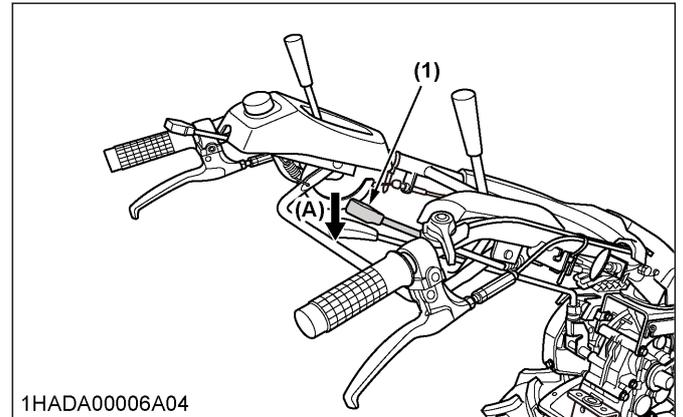
補足：

- ・ 調節するときは、ハンドルを少し持ち上げた状態でレバーを押してください。

ハンドルの高さは4段の調節ができます。

- ・ ハンドル高さ調節レバーを押すとハンドルが上下に自由に動きます。

- ・ ハンドル高さ調節レバーを離すと固定されます。このときハンドルが固定されていることを確認してください。



1HADA00006A04

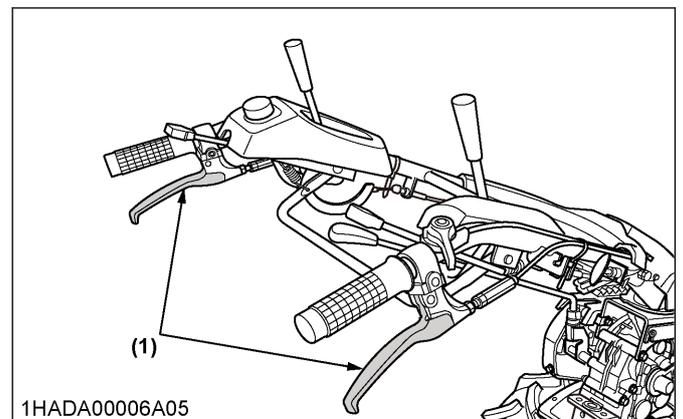
(1) ハンドル高さ調節レバー (A) 押す

7. 操向クラッチレバー [SC仕様]



警告

- ・ 操向クラッチレバーは、車両への積み下ろし時または坂道では、絶対に操作しないでください。
- ・ 右側のレバーを握ると右側に旋回します。
- ・ 左側のレバーを握ると左側に旋回します。



1HADA00006A05

(1) 操向クラッチレバー

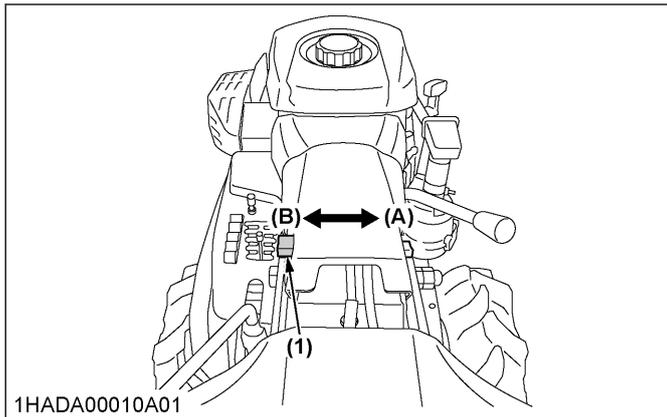
8. 操向クラッチ切替えボタン [SC仕様]



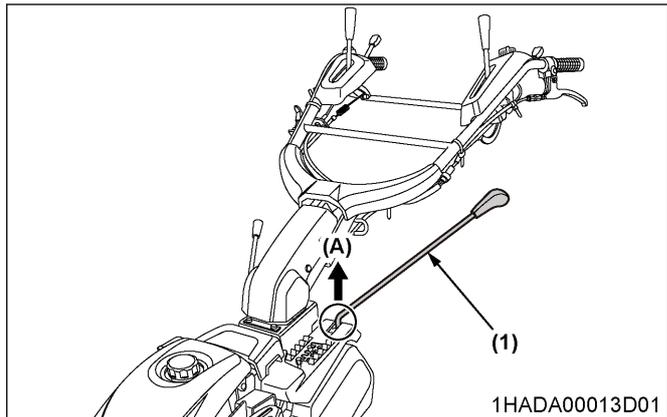
警告

- ・ 切替え後、正常に操向クラッチレバーが作動するか確認してください。

ハンドル位置を変えるときは、必ず同時に操向クラッチ切替えボタンもハンドル位置に応じた位置に切り替えてください。



1HADA00010A01
(1) 操向クラッチ切替えボタン (A) ハンドル正位置
(B) ハンドル逆位置



1HADA00013D01
(1) 主変速レバー (A) 持ち上げて調節

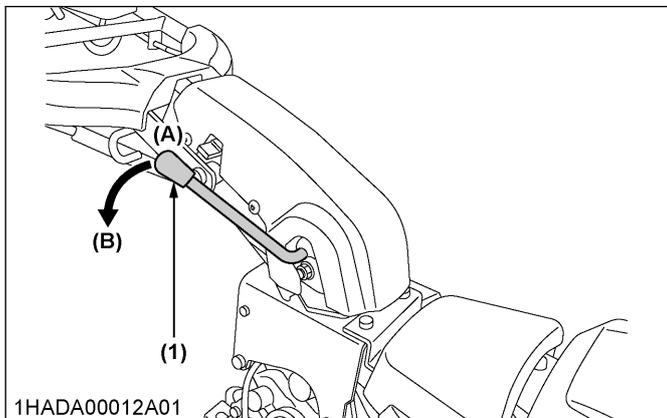
9. ハンドル回転レバー



警告

- ハンドルを回転する際は、必ず次の注意事項を守ってください。
 - エンジンを必ず停止し、平たんな場所にスタンドを立て、安定させて行ってください。
 - 回転後に各レバーが正常に動くか確認してください。
 - ハンドル“正”位置での作業時には、必ず PTO 牽制金具をもと（“入”位置）に戻してください。
 - ハンドルを“正”位置、“逆”位置にした際は、必ず操向クラッチ切替えボタンも切り替えてください。[SC仕様]

1. 主変速レバーを“中立”位置にします。
2. ハンドル回転レバーを[解除]方向に操作することで、ハンドルを“正”位置または“逆”位置に回転することができます。
 - ハンドルが“正”位置の場合は、右側へ2段または左側へ1段、角度を調節することができます。
 - ハンドルが“逆”位置の場合は、右側へ1段または左側へ1段、角度を調節することができます。

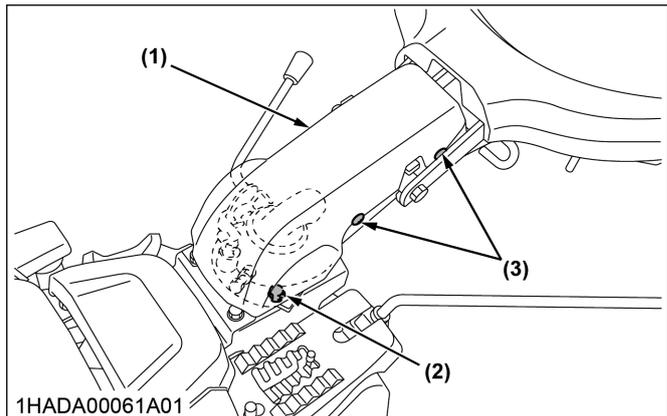


1HADA00012A01
(1) ハンドル回転レバー (A) ロック
(B) 解除

3. 主変速レバーの根元を持ち上げて、ハンドルを調節した位置に合わせてセットします。

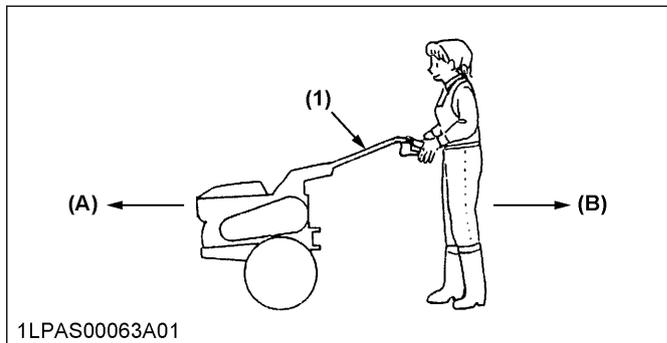
重要:

- ハンドル“正”位置および“逆”位置の中央位置で長期間使用するときは、ハンドルカバー固定ネジ4か所をゆるめハンドルカバーを取り外し、固定ボルトを必ず締め付けてください。固定ボルト締め付け後は、ハンドルカバーをもとに戻してください。固定ボルトは付属品の中に入っています。



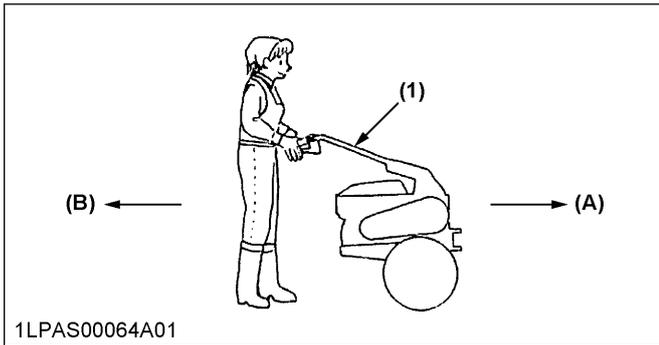
1HADA00061A01
(1) ハンドルカバー (2) 固定ボルト
(3) ハンドルカバー固定ネジ

ハンドル正位置



1LPAS00063A01
(1) ハンドル (A) 前進
(B) 後進

ハンドル逆位置



1LPAS00064A01

(1) ハンドル (A) 前進 (B) 後進

補足：

- ハンドル逆位置にすると後進牽制が掛かり、高速段での後進走行が制限されます。

10. リコイルスタータ

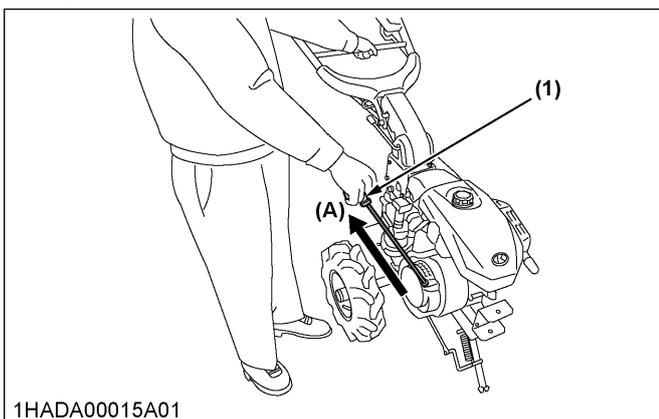


警告

- リコイルスタータを引っ張る方向に人がいないか、突起物や障害物が無いかを確かめてから始動してください。傷害事故のおそれがあります。

エンジン始動時に使用します。
主クラッチレバーを[切]位置に、主変速レバーを“中立”に、メインスイッチを[運転]位置にして、リコイルスタータハンドルを引っ張ると始動します。

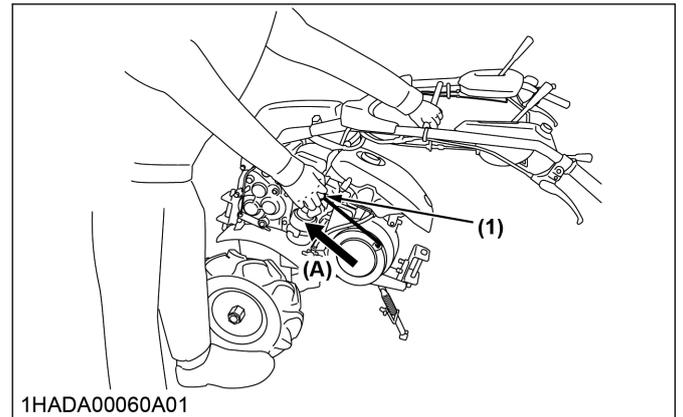
ハンドル正位置時



1HADA00015A01

(1) リコイルスタータハンドル (A) 引っ張る

ハンドル逆位置時



1HADA00060A01

(1) リコイルスタータハンドル (A) 引っ張る

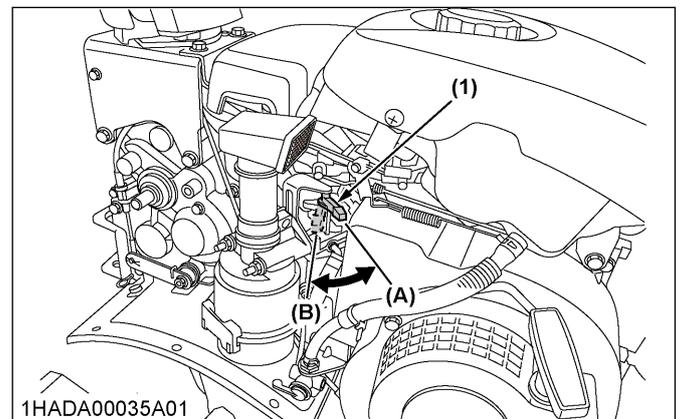
補足：

- 主クラッチレバーは必ず[切]位置にして、主変速レバーを“中立”にして始動してください。

11. チョークレバー

エンジンが掛かりにくいときに使用します。

1. 始動時、“始動”位置にレバーを切り換えます。
2. 始動後、“運転”位置にレバーを切り換えます。



1HADA00035A01

(1) チョークレバー (A) 運転 (B) 始動

12. 燃料コックレバー

重要：

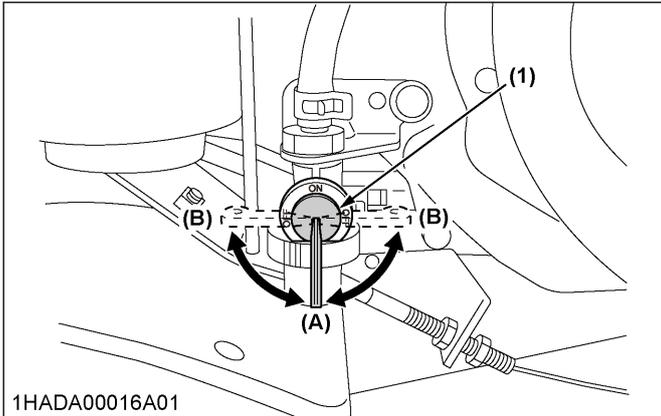
- 燃料コックレバーを開いた状態で、前に倒したり車両で運搬すると、エンジン始動が困難になる場合があります。

燃料タンクからエンジンへ燃料の“供給”と“停止”をします。

エンジン停止後、必ず燃料コックレバーを[OFF]位置(閉)にしてください。

1. [ON]位置は、燃料コックを開き、エンジンへ燃料を供給します。

2. [OFF]位置は、燃料コックを閉じ、エンジンへの燃料の供給を停止します。



1HADA00016A01
(1) 燃料コックレバー (A) ON 位置 (B) OFF 位置

13. 燃料タンクと燃料キャップ

警告

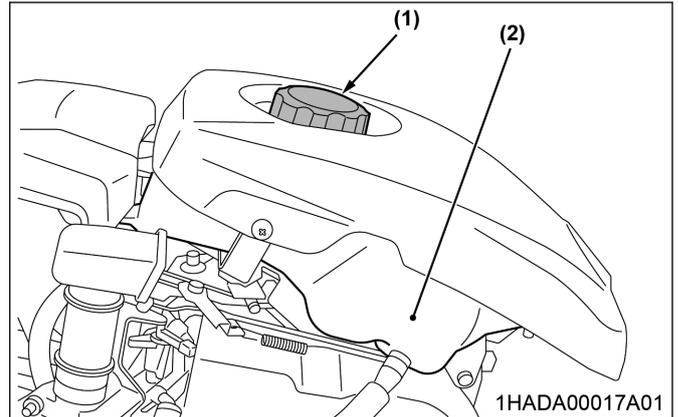
- 給油するときはエンジンを停止し、エンジンやマフラがじゅうぶん冷えてから行ってください。
- 火気厳禁。くわえ煙草での給油は絶対にしないでください。
- 燃料がこぼれたときはきれいに拭き取ってください。
- 燃料は規定量（赤色ゲージ）以上入れないでください。
- 給油後、燃料キャップはガソリンが漏れないようしっかり締めてください。
- これらの作業をおこたると、爆発や火災のおそれがあります。

燃料タンクの下限まで液面がきたら燃料を補給してください。
燃料キャップを外し、給油口から自動車用レギュラーガソリンを補給します。

重要：

- 燃料タンク内にゴミや水およびその他異物が混入しないように、注意してください。

規定量	2.8 L
-----	-------



1HADA00017A01
(1) 燃料キャップ (2) 燃料タンク

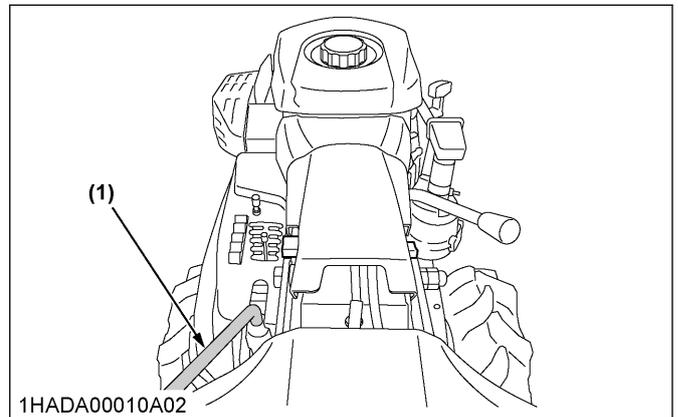
14. 主変速レバー

警告

- エンジンを始動する前に、必ず主変速レバーを“中立”にしてください。
- 変速操作は主クラッチを切ってから行ってください。
- 走行中は変速しないでください。
- 前進 6 速を使用するときは、高速牽制ボルトをゆるめ、[切]位置に切り替えてください。使用後は必ず[入]位置に戻して、高速牽制ボルトを確実に固定してください。

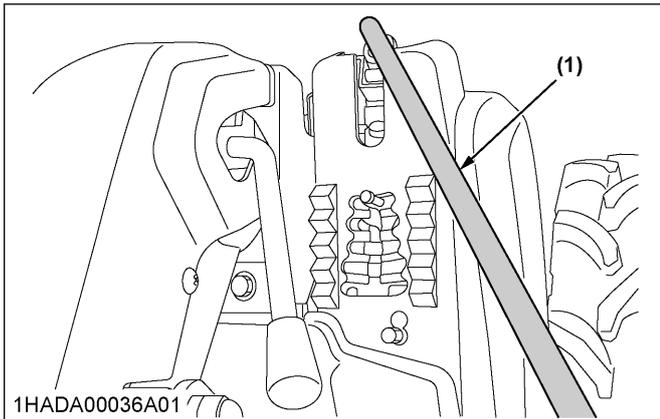
変速は案内板の表示に合わせてシフトします。

ハンドル正位置時



1HADA00010A02
(1) 主変速レバー

ハンドル逆位置時



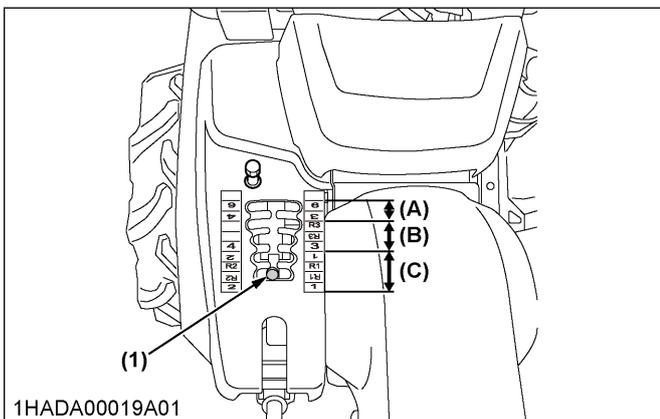
(1) 主変速レバー

(車速については、走行速度一覧表 (54 ページ) を参照)
変速段数は次のとおりです。

		TA701N、TA801N
ハンドル正位置時	前進	6 段
	後進	3 段
ハンドル逆位置時	前進	4 段
	後進	3 段

14.1 主変速レバーの操作のしかた

- レバー根元部を持ち上げて回転します。
- 変速は案内板の表示位置に合わせてシフトします。



(1) レバー

- (A) 高速位置
- (B) 中速位置
- (C) 低速位置

補足：

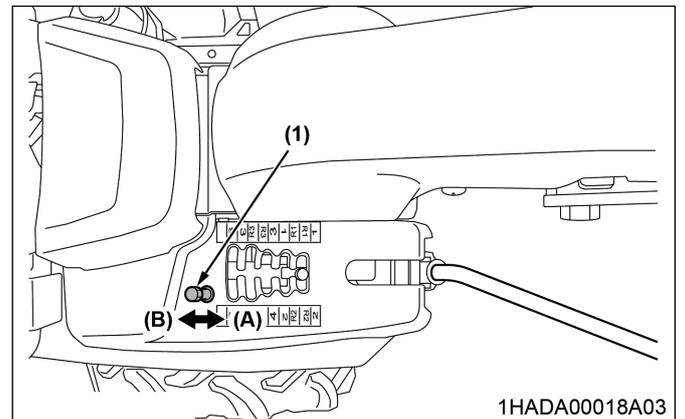
- [R]は後進を表します。

15. 高速牽制ボルトの取扱い



警告

- 歩行時、前進 6 速はたいへん速く機体が飛び出しケガをするおそれがありますので、草刈りロータ (直径 300 mm) 作業以外は、必ず高速牽制ボルトを“入”位置に固定してください。



(1) 高速牽制ボルト

- (A) 入
- (B) 切

補足：

- 高速牽制ボルトが“入”位置のときは、主変速レバーを前進 6 速に変速できません。

16. PTO レバー

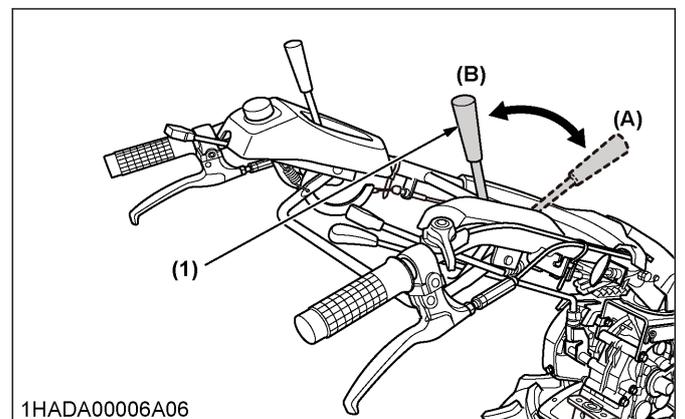


警告

- PTO を使用しないときは、PTO 軸カバーを装着してください。

ロータリに伝わる動力を断続します。

- レバーを[入]位置にすると、ロータリへの動力伝達が入り、回転します。
- レバーを[切]位置にすると、ロータリへの動力伝達が切れ、回転が止まります。



(1) PTO レバー

- (A) 入
- (B) 切

補足：

- “R（後進）”時には、PTO レバーは[入]位置に入りますが、ロータリは回転しません。
- PTO レバーが[入]の位置では、“R（後進）”に変速できません。

17. PTO 牽制金具の取扱い

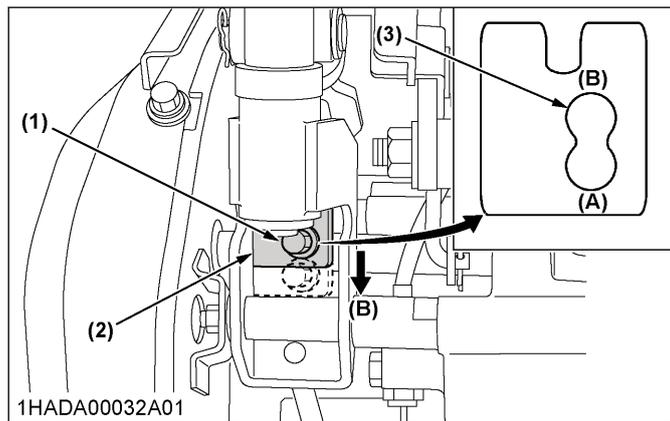
警告

- ハンドル正位置での作業時には、必ず PTO 牽制金具をもと（“入”位置）に戻してください。
- PTO 牽制金具のボルトは、ハンドル位置に合わせて切り替えたあと、確実に締め付けてください。

PTO レバーが[入]位置では、“R（後進）”に変速できません。また、“R（後進）”時には、PTO レバーは[入]位置に入りますが、ロータリは回転しません。
 ハンドル“逆”位置の前進で作業をするときは、PTO 牽制金具を“切”位置にしてください。

重要：

- ボルトを締め付けるときは、必ずボルトの段付部を PTO 牽制金具の穴部に入れてください。

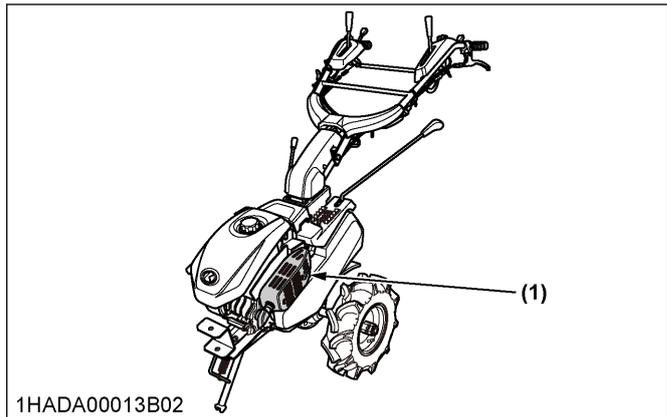


1HADA00032A01
 (1) ボルト (A) 入
 (2) PTO 牽制金具 (B) 切
 (3) 穴部

18. マフラ

警告

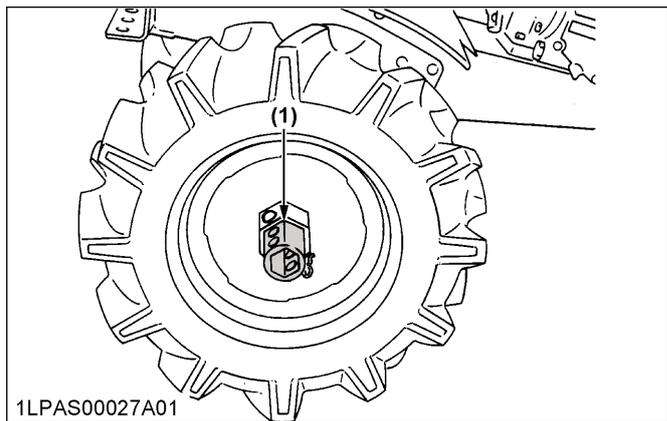
- マフラを手で触れないでください。ヤケドをするおそれがあります。



1HPADA00013B02
 (1) マフラ

19. 六角ホイールチューブ [N仕様以外]

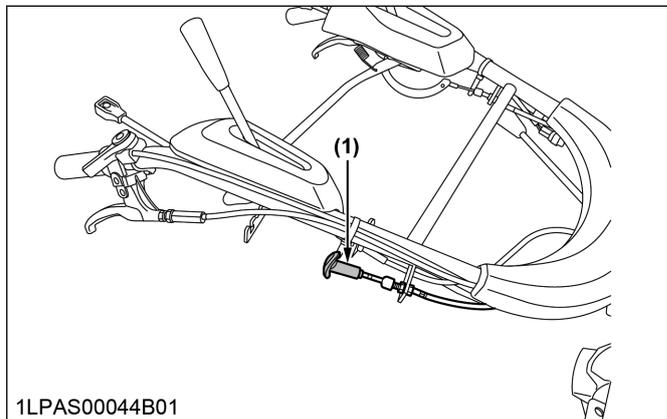
作業に応じて輪距の調節ができます。
 (詳細は、輪距の調節、車輪交換のしかた (36 ページ) を参照)



1LPAS00027A01
 (1) 六角ホイールチューブ

20. スタンド (スタンドレバー) の取扱い

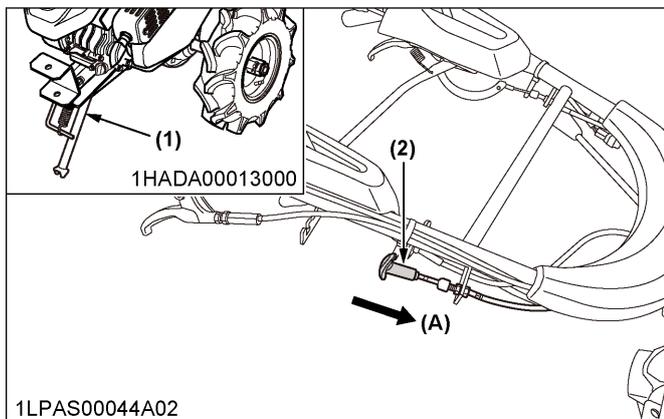
必要に応じてスタンドを出し入れすることができます。
 スタンドを出し入れするときは、スタンドのレバーで行ってください。



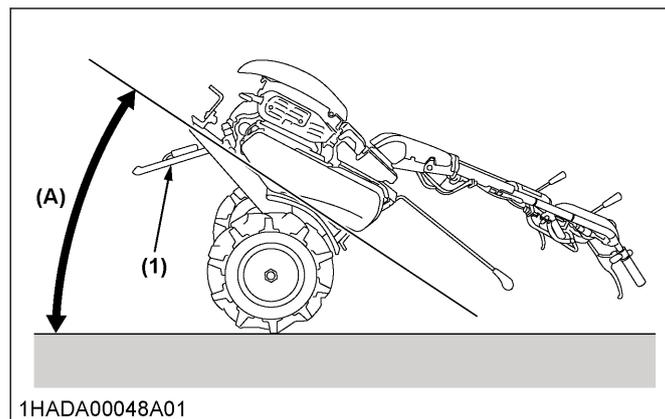
1LPAS00044B01
 (1) スタンドレバー

20.1 スタンドを立てる方法

1. スタンドレバーを前に出します。
スタンドが立ちます。



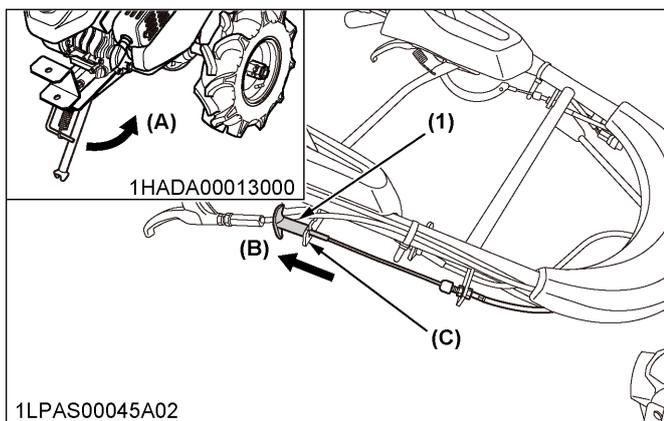
- (1) スタンド (A) 出す
(2) スタンドレバー



- (1) スタンド (A) 45度

20.2 スタンドの格納のしかた

1. スタンドレバーを手前に引き、スタンドレバー固定位置に固定することでスタンドが格納します。



- (1) スタンドレバー (A) 格納
(B) 引く (C) スタンドレバー固定位置

重要：

- オイル漏れのおそれがありますので、本機を 45 度以上傾けないでください。

作業前の点検



警告

- 平坦な場所に機械を安定させて点検してください。
- 点検中はエンジンを停止してください。

調子よく作業するために



警告

- 給油するときはエンジンを停止し、エンジンやマフラがじゅうぶん冷えてから行ってください。
- 火気厳禁。くわえ煙草での給油は絶対にしないでください。
- 燃料がこぼれたときはきれいに拭き取ってください。
- 燃料は規定量（赤色ゲージ）以上入れないでください。
- 給油後、燃料キャップはガソリンが漏れないようしっかり締めてください。
- 前述の作業をおこたると、爆発や火災のおそれがあります。

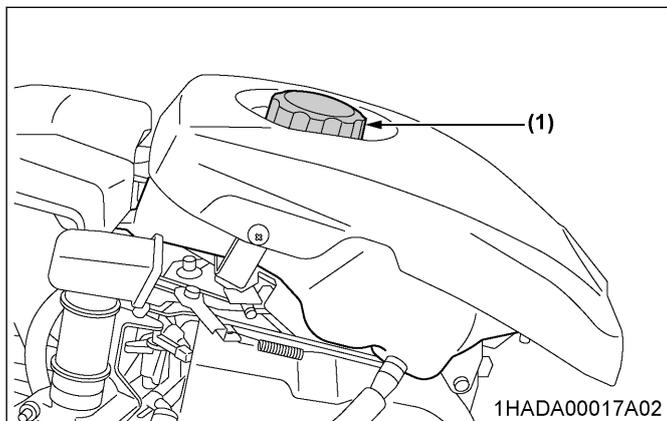
(詳細は、燃料の給油（41 ページ）を参照)

燃料の補給

- スタンドを立てた状態で燃料を入れてください。
- 自動車用レギュラーガソリンを補給してください。
- 燃料キャップを外し、給油口内の赤色ゲージを超えないように補給してください。

重要:

- 水やゴミを混入しないようにしてください。

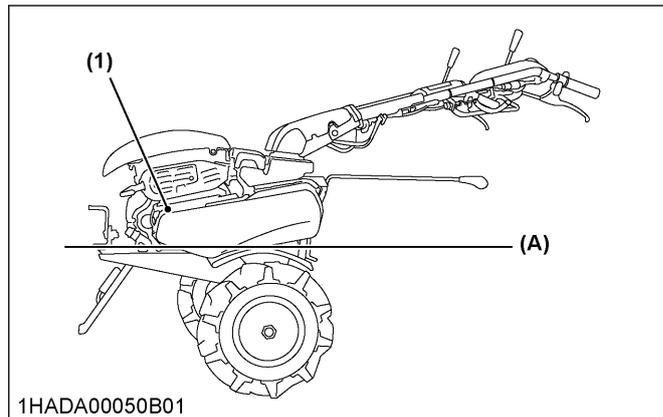


(1) 燃料キャップ

タンク容量	約 2.8 L
-------	---------

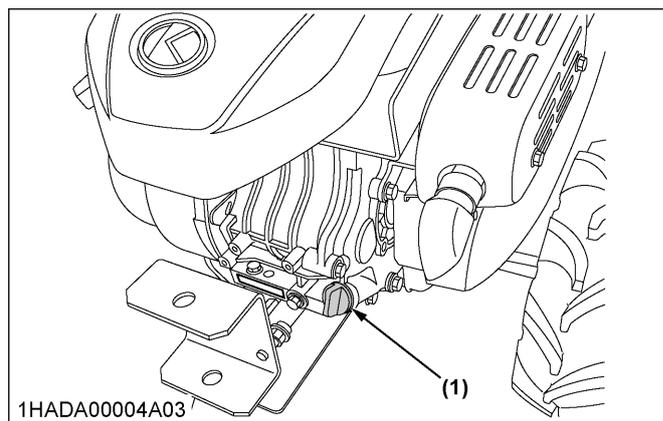
エンジンオイルの点検

- エンジンを水平にして、オイルゲージで規定量あるか点検します。

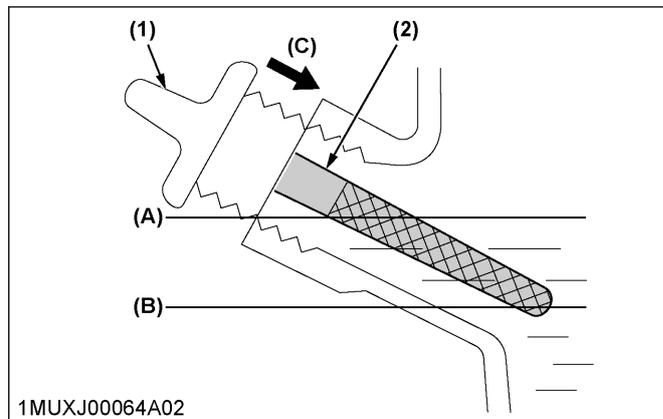


(1) エンジン

(A) エンジンフレームが水平な状態



(1) 給油口（エンジンオイル点検）



(1) 給油プラグ
(2) オイルゲージ

(A) オイルが溢れない位置（上限）
(B) ゲージの先端（下限）
(C) ねじ込まずに差し込む

補足：

- 油量の点検時は、給油プラグをねじ込まずに、差し込んで点検してください。

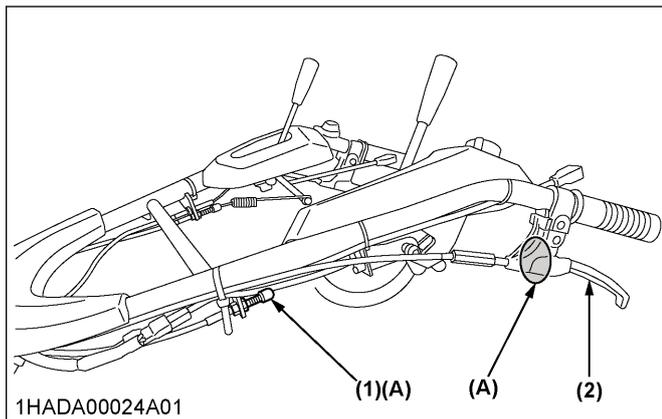
- 不足している場合は、ガソリンエンジン用のクボタ純オイルスーパー G 10W-30 を補充します。
(詳細は、エンジンオイルの交換 (42 ページ) を参照)

ミッションオイルの点検

- エンジンを水平にして、ミッションオイルが検油プラグ位置まであるか点検します。
- 不足している場合は、ミッション用のクボタ純オイルスーパー UDT-2 を補充します。
(詳細は、ミッションオイルの交換 (43 ページ) を参照)

各ケーブルの点検

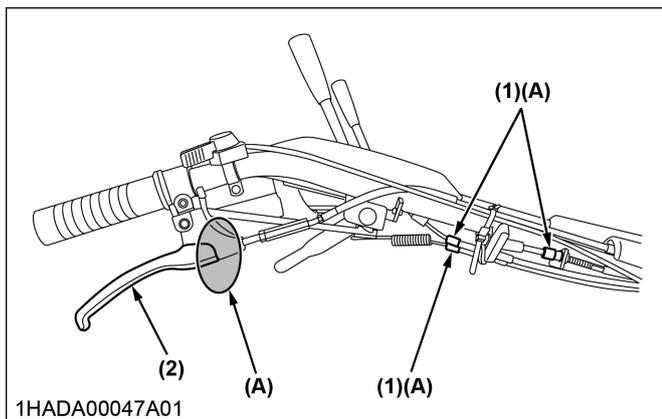
- ケーブルのキャップを外し、エンジンオイルを注油します。
- 操向クラッチレバーケーブルのみレバーを握り、そこから見える給油口にエンジンオイルを注油します。



1HADA00024A01

- (1) ケーブルキャップ
- (2) 操向クラッチレバー

(A) 注油



1HADA00047A01

- (1) ケーブルのキャップ
- (2) 操向クラッチレバー

(A) 注油

エアクリーナの点検

- エアクリーナエレメントにゴミが付着していないか点検します。
- 汚れている場合は清掃します。

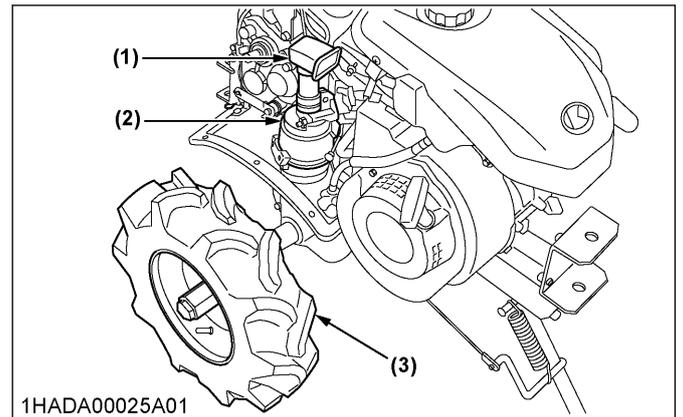
(詳細は、エアクリーナエレメントの清掃とオイル交換 (43 ページ) を参照)

タイヤの点検

- 空気が抜けていないか、また損傷が無い点検します。

その他の点検

- エンジン、ミッションなどから油漏れが無い点検します。
- 各しゅう動部へエンジンオイルを注油します。
- 各部の損傷およびボルト、ナットのゆるみが無い点検します。



1HADA00025A01

- (1) ミッションオイル給油プラグ
- (2) エアクリーナ
- (3) タイヤ

安全に作業するために**警告**

- タイヤの空気圧は、取扱説明書に記載している規定圧力を、必ず守ってください。空気の入れすぎは、タイヤ破裂のおそれがあり、死傷事故を引き起こす原因になります。
- タイヤに傷があり、その傷がコード (糸) に達している場合は、使用しないでください。タイヤ破裂のおそれがあります。
- タイヤ、チューブ、リムなどの交換、修理は、必ず購入先にご相談ください。特別教育を受けた人が行うように、法で決められています。

主クラッチレバー、PTO レバー

- 各クラッチ、レバーの[入]、[切]が確実に行えるか点検します。
- 不良の場合は調整、注油します。
(詳細は、定期点検箇所一覧表 (40 ページ) を参照)

補助主クラッチレバー

- [切]が確実に行えるか点検します。

フィンガーレバー

- フィンガーレバーのローラ部の清掃をこまめに行います。

作業前の点検

主変速レバー

- 変速が案内板の表示位置で確実にできるか点検します。

高速牽制、PTO 牽制

- 牽制ボルトおよび金具の状態を確認します。

電気配線

- 被覆が溶けたり被れていないか、また配線がはさまれていないか点検します。

エンジン周辺部

- ファンカバーやマフラカバー内にゴミやワラクズの付着が無い点検します。

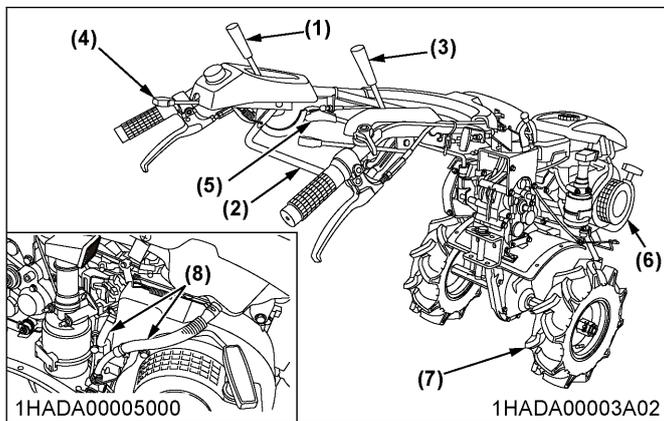
燃料

- タンクや燃料チューブからガソリン漏れが無い点検します。
漏れがある場合は、修理点検します。
- 自動車用レギュラーガソリンを補給します。
- タンク容量の規定量（赤ゲージ位置）以上入れないようにします。
- 給油後、ガソリンが漏れないよう確実に燃料キャップを締めます。

タイヤ空気圧

- 空気が抜けていないか、また、損傷が無い点検します。

適正空気圧	K 仕様 (3.50-7)	120 kPa (1.2 kgf/cm ²)
	J 仕様 (4.00-7)	120 kPa (1.2 kgf/cm ²)
	W 仕様 (16×7.00-8)	140 kPa (1.4 kgf/cm ²)



- | | |
|----------------|------------|
| (1) 主クラッチレバー | (5) 主変速レバー |
| (2) 補助主クラッチレバー | (6) ファンカバー |
| (3) PTO レバー | (7) タイヤ |
| (4) フィンガーレバー | (8) 燃料チューブ |

運転のしかた

新車時の扱いかた

1. 管理機の準備

工場出荷時は、エンジンオイル、ミッションオイル、エアクリナーのオイルが入っていません。

日常点検方法に従い確認し、必要に応じて給油してください。

(詳細は、日常点検 (40 ページ) を参照)

2. ならし運転

最初の 10 時間までは各部になじみをつけるため、エンジンを高速回転させたり、過酷な使用はさけ無理をさせないでください。

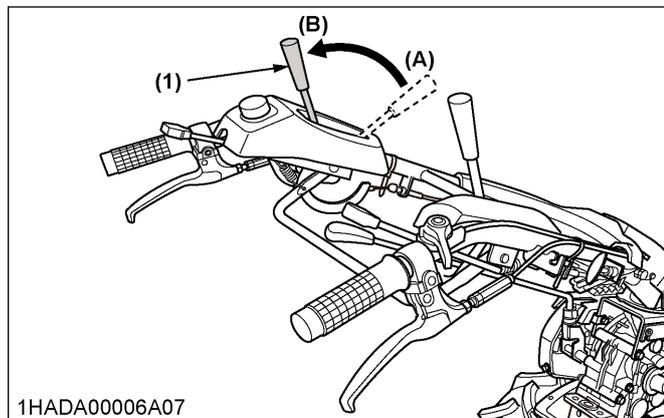
エンジンの始動と停止のしかた

1. 始動のしかた

警告

- マフラの排気出口方向に、燃えやすい物を置かないでください。火災のおそれがあります。
- リコイルスタータを引っ張る方向に人がいないか、突起物や障害物が無いか確かめてから始動してください。傷害事故のおそれがあります。
- エンジンの運転中は、危険なので操作レバー以外の物 (マフラなど) には、触れないでください。ヤケドや傷害事故のおそれがあります。
- 夜間作業はしないでください。
- エンジンを始動するときは、主クラッチレバーを必ず [切] 位置にしてください。

1. 主クラッチレバーを [切] 位置にします。



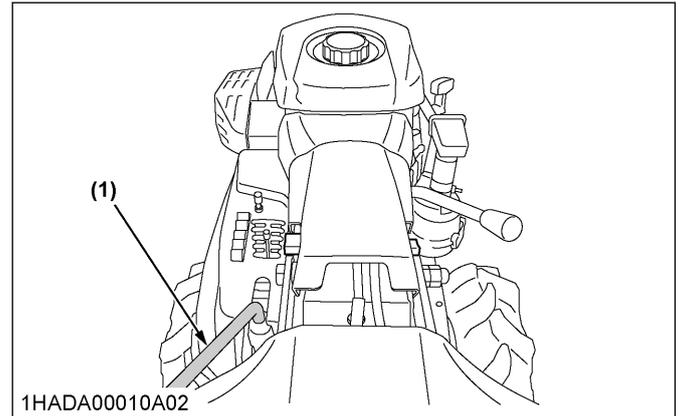
(1) 主クラッチレバー

(A) 入
(B) 切

補足：

- 主クラッチレバーが [入] 位置では、始動率制装置が作動してエンジンは始動しません。

2. 主変速レバーを “中立” 位置にします。

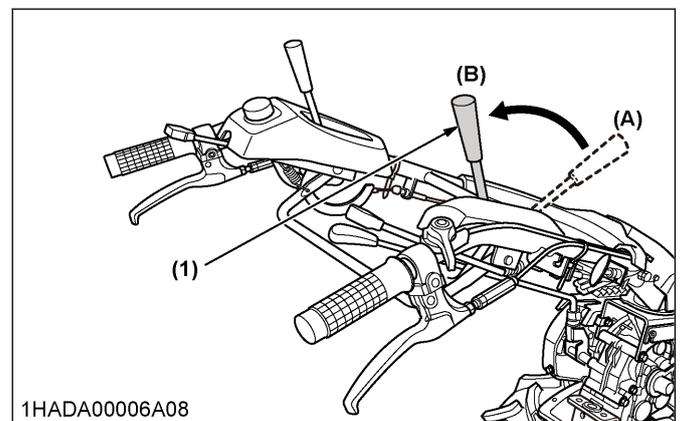


(1) 主変速レバー

補足：

- イラストはハンドル正位置時です。

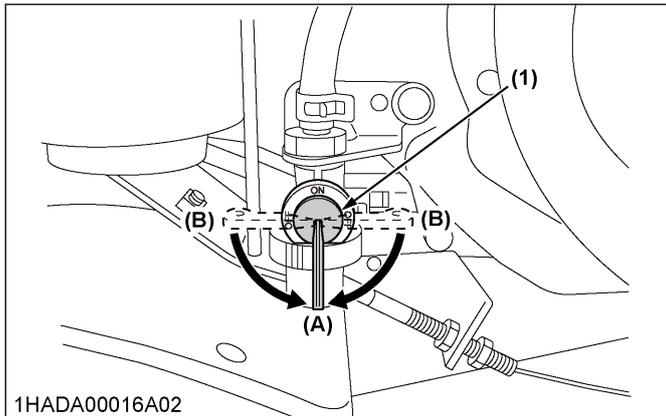
3. PTO レバーを [切] 位置にします。



(1) PTO レバー

(A) 入
(B) 切

4. 燃料コックレバーを[ON]（燃料コック開）位置にします。

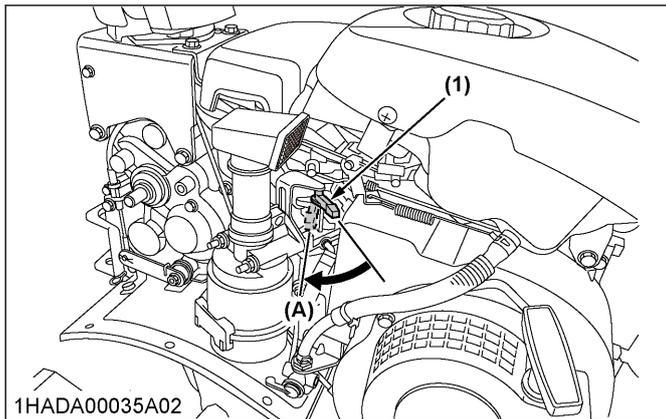


1HADA00016A02

(1) 燃料コックレバー

(A)	ON	燃料コック開
(B)	OFF	燃料コック閉

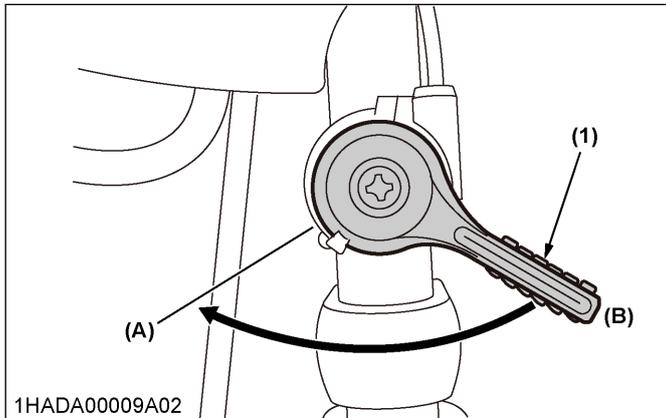
5. チョークレバーを[始動]の位置に切り換えます。



1HADA00035A02

(1) チョークレバー (A) 始動

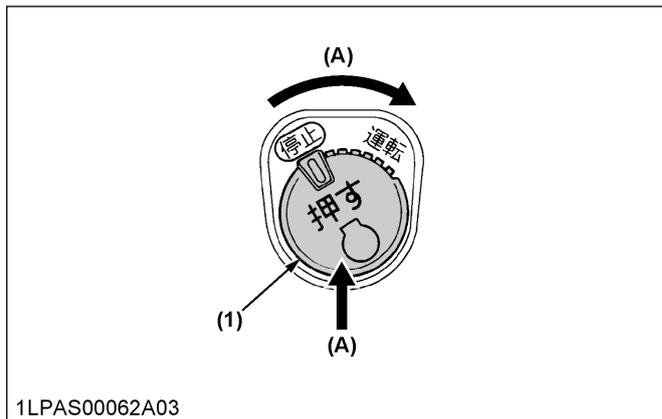
6. スロットルレバーを[高]位置にします。



1HADA00009A02

(1) スロットルレバー (A) 高 (B) 低

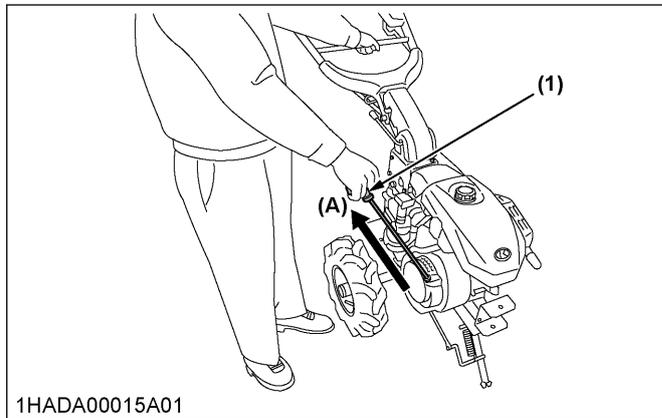
7. メインスイッチを押しながら[運転]位置まで回します。



1LPAS00062A03

(1) メインスイッチ (A) 押しながら回す

8. リコイルスタータハンドルを握って、引っ張ります。エンジンが始動したら、リコイルスタータハンドルを静かにもとに戻します。



1HADA00015A01

(1) リコイルスタータハンドル (A) 引っ張る

9. エンジンの運転状態を確認しながら、チョークレバーを徐々に[運転]の位置に戻します。
10. 2分～3分暖気運転をしてから、作業を始めます。

重要：

- 運転中はリコイルスタータを引かないでください。

補足：

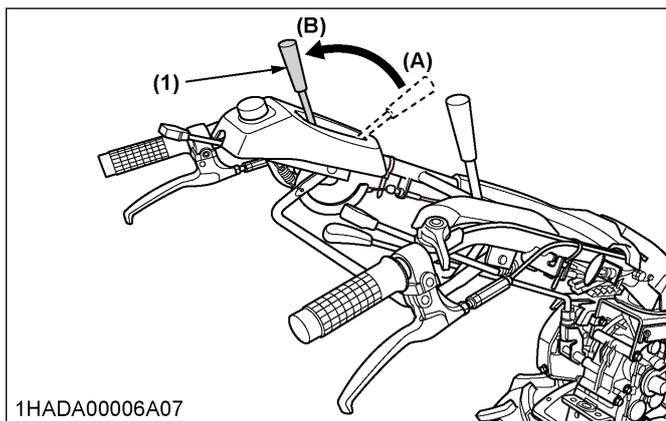
- 主クラッチレバーが[入]位置の状態ではエンジンを始動できません。

2. 停止のしかた

警告

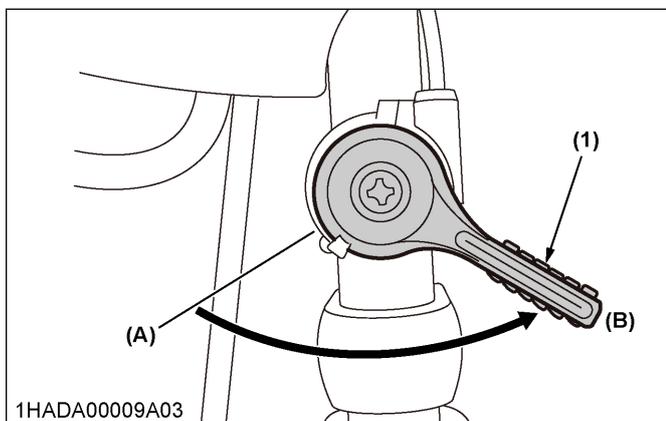
- 停止直後はしばらくマフラが熱くなっています。手を触れないでください。ヤケドのおそれがあります。

1. 主クラッチレバーを**[切]**位置にします。



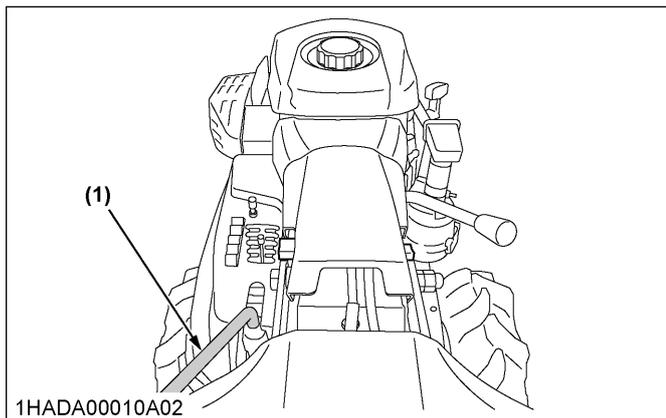
(1) 主クラッチレバー (A) 入 (B) 切

2. スロットルレバーを**[低]**位置にします。



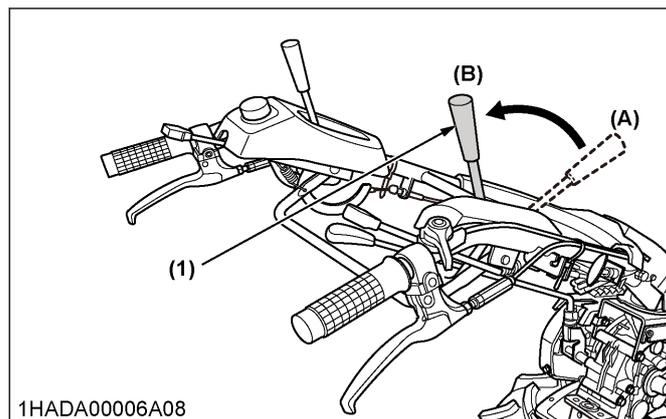
(1) スロットルレバー (A) 高 (B) 低

3. 主変速レバーを“中立”位置にします。



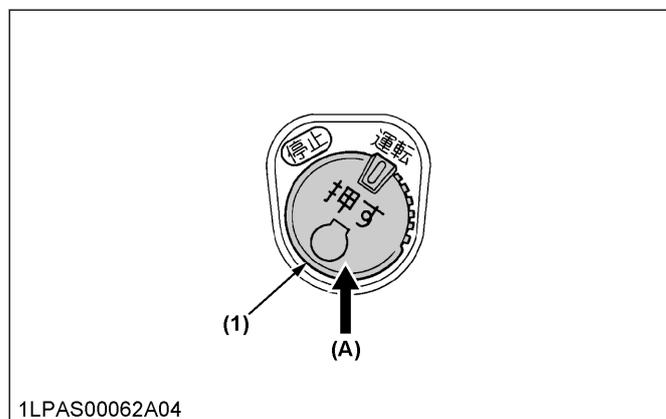
(1) 主変速レバー

4. PTO レバーを**[切]**位置にします。



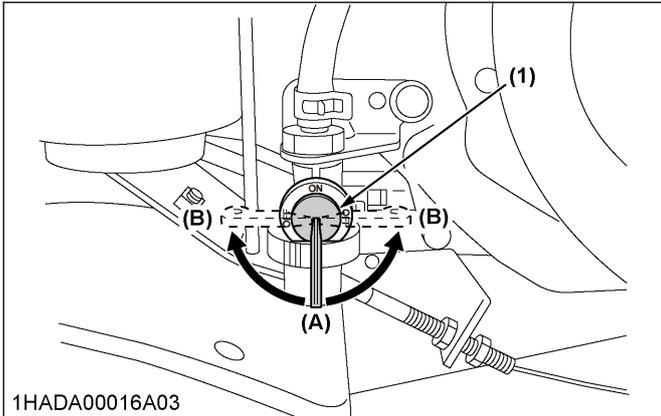
(1) PTO レバー (A) 入 (B) 切

5. メインスイッチを押します。
左に回って**[停止]**位置に戻り、エンジンが停止します。



(1) メインスイッチ (A) 押す

6. 燃料コックレバーを[OFF]（燃料コックレバー閉）位置にします。



1HADA00016A03
(1) 燃料コックレバー

(A)	ON	燃料コック開
(B)	OFF	燃料コック閉

重要：

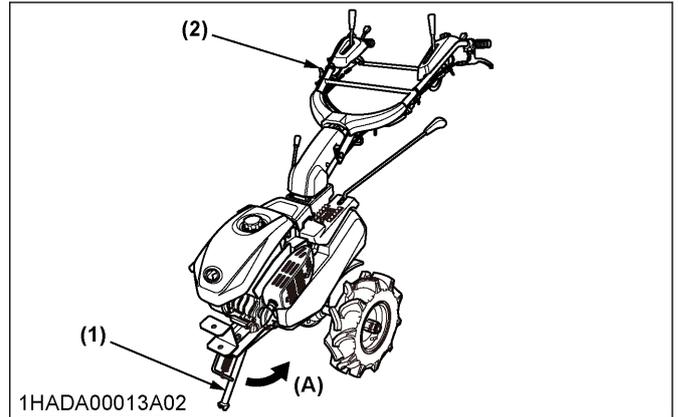
- 燃料コックレバーを開いたままの状態で行き倒れたり、保管したり、車両で運搬したりすると、エンジン始動が困難となる場合があります。また、クランクケース内へガソリンが流入することもあります。

発進のしかた

警告

- 運転中は周囲に人を近づけないでください。傷害事故のおそれがあります。
- 傾斜地での運転や後進するときなどは、ハンドルが持ち上がり、体や首をはさまれるなどのおそれがありますので、主クラッチをゆっくり操作してください。
- 狭い場所での運転や後進の運転については、エンジンの回転を低速にし、後方や上方などまわりの安全を確かめゆっくりと主クラッチ操作をしてください。
- 後進牽制が確実に作動するか確認してください。
- 後進牽制している変速位置には、無理にレバー操作をしないでください。
- ロータ装着時は後進禁止です。

1. スタンドを格納します。
スタンドを格納するとき、スタンドのレバーを引き、格納してください。

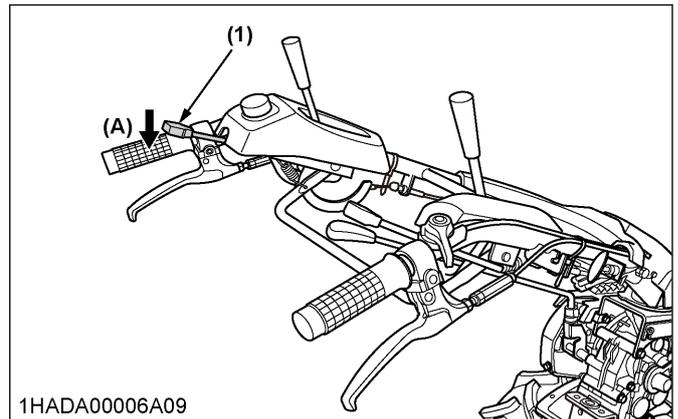


1HADA00013A02
(1) スタンド (A) 格納する
(2) スタンドレバー

2. 主クラッチレバーが[切]位置にあることを確認した後、主変速レバーを必要な変速位置にします。
3. 主クラッチレバーを[入]位置にして発進します。

補足：

- フィンガーレバーを下に押し、ハンドルを握ったまま主クラッチを入れることができます。



1HADA00006A09
(1) フィンガーレバー (A) 押す

4. スロットルレバーを操作して速度を調整します。

作業のしかた

上手な作業のしかた

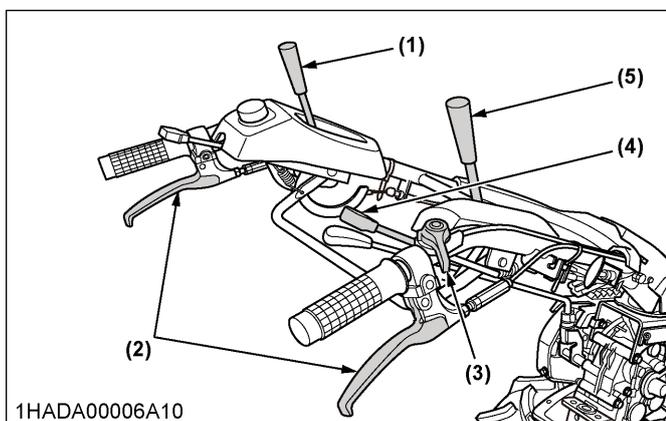
各項の操作手順を守り安全作業を心掛けてください。

1. 作業前の準備

作業目的に合わせた設定を行ってください。
(詳細は、各部の名称と装置の取扱い (17 ページ)、各部の調節 (34 ページ) を参照)

2. 耕うん作業手順

1. 主クラッチレバーを[切]位置にします。
2. ハンドル高さ調節レバーを押し、作業しやすい位置にハンドル高さを調節します。
3. 主変速レバーを作業に応じた位置に入れます。
4. スロットルレバーでエンジン回転数を調整します。
5. PTO レバーを[入]位置にしてから主クラッチレバーを[入]位置にし、発進してください。
6. スロットルレバーを操作し、速度やロータリ回転数を調整します。
変速するときは必ず主クラッチレバーを[切]位置にしてから行ってください。



1HADA00006A10

- | | |
|---------------|-----------------|
| (1) 主クラッチレバー | (4) ハンドル高さ調節レバー |
| (2) 操向クラッチレバー | (5) PTO レバー |
| (3) スロットルレバー | |

3. 旋回手順



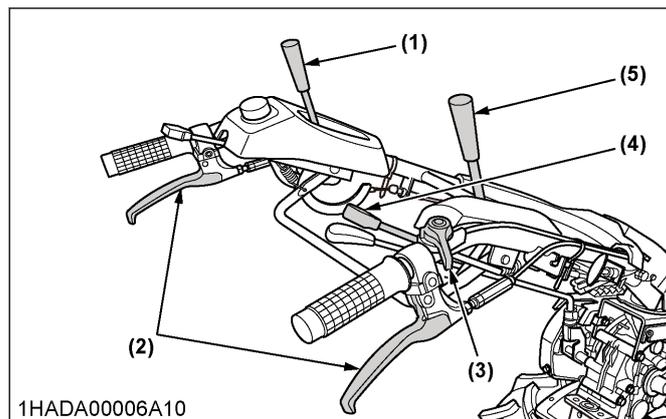
警告

- 旋回を行う前には、必ず PTO レバーを[切]位置にして、ロータリの回転を止めて旋回してください。そうしないと傷害事故のおそれがあります。

ハンドル正位置での旋回手順

1. スロットルレバーを“低速”位置にします。

2. PTO レバーを[切]位置にして、ロータリの回転を止めます。
3. ハンドルを持ち上げ、曲がりたい方向の操向クラッチレバーを握り旋回します。
4. 旋回後、操向クラッチレバーを離し、スロットルレバーで再度エンジン回転を調整します。
5. ハンドルを押し下げ、ロータリの PTO レバーを[入]位置にして作業を行います。

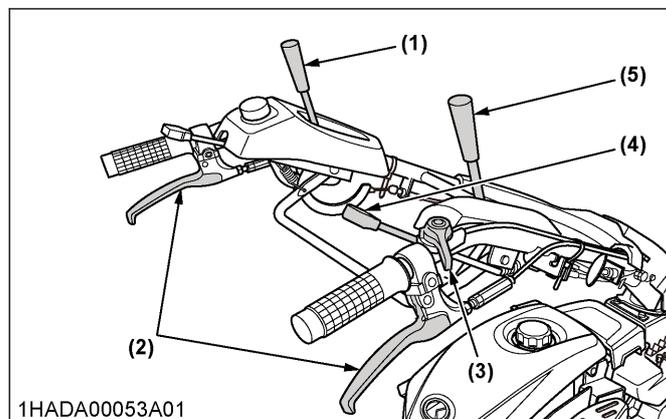


1HADA00006A10

- | | |
|---------------|-----------------|
| (1) 主クラッチレバー | (4) ハンドル高さ調節レバー |
| (2) 操向クラッチレバー | (5) PTO レバー |
| (3) スロットルレバー | |

ハンドル逆位置での旋回手順

1. スロットルレバーを“低速”位置にします。
2. PTO レバーを[切]位置にして、ロータリの回転を止めます。
3. ハンドルを押し下げ、曲がりたい方向の操向クラッチレバーを握り旋回します。
4. 旋回後、操向クラッチレバーを離し、スロットルレバーで再度エンジン回転を調整します。
5. ハンドルを持ち上げ、PTO レバーを[入]位置にして作業を行います。



1HADA00053A01

- | | |
|---------------|-----------------|
| (1) 主クラッチレバー | (4) ハンドル高さ調節レバー |
| (2) 操向クラッチレバー | (5) PTO レバー |
| (3) スロットルレバー | |

各部の調節

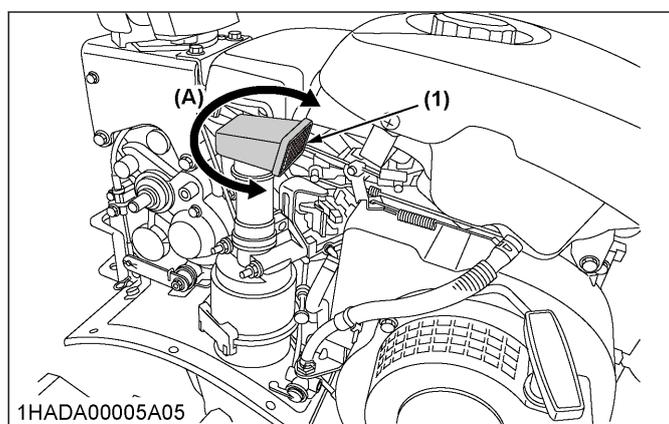
警告

- 平たんな場所に機械を安定させて、エンジンを必ず停止して行ってください。傷害事故のおそれがあります。
- エンジンを停止し、高温部が冷えてから行ってください。

1. エアクリーナの調節

エアクリーナの吸込口が回転します。

1. 作業に応じ、チリやホコリの少ない方に吸込口の向きを変えます。



(1) エアクリーナ吸入口 (A) 回転

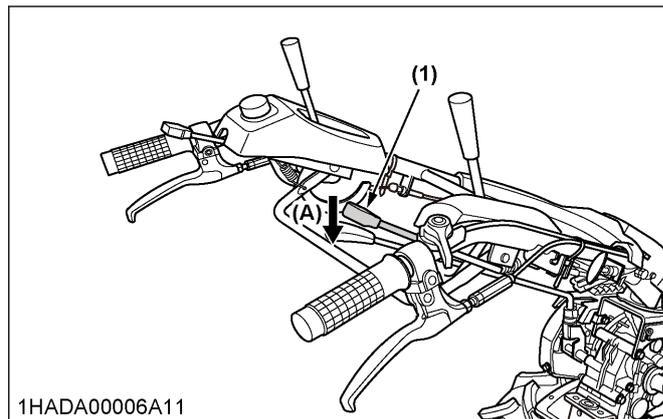
2. ハンドル高さの調節

警告

- 単体のとき、ハンドル高さ調節レバーの操作は必ずスタンドを立てて行ってください。
- ロータリ付きでロータリを持ち上げているときは、危険なため操作はしないでください。
- 走行時または作業時は、危険のため操作はしないでください。
- 操作するときは必ず主クラッチを切り、周囲を確認するとともにゆっくり操作し、操作後はハンドルが確実に固定されているか確認してください。

ハンドルの高さは4段の調節ができます。

1. ハンドル高さ調節レバーを押します。
ハンドルが上下に自由に動きます。



(1) ハンドル高さ調節レバー (A) 押す

2. ハンドル高さ調節レバーを離します。
ハンドルが固定されます。このときハンドルが固定されていることを確認してください。

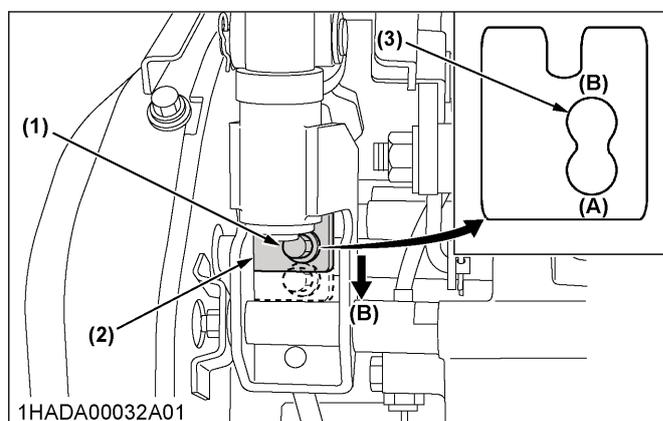
3. ハンドルの向き（正、逆）の変更方法

警告

- エンジンを必ず停止し、平たんな場所にスタンドを立て、安定させて行ってください。
- ハンドル向き変更後は、各レバーが正常に動くか確認してください。

重要：

- ボルトを締め付けるときは、必ずボルトの段付部をPTO牽制金具の穴部に入れてください。



(1) ボルト (A) 入
(2) PTO牽制金具 (B) 切
(3) 穴部

補足：

- ハンドル“逆”位置の状態で行進して作業する場合、PTOレバーが[入]位置に入りますがPTOクラッチは入りません。
この場合、次の手順に従ってPTO牽制金具を解除してください。

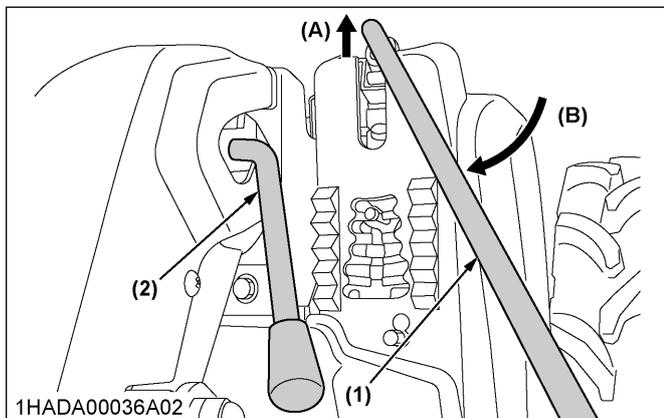
 1. 主変速レバーを“中立”位置にします。
 2. ボルトをゆるめ、PTO牽制金具の取付け位置を下に下げて固定します。

3.1 ハンドルの正位置から逆位置への切替え [SC仕様]

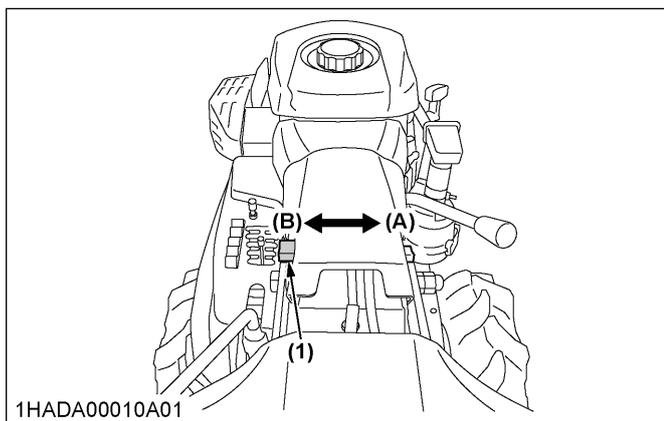
⚠ 警告

- エンジンを必ず停止し、平たんな場所にスタンドを立て、安定させて行ってください。
- 各レバーが正常に動くか確認してください。
- ハンドルを“正”位置に戻したときは、PTO 牽制金具を[入]位置に戻してください。後進時にロータリが回転し、傷害事故を引き起こすおそれがあります。
- 操向クラッチ切替ボタンは必ず切り替えてください。

1. 主変速レバーを“中立”位置にします。
2. 主変速レバーの根元を持ち上げて“逆”位置にします。

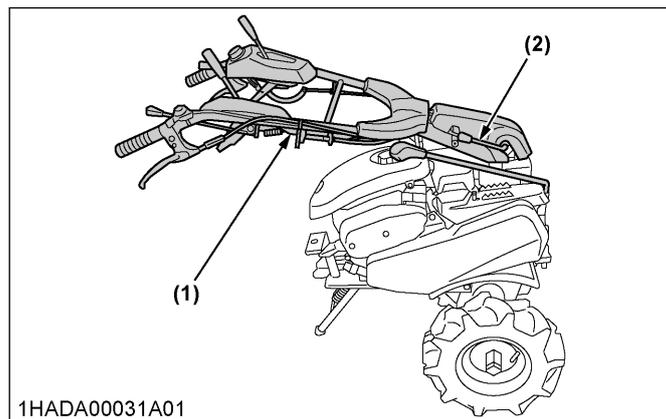


- (1) 主変速レバー (A) 持ち上げる
(2) ハンドル回転レバー (B) 逆位置にする
3. 操向クラッチレバーが戻っていることを確認し、操向クラッチ切替ボタンの[逆]の文字が見える方向にボタンを切り替えます。



- (1) 操向クラッチ切替ボタン (A) 正
(B) 逆
4. ハンドル回転レバーを“解除”方向に操作し、ハンドルを反時計方向（エアクリーナ側）へ回転し逆向きにします。

ハンドル逆位置状態



- (1) ハンドル (2) ハンドル回転レバー

3.2 ハンドルの正位置から逆位置への切替え [SC仕様以外]

⚠ 警告

- ハンドルを“正”位置に戻して作業する場合は、必ずPTO 牽制金具を[入]位置に戻してPTO 牽制金具をセットしてください。後進時にロータリが回転し、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

1. 主変速レバーを“中立”位置にします。
2. 主変速レバーの根元を持ち上げて“逆”位置にします。
3. ハンドル回転レバーを“解除”方向に操作し、ハンドルを反時計方向（エアクリーナ側）へ回転し逆向きにします。
4. ハンドル回転レバーを“ロック”位置に戻します。

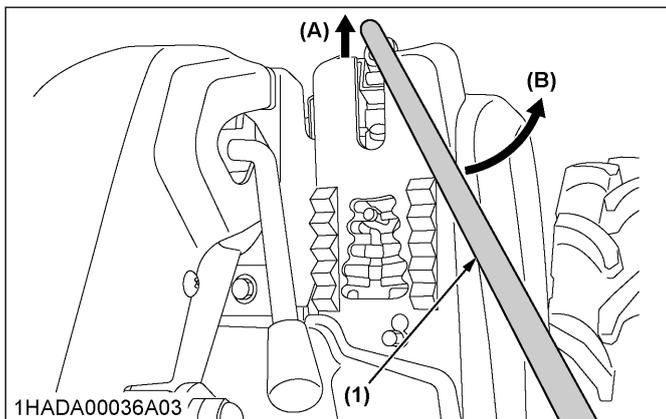
3.3 ハンドル逆位置から正位置への切替え [SC仕様]

⚠ 警告

- PTO 牽制金具を[切]位置にしている場合は、[入]位置に戻してください。

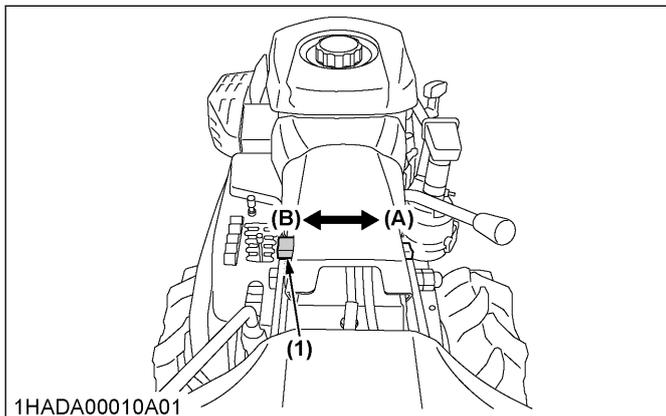
1. 主変速レバーを“中立”位置にします。

2. 主変速レバーの根元を持ち上げて“正”位置にします。



(1) 主変速レバー (A) 持ち上げる (B) 正位置にする

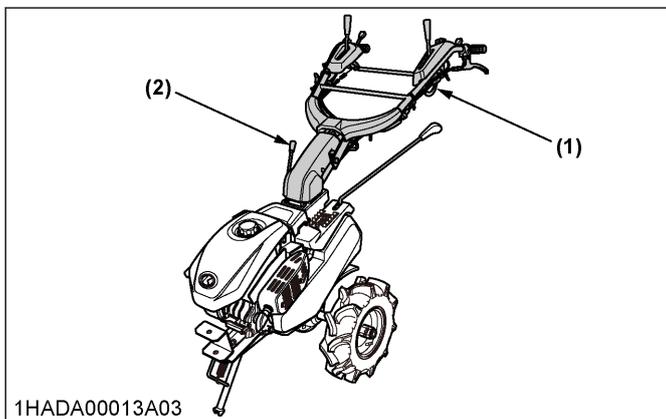
3. 操向クラッチレバーが正常に動作することを確認し、操向クラッチ切替えボタンの[正]の文字が見える方向にボタンを切り替えます。



(1) 操向クラッチ切替えボタン (A) 正 (B) 逆

4. ハンドル回動レバーを“解除”方向に操作してハンドルを時計方向（エアクリーナ側）へ回転し“正”位置にし、ハンドル回動レバーが“ロック”位置に戻っているか確認します。

ハンドル正位置状態



(1) ハンドル (2) ハンドル回動レバー

重要：

- ハンドルは“時計方向”に回転してください。逆に回転すると機械が破損するおそれがあります。

3.4 ハンドル逆位置から正位置への切替え [SC 仕様以外]

警告

- PTO 牽制金具を[切]位置にしている場合は、[入]位置に戻してください。

1. 主変速レバーを“中立”位置にします。
2. 主変速レバーの根元を持ち上げて“正”位置にします。
3. ハンドル回動レバーを“解除”方向に操作し、ハンドルを時計方向（エアクリーナ側）へ回転し“正”位置にします。
4. ハンドル回動レバーを“ロック”位置に戻します。

4. 輪距の調節、車輪交換のしかた

警告

- 輪距の調節時は、かたい地面の平坦で安定した場所に停止してください。
- エンジンを必ず停止してください。傷害事故のおそれがあります。

重要：

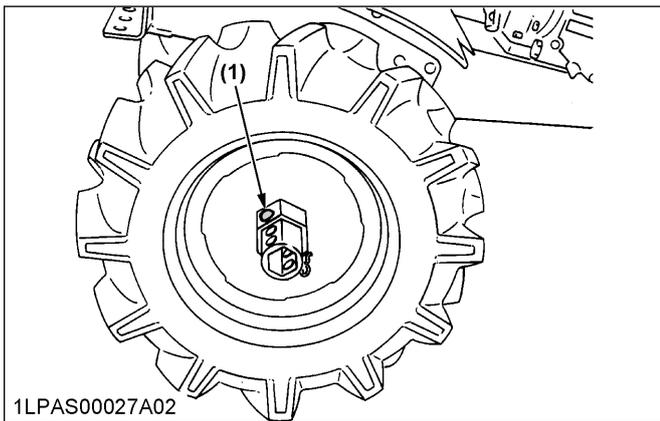
- ほ場以外での移動時は必ずタイヤを装着してください。ロータ、鉄車輪などでのほ場外移動はしないでください。故障の原因となります。
- 前に倒すときは、燃料コックレバーを[OFF]（閉）にしてください。

[N 仕様以外]

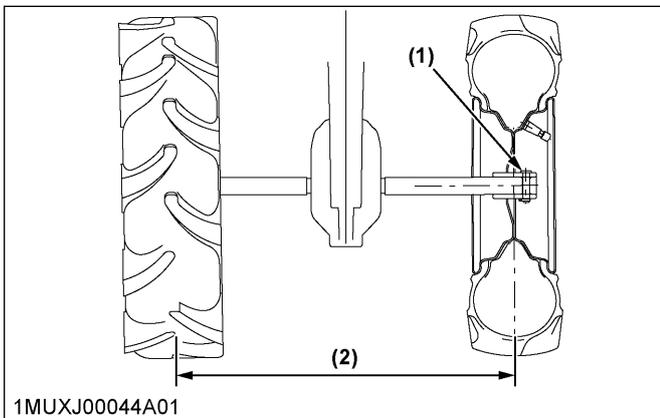
作業条件に応じて、輪距調節と車輪交換を次のとおり行います。

車軸ハブと六角ホイールチューブは、車軸ピン 1 本で取り付けてあります。車軸ピンを抜いて調節や交換を行ってください。

1. 車軸ピンを抜きます。



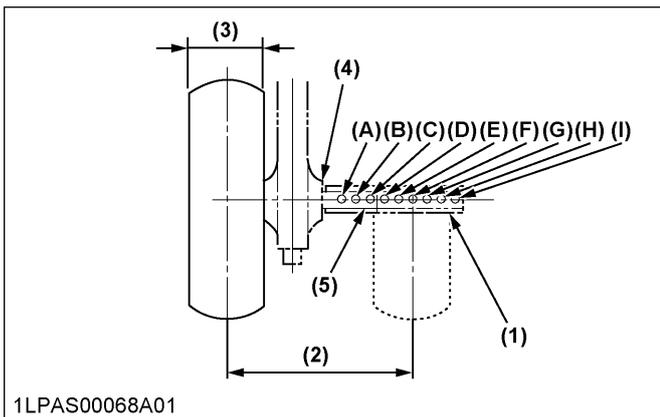
(1) 車軸ピン



(1) 車軸ピン

(2) 輪距

2. ホイールチューブ差し込み位置を確認し、輪距の調節や車輪の交換を行います。車軸ピンは必ず取り付けてください。



(1) ホイールチューブ

(4) ホイールチューブ差し込み位置

(2) 輪距

(5) 車軸

(3) タイヤ幅

輪距

タイヤサイズ	[K仕様] 3.50-7 ^{*1}		[J仕様]	[W仕様]
	S無し仕様	SC仕様	4.00-7	16×7.00-8
ピン位置	輪距 (mm)			
(A)	—			
(B)	—			
(C)	—	190	190	—
(D)	200	240	240	265
(E)	250	290	290	315
(F)	—		340	365
(G)	—		390	415
(H)	—		440	465
(I)	—		490	515
タイヤ幅	99		111	180

*1 タイヤサイズ 3.50-7 はピン穴が5個です。

タイヤ外幅

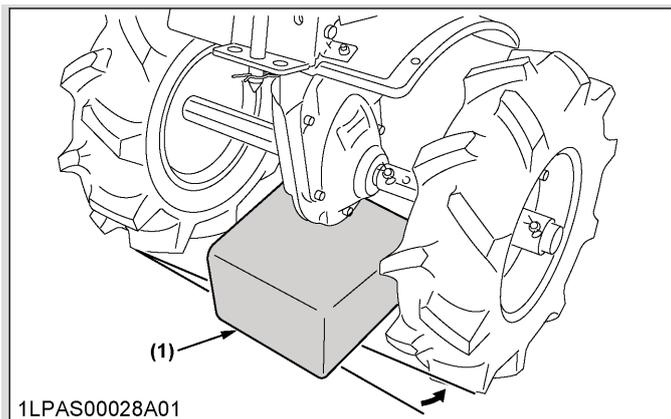
タイヤサイズ	[K仕様] 3.50-7 ^{*1}		[J仕様]	[W仕様]
	S無し仕様	SC仕様	4.00-7	16×7.00-8
ピン位置	タイヤ外幅 (mm)			
(A)	—			
(B)	—			
(C)	—	289	301	—
(D)	299	339	351	445
(E)	349	389	401	495
(F)	—		451	545
(G)	—		501	595
(H)	—		551	645
(I)	—		601	695

*1 タイヤサイズ 3.50-7 はピン穴が5個です。

4.1 輪距の調節および車輪の交換の注意

警告

- かたい地面にて丈夫な木片を用い、機体を安定させてから行ってください。



管理機の点検、整備のしかた

警告

給油および点検整備するときは、次の事項を守ってください。

- 給排油や点検、調節、清掃は、エンジンを停止し、エンジンやマフラがじゅうぶんに冷えてから行ってください。
- 平坦な場所に機械を安定させて行ってください。
- これらの作業をおこたると、傷害事故のおそれがあります。

廃棄物の処理について

警告

廃棄物をみだりに捨てたり、焼却すると、環境汚染につながり、法令により処罰されることがあります。

廃棄物を処理するときは、次の事項を守ってください。

- 機械から廃液を抜く場合は、容器に受けてください。
- 地面へのたれ流しや河川、湖沼、海洋への投棄はしないでください。
- 廃油、燃料、冷却水（不凍液）、尿素水(AdBlue)、冷媒、溶剤、フィルタ、バッテリー、ゴム類、その他の有害物を廃棄、または焼却するときは、購入先、または産業廃棄物処理業者などに相談して、所定の規則に従って処理してください。

洗車時の注意

高压洗車機の使用方法を誤ると人を怪我させたり、機械を破損、損傷、故障させることがありますので、高压洗車機の取扱説明書、ラベルに従って、正しく使用してください。

警告

洗浄ノズルを拡散にし、2 m 以上離して洗車してください。

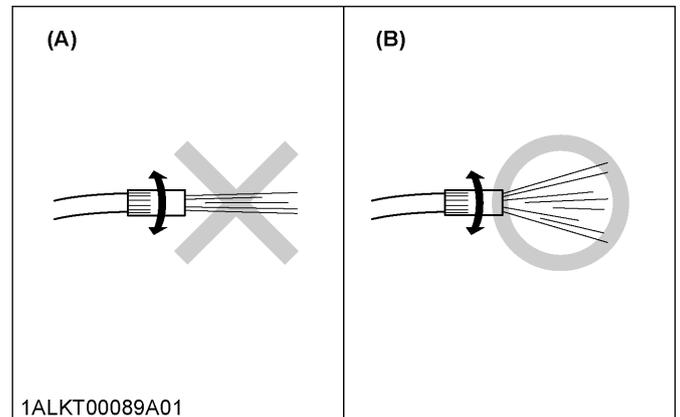
もし、直射にしたり、不適切に近距離から洗車すると、電気配線部被覆の損傷や断線により、火災のおそれがあります。

重要：

- 洗車のしかたが不適切な場合、次のような機械の破損、損傷、故障の原因になります。
(例)
 - シール、ラベルの剥がれ
 - 電子部品、エンジン、トランスミッション室内などへの浸入による故障
 - オイルシールなどのゴム類、樹脂類の破損

- 塗装、メッキ面の皮膜剥がれ

直射洗車厳禁

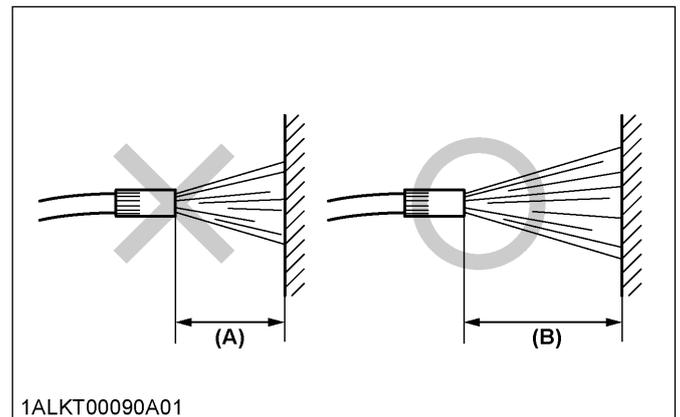


1ALKT00089A01

(A) 直射

(B) 拡散

近距離洗車厳禁



1ALKT00090A01

(A) 2 m 未満

(B) 2 m 以上

定期点検箇所一覧表

No.	項目	条件	使用時間	参照ページ
1	主クラッチケーブル	調節	使用開始から	46
2	エンジンオイル	交換	交換第 1 回目	42
			交換第 2 回目以降	
3	ミッションオイル	交換	交換第 1 回目	43
			交換第 2 回目以降	
4	エアクリーナ	エレメントの清掃	ホコリの多い場合	43
		エレメント、オイルの交換	使用開始から	
5	燃料フィルタ	フィルタの清掃	使用開始から	44
			タンクの清掃	
6	点火プラグ	調節、清掃	使用開始から	44
7	タイヤ空気圧	調節	空気圧異常時	45
8	ハンドル	上下調節	動作異常時	47
9	操向クラッチ	調節	動作異常時	47
10	PTO ケーブル	調節	動作異常時	47
11	スタンド	調節	動作異常時	47
12	スロットルレバー	調節	動作異常時	47
13	燃料チューブ	交換	傷、亀裂があれば	44
			使用開始から	
14	ファンカバー	清掃	ゴミやワラクズの付着があれば	45

重要：

- 専門的な技術や手入れなどでご不明な点は、購入先にご相談ください。

管理機の給油一覧表

給油項目	容量	種類
燃料タンク	2.8 L	自動車用レギュラーガソリン
エンジン	0.55 L	クボタ純オイル（ガソリンエンジン用）スーパー G 10W-30
ミッション	2.4 L	クボタ純オイル（ミッション用）スーパー UDT2
エアクリーナ	オイルパンの規定量 ([OIL LEVEL])	クボタ純オイル（ガソリンエンジン用）スーパー G 10W-30

日常点検

 **警告**
給油および点検整備するときは次の事項を守ってください。

- 給排油、点検、調節、清掃は、エンジンを停止し、エンジンやマフラがじゅうぶんに冷えてから行ってください。
- 平たんな場所に機械を安定させて行ってください。
- これらの作業をおこたると、傷害事故のおそれがあります。

1. 前回の異常箇所

前回の作業中に異常を感じたところがあれば、使用前に支障が無いか点検してください。

2. 機械の周りを歩いて

- ボルトやナットのゆるみが無いか確認してください。
- 車体各部の変形や損傷が無いか確認してください。
- 油漏れなど異常が無いか確認してください。

3. 点検、整備

警告

- 給油するときはエンジンを停止し、エンジンやマフラーがじゅうぶん冷えてから行ってください。
- 火気厳禁。くわえ煙草での給油は絶対にしないでください。
- 燃料がこぼれたときはきれいに拭き取ってください。
- 燃料は規定量（赤色ゲージ）以上入れないでください。
- 給油後、燃料キャップはガソリンが漏れないようしっかり締めてください。
- これらの作業をおこたると、爆発、火災のおそれがあります。

3.1 燃料の給油

- スタンドを立てた状態で燃料を入れてください。
- 自動車用レギュラーガソリンを補給します。
- 燃料キャップを外し、給油口内の赤色ゲージを超えないように補給してください。

重要：

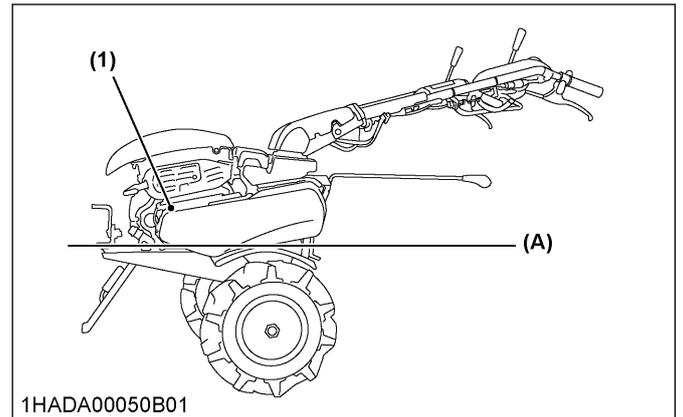
- 水やゴミを混入しないようにしてください。

3.2 エンジンオイルの点検

重要：

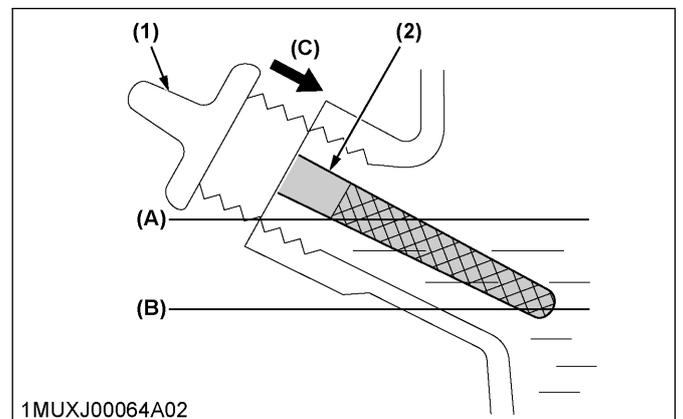
- 粗悪なオイルを使用しますと、エンジンの寿命を急激に縮めますので、購入先でクボタ純オイルスーパー G 10W-30 とご指定の上、お求めください。（管理機の給油一覧表（40 ページ）を参照）
- 排油、検油、給油後はプラグを確実に締めてください。

1. エンジンを水平にします。



(1) エンジン (A) 水平

2. 給油プラグを外し、オイル給油口内側のオイルゲージで規定の範囲にあるか点検します。



(1) 給油プラグ (A) Hマーク（上限）
(2) 給油プラグ (B) Lマーク（下限）
(C) ねじ込まずに差し込む

補足：

- 油量の点検時は、給油プラグをねじ込まずに、差し込んで点検してください。

3. 油面が下限に近い場合は、クボタ純オイル（ガソリンエンジン用）スーパー G 10W-30 を規定量まで補充します。（詳細は、エンジンオイルの交換（42 ページ）を参照）

3.3 ミッションオイルの点検

重要：

- 粗悪なオイルを使用しますと、機械の寿命を急激に縮めますので、購入先でクボタ純オイルスーパー UDT-2 とご指定の上、お求めください。（管理機の給油一覧表（40 ページ）を参照）
- 排油、検油、給油後はプラグを確実に締めてください。

1. エンジンを水平にして、ミッションオイルが検油プラグ位置まであるか点検します。

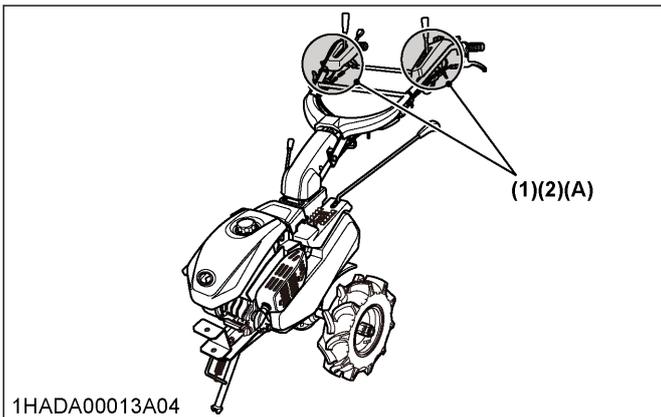
- 不足している場合は、クボタ純オイル（ミッション用）**スーパー UDT-2**を補充します。
（詳細は、ミッションオイルの交換（43 ページ）を参照）

3.4 エアクリーナの点検

- エアクリーナエレメントにゴミが付着していないか点検します。
- 汚れている場合は清掃します。
（詳細は、エアクリーナエレメントの清掃とオイル交換（43 ページ）を参照）

3.5 各ケーブルの点検

- ケーブルのキャップを外し、エンジンオイルを注油します。
- 操向クラッチケーブルは、操向クラッチレバーを握りケーブルの出口にエンジンオイルを注油します。
（詳細は、各ケーブルの点検（27 ページ）を参照）



1HADA00013A04

- (1) ケーブルのキャップ (A) 注油
(2) 操向クラッチケーブル

3.6 その他の点検

- エンジン、ミッションなどから油漏れが無い点検してください。
- 各しゅう動部へエンジンオイルを注油してください。
- 各部の損傷およびボルトやナットのゆるみが無い点検してください。

安全に作業するための点検

主クラッチレバー、PTO レバー

- クラッチの**[入]**と**[切]**が確実にできるか点検します。
- 不良の場合は調節し、注油します。
（詳細は、主クラッチケーブルの調節（46 ページ）を参照）

補助主クラッチレバー

- [切]**が確実にできるか点検します。

フィンガーレバー

- フィンガーレバーのローラ部の清掃をこまめに行ってください。

主変速レバー

- 変速が案内板の表示位置で確実にできるか点検します。

高速牽制、PTO 牽制

- 牽制ボルトおよび金具の状態を確認してください。

電気配線

- 被覆が溶けたり被れていないか、また配線がはさまれていないか点検します。

エンジン周辺部

- ファンカバーやマフラカバー内にゴミやワラックスの付着が無い点検します。

燃料

- タンクや燃料チューブからガソリン漏れが無い点検します。
漏れがある場合は、修理点検します。
- 自動車用レギュラーガソリンを補給します。
- タンク容量の規定量（赤ゲージ位置）以上入れないでください。
- 給油後、ガソリンが漏れないよう確実に燃料キャップを締めます。

使用時間に応じた点検、整備

1. エンジンオイルの交換

重要：

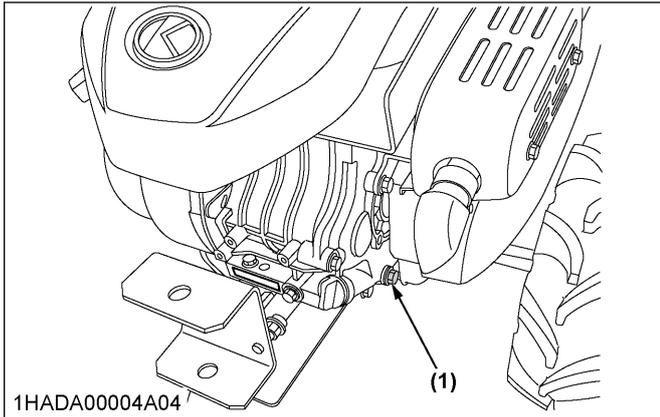
- オイル給油後は、必ずオイルゲージを用いて上下限の範囲内にあるか確認してください。
- 粗悪なオイルを使用すると、エンジンの寿命を急激に縮めるので、購入先でクボタ純オイル**スーパー G 10W-30**とご指定のうえ、お求めください。
（詳細は、管理機の給油一覧表（40 ページ）を参照）
- 排油、検油、および給油後は**プラグ**を確実に締めてください。

オイルの点検と交換表

型式名	TA701N	TA801N
オイル量	0.55 L	0.55 L
点検方法	エンジン水平	
交換第 1 回目	20 時間使用後	
交換第 1 回目以後	50 時間使用ごと	
オイルの種類	クボタ純オイル（ガソリンエンジン用） スーパー G 10W-30	

排油のしかた

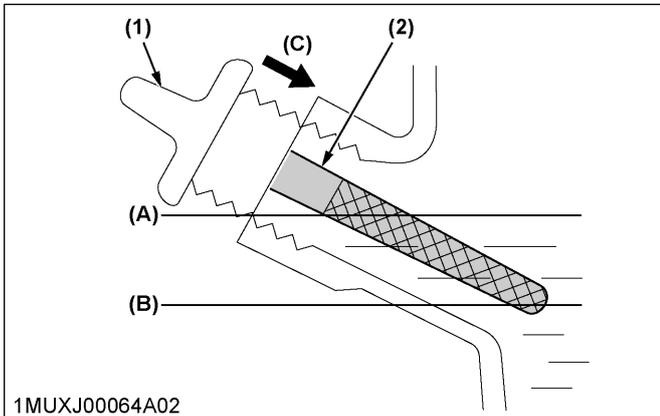
- エンジンを水平に安定させ排油プラグを外し、排油します。
このとき、必ずオイルパンなどで排油を受けてください。



(1) 排油プラグ

給油のしかた

1. エンジンを水平にして、オイルゲージを用いて規定量まで入れます。
2. 給油後はプラグを確実に締めます。



(1) 給油プラグ (A) H マーク (上限)
 (2) オイルゲージ (B) L マーク (下限)
 (C) ねじ込まずに差し込む

2. ミッションオイルの交換

重要：

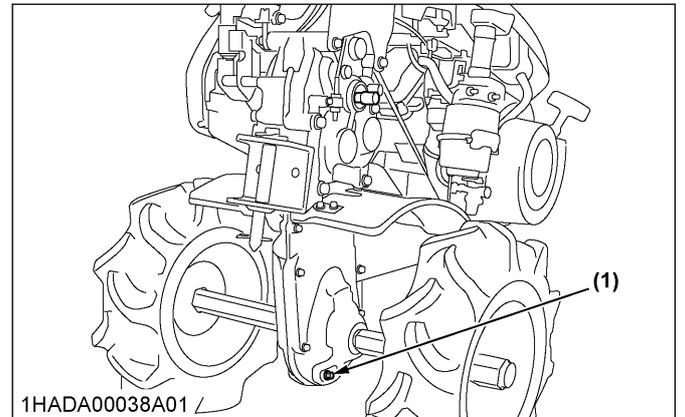
- ・ 粗悪なオイルを使用しますと、機械の寿命を急激に縮めますので、購入先でクボタ純オイルスーパー UDT-2 とご指定のうえ、お求めください。
 (詳細は、管理機の給油一覧表 (40 ページ) を参照)
 排油または給油後はプラグを確実に締めてください。

オイルの点検と交換表

型式名	TA701N	TA801N
オイル量	2.4 L	
点検方法	エンジン水平	
交換第 1 回目	20 時間使用後	
交換第 1 回目以後	1 年ごと	
オイルの種類	クボタ純オイル (ミッション用) スーパー UDT-2	

排油のしかた

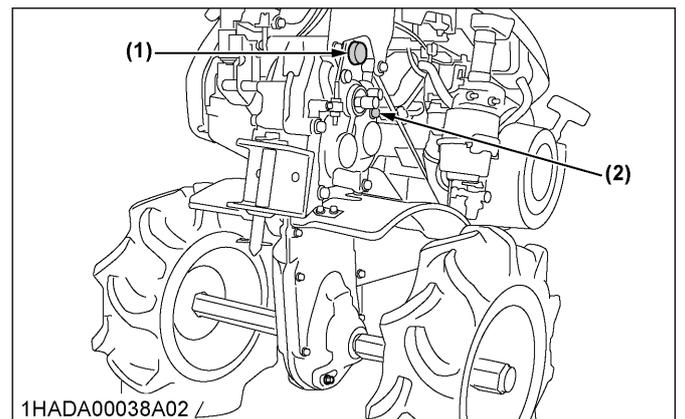
1. ミッションオイル排油プラグを外して排油します。このとき、必ずオイルパンなどで排油を受けてください。



(1) 排油プラグ

給油のしかた

1. エンジンを水平にし、検油プラグ位置まで給油します。



(1) 給油プラグ (2) 検油プラグ

3. エアクリーナエレメントの清掃とオイル交換

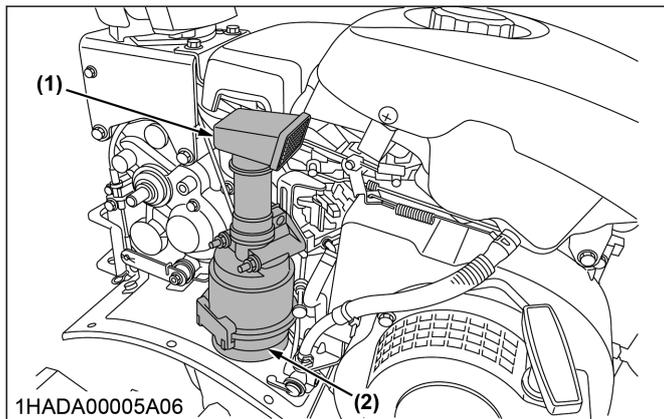
重要：

- ・ エアクリーナを取り外したままエンジンを運転しないでください。ゴミやホコリを吸い込み、エンジン不調やエンジン異常摩耗の原因となります。
- ・ 汚れたまま使用しますと、エンジンの出力低下や故障の原因になります。
- ・ チリやホコリが多く発生する土入れ作業などで使用する場合は、ホコリの少ない方向にエアクリーナ吸込口を向けて、毎日点検してください。
- ・ 規定量よりエンジンオイルを入れすぎると、エンジン不調の原因となります。

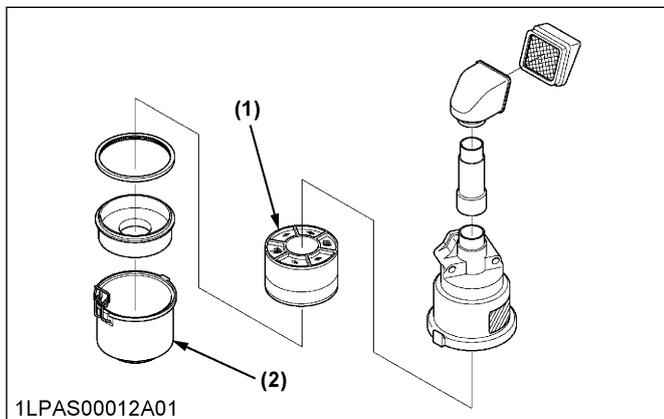
エアクリーナエレメントの清掃と交換表

清掃	通常	50 時間ごと
	ホコリの多い場合	毎日
交換	汚れがひどいとき	

1. エアクリーナエレメントは時々白灯油で洗い、エンジンオイルを塗布して、よく振り切ってから取り付けてください。
2. オイルパンはよく洗浄し、新しいエンジンオイルを規定量入れます。
規定量は【OIL LEVEL】と記載されているところです。



1HADA00005A06 (1) エアクリーナ (2) OIL LEVEL



1LPAS00012A01 (1) エレメント (2) オイルパン

4. 燃料フィルタの清掃

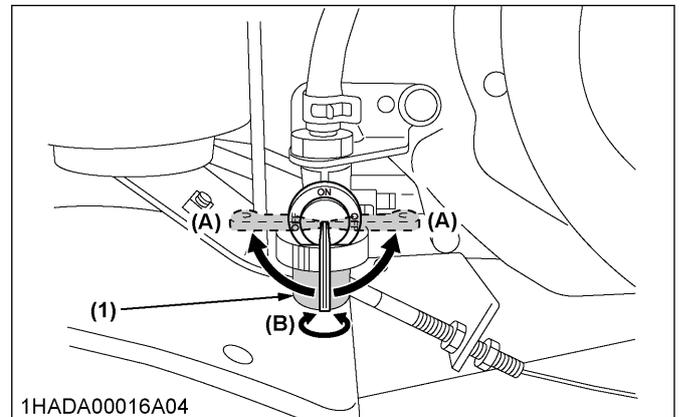
警告

- ・ フィルタポットの取付け後、ガソリン漏れが無いか確認してください。

フィルタの清掃	50 時間使用ごと
タンクの清掃	300 時間使用ごと

1. 燃料フィルタは、燃料のゴミを取り除きます。
取り除かれたゴミは、ポットの底にたまります。

2. 燃料コックレバーを【OFF】（燃料コック閉）にし、フィルタポットを外し、ポットの底にたまっているゴミや水を捨てます。
3. 燃料タンク内を点検し、底に異物がたまっている場合は、取り除きます。



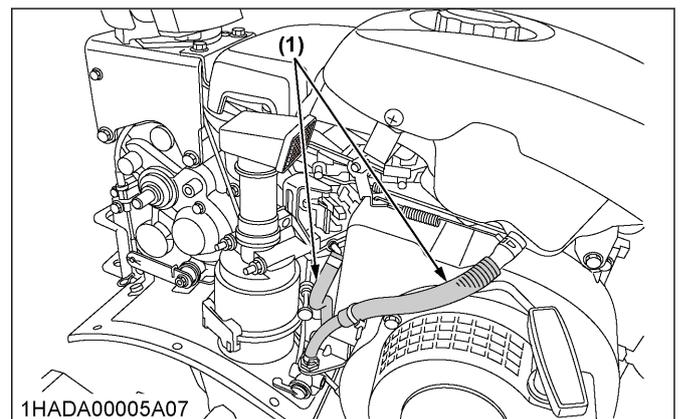
1HADA00016A04 (1) フィルタポット (A) OFF（燃料コック閉） (B) ゆるめて取り外す

5. 燃料チューブの交換

警告

- ・ 燃料チューブは自然劣化したり傷があると、ガソリン漏れして火災の原因となります。作業前に毎回点検し、ヒビや割れが発生した物は、新しい燃料チューブと交換してください。

燃料チューブは、2年ごとに交換してください。
交換にあたっては、購入先にご相談ください。



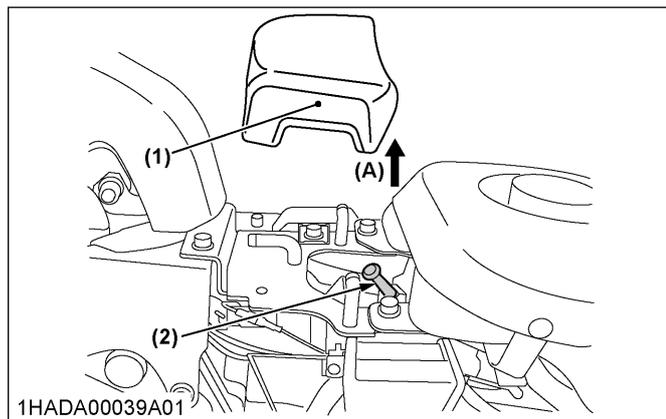
1HADA00005A07 (1) 燃料チューブ

6. 点火プラグの調節、清掃、交換

警告

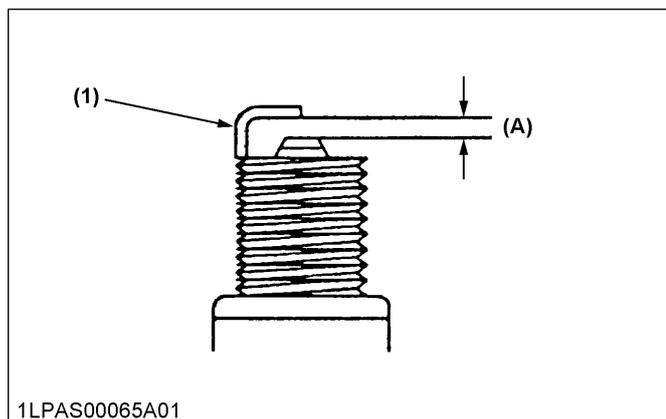
- ・ 高温部が冷えてから行ってください。

1. タンク後カバーに手を掛けて持ち上げると、タンク後カバーは外れます。



1HADA00039A01
(1) タンク後カバー (A) 持ち上げる
(2) 点火プラグ

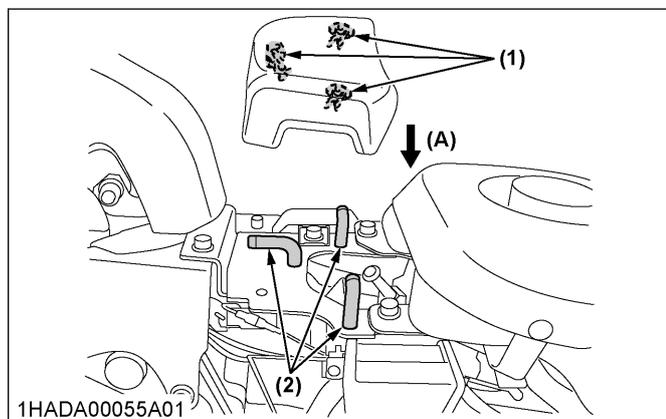
2. 付属のプラグ用ボックススパナでプラグを外して、清掃します。
3. 電極のすき間が適正長さになるように調節します。



1LPAS00065A01
(1) 電極 (A) 0.7 mm~0.8 mm

使用点火プラグ	(NGK) BPR5ES
---------	--------------

4. 作業が終わったら、ステーにタンク後カバーフック部を差し込んでもとの位置に戻します。



1HADA00055A01
(1) タンク後カバーフック部 (A) 差す
(2) ステー

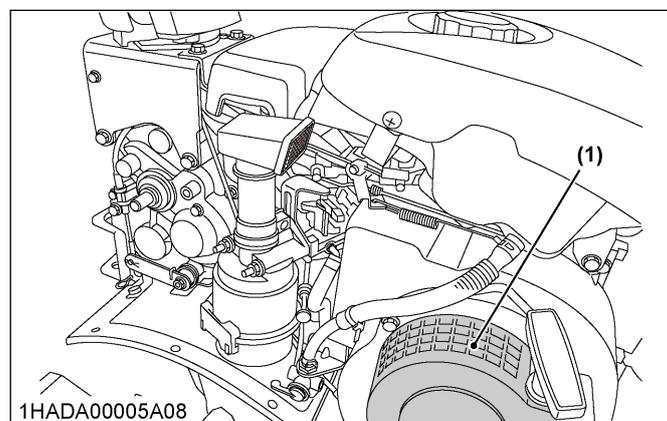
重要：

- プラグ締め付け時は、ネジ山をつぶさないように、始めに手で締め込んでから、ボックススパナで締め付けてください。
- 調節、清掃してもエンジンが不調なときは、新しいプラグと交換してください。
- プラグを外したまま始動操作しないでください。

必要に応じた点検、整備

1. ファンカバーの清掃

ファンカバーの吸気口は、きれいに清掃します。ここからエンジンの冷却風が吸い込まれますので、ゴミやワラクズなどの付着物があるとエンジンの過熱や出力低下の原因になります。



1HADA00005A08
(1) ファンカバーの吸気口

2. タイヤ空気圧

警告

- タイヤの空気圧は、取扱説明書に記載している規定圧力を、必ず守ってください。空気の入れすぎは、タイヤ破裂のおそれがあり、死傷事故の原因になります。
- タイヤに傷があり、その傷がコード（糸）に達している場合は、使用しないでください。タイヤ破裂のおそれがあります。
- タイヤ、チューブ、リムなどの交換、修理は、必ず購入先にご相談ください。特別教育を受けた人が行うように、法で決められています。

空気圧が高すぎても低すぎても、タイヤの寿命を縮めますので、定期的に空気圧を調べ、適正になるように調整してください。

適正空気圧	K 仕様 (3.50-7)	120 kPa (1.2 kgf/cm ²)
	J 仕様 (4.00-7)	120 kPa (1.2 kgf/cm ²)
	W 仕様 (16×7.00-8)	140 kPa (1.4 kgf/cm ²)

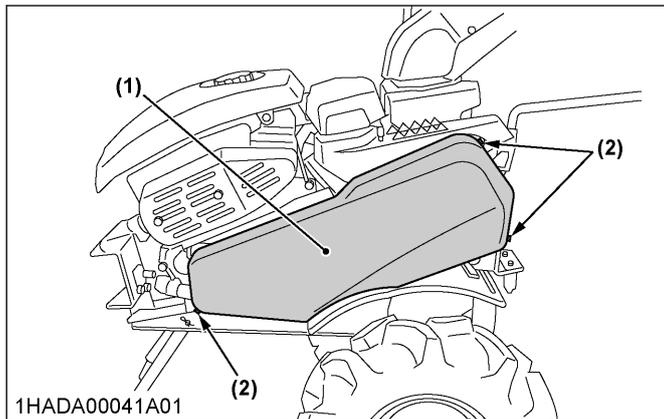
空気を入れるには、エアークンプレッサ、または自動車などのタイヤに空気を入れる高圧手押しポンプを用いてください。

3. 主クラッチケーブルの調節

警告

- 主クラッチケーブルの調節を行う場合は、必ずエンジンを停止して行ってください。
- 調節が終わったら必ずベルトカバーを取り付けてください。巻き込まれるなど傷害事故のおそれがあります。
- エンジンを始動する前に、主変速レバーを“中立”にしてください。
- 調節、確認時は周囲に人や動物を近づけないでください。傷害事故のおそれがあります。

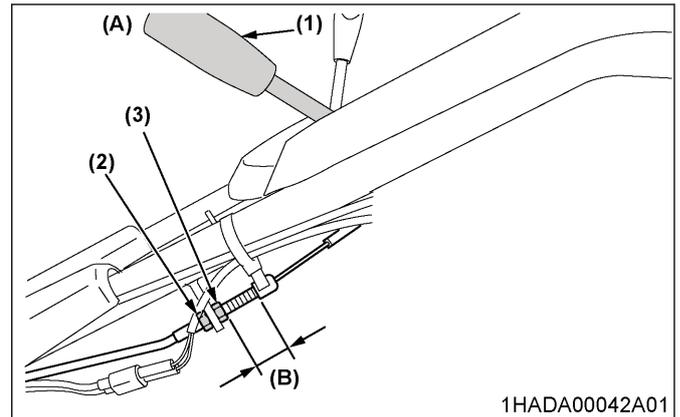
1. ベルトカバーのボルト3本を外し、ベルトカバーを取り外します。



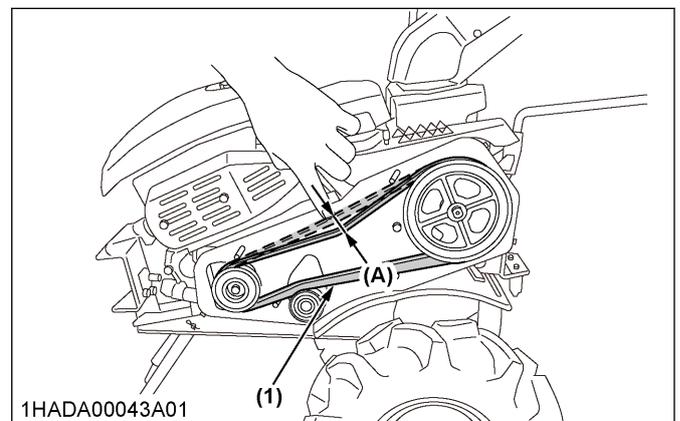
(1) ベルトカバー (2) ボルト

2. 主クラッチレバーを入れた状態で、ベルトの中央部を指で押さえて 10 mm～15 mm たわむ程度に、ケーブル調節金具でテンションプーリを調節します。なお、使用初期はベルトが伸びやすいため、5 時間使用後ケーブルを再調節してください。

- **ベルトがスリップする場合**
調節金具の調節範囲部を短くします。
- **主クラッチレバーが重すぎる場合**
調節金具の調節範囲部を長くします。



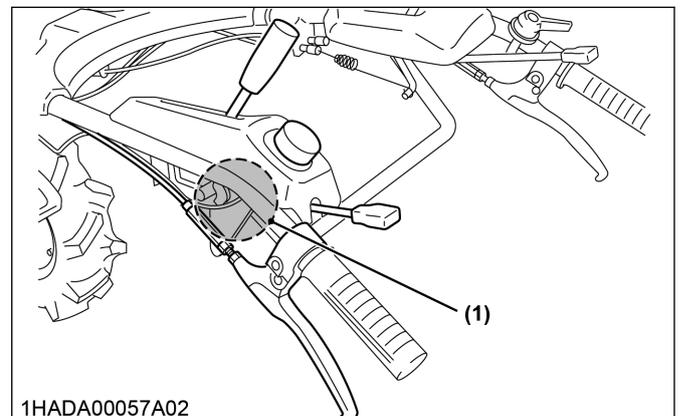
(1) 主クラッチレバー (2) 調節金具 (3) ロックナット
(A) 入 (B) 調節範囲



(1) ベルト (A) 10 mm～15 mm

重要：

- 主クラッチケーブルを調節した場合、エンジンを始動してクラッチの[入]と[切]が確実に作動するか確認してください。
- 調節後は、調節金具のロックナットを確実に締め付けてください。
- フィンガーレバーのローラ部に土が付着した場合は必ず取り除いてください。フィンガーレバーの作動不良の原因となります。



(1) フィンガーレバーローラ部

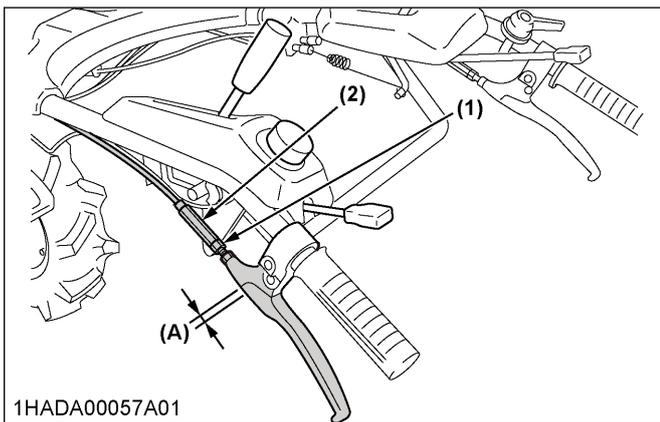
補足：

- 主クラッチケーブルが調節金具の調節範囲で調節できなくなれば、ベルトの交換時期です。ベルトの交換は、購入先にご相談ください。

4. 操向クラッチケーブルの調節

操向クラッチレバーを握っても操向クラッチが切れにくい場合、また操向クラッチレバーを放しても入りにくい場合、およびハンドル“逆”位置のときに戻りにくい場合に行ってください。

- ワイヤ調節金具のロックナットをゆるめて調節します。
 - 切れにくい場合**
調節金具を長くします。
 - 戻りにくい場合**
調節金具を短くします。
- 調節時にレバーの遊びが必ず 1 mm～2 mm あるように調節します。
- 調節後はロックナットを確実に締め付けます。



1HADA00057A01

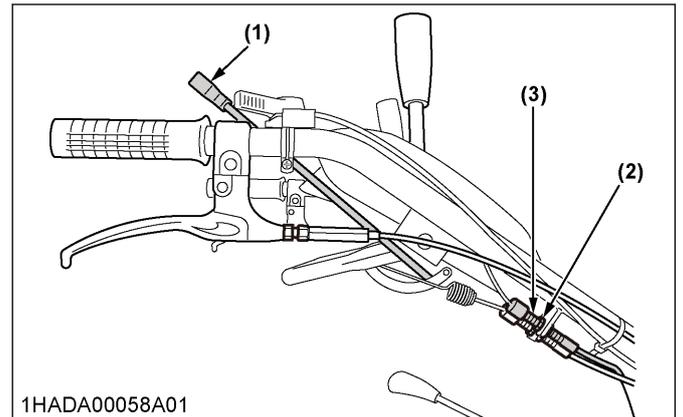
(1) ロックナット (2) ワイヤ調節金具

(A)	レバーの遊び	1 mm～2 mm
-----	--------	-----------

5. ハンドル上下調節

ハンドル高さ調節レバーを押してもハンドルが上下に動かない、または調子が悪いときに行ってください。

- ワイヤの調節金具で調節します。
- ハンドルをセットしたときにプレートにピンが確実に入っていることを確認します。
- 調節金具をロックナットで固定します。



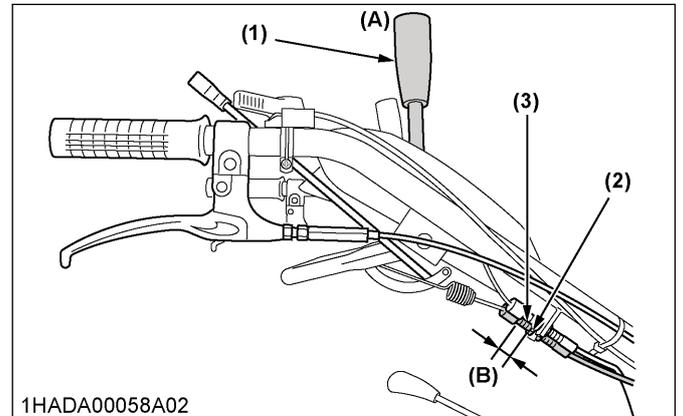
1HADA00058A01

(1) ハンドル高さ調節レバー (2) ロックナット (3) 調節金具

6. PTO ケーブルの調節

PTO レバーを[切]位置にしたとき、ロータリが止まらなかったり、また[入]位置にしたとき、クラッチが入りにくい場合は、PTO ケーブルの調節金具で調節します。

- PTO ケーブルの調節金具で長さを調節します。
 - 切れにくい場合**
調節金具の(B)部を長くします。
 - 入りにくい場合**
調節金具の(B)部を短くします。
- 調節後はロックナットを確実に締め付けます。



1HADA00058A02

(1) PTO レバー (2) ロックナット (3) 調節金具 (A) 切 (B) 調節部

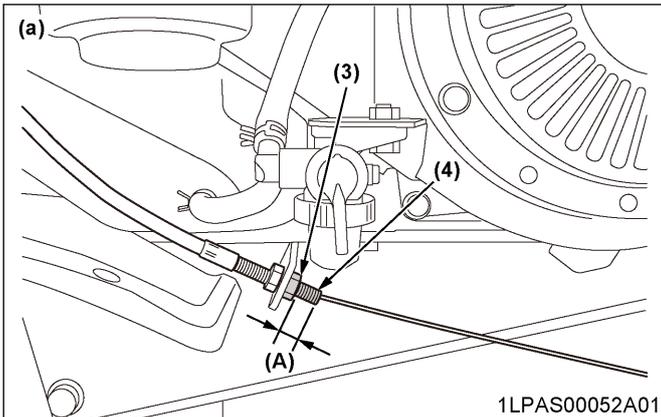
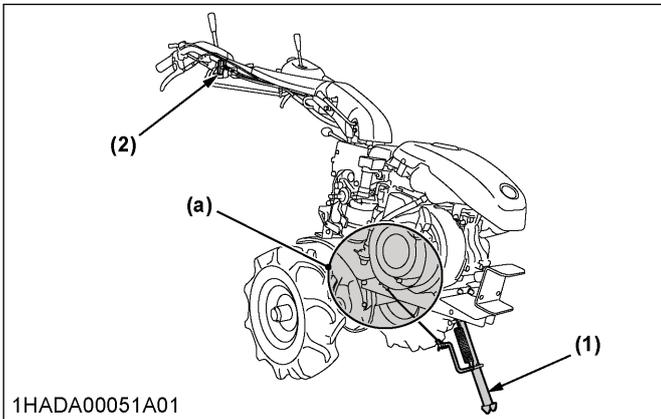
7. スロットルケーブルの調節

スロットルレバーを最高回転にしてもエンジン回転が上がらないときは、購入先にご相談ください。

8. スタンドの調節

スタンドの調節スタンドレバーを手前に引いても収まりが悪い場合、またスタンドレバーを前に出しても完全に立たない場合は、スタンドケーブルワイヤの調節金具で調節します。

1. スタンドケーブルワイヤの調節金具の長さを調節します。
 - スタンドの収まりが悪い場合
調節金具の(A)部を短くします。
 - スタンドが完全に立たない場合
調節金具の(A)部を長くします。
2. 調節後はロックナットを確実に締め付けます。



- (1) スタンド
(2) スタンドレバー
(3) ロックナット
(4) 調節金具
(A) 調節部

使用後の手入れ

使用後は、必ずその日に清掃を行い、各部に付いている土やゴミを落とし、各しゅう動部は錆びないように油やグリースおよび防錆剤を適宜塗布してください。特にファンカバー内にゴミが詰まると、エンジンの焼付きなどの原因になりますので、よく点検および清掃を行ってください。

重要：

- 水洗いのとき、エアクリーナ吸込口から水が入らないようにカバーをしてください。

1. エンジン始動不良を防ぐために

エンジン停止後、必ず燃料コックレバーを閉めてください。

重要：

- 燃料コックレバーを開いたままの状態、保管したり、前に倒したり、また車両で運搬したりすると、エンジン始動が困難となる場合があります。また、クランクケース内へガソリンが流入することもあります。

2. 長期格納時の手入れ

警告

- カバーを掛けたり、納屋に格納するときは、火災のおそれがあるため、エンジンが冷えてからにしてください。
- 燃料がこぼれたときは、きれいに拭き取ってください。爆発、火災のおそれがあります。

- 主クラッチレバーは[切]位置にして保管します。
- 1か月以上使用しないときは、燃料タンク、キャブレタ、フィルタポットの中のガソリンをすべて抜き取ります。
- オイルを交換し、各部をきれいに掃除します。
- エアクリーナエレメントを、掃除します。
- エンジンのシリンダ内に湿気が入って、始動が困難になるのを防止するため、リコイルスタータハンドルを引っ張って、圧縮位置で止めます。
- カバーをかけ、湿気や草、ワラおよびホコリの無い場所に置きます。

重要：

- ほ場に保管していると、地面からの湿気が多いので錆びやすくなります。

3. 燃料の抜き取り

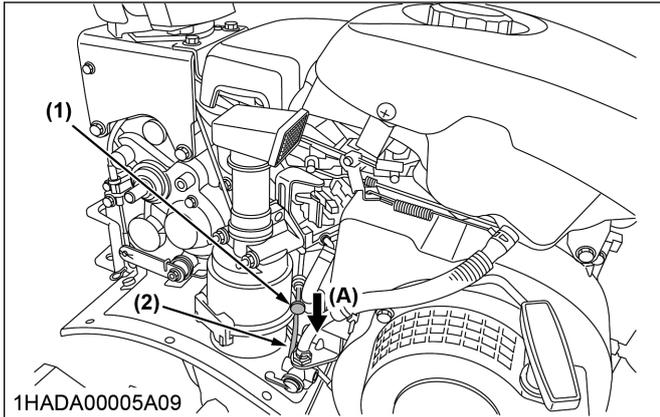
警告

- 燃料を抜き取るときはエンジンを停止し、エンジンやマフラがじゅうぶん冷えてから行ってください。
- 火気厳禁。くわえ煙草での作業は絶対にしないでください。
- 燃料がこぼれたときはきれいに拭き取ってください。

1か月以上使用しないとき、燃料タンク内のガソリンはポンプなどを使用して抜き取り、キャブレタ内はクイックドレンを引いてドレンチューブから抜き取り、フィルタポットを外しフィルタ内の燃料を全部抜き取ります。

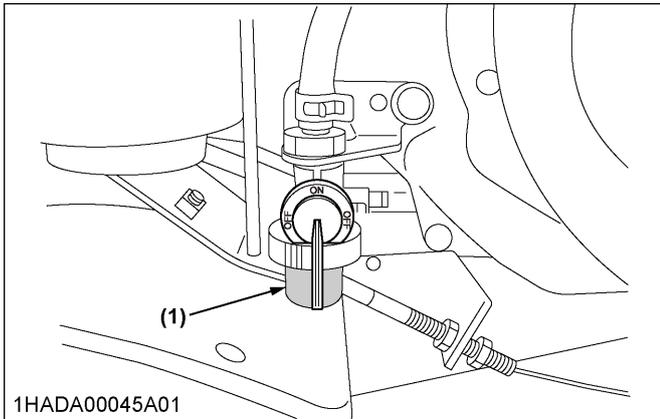
重要：

- 燃料をそのままにしておくと、燃料タンクやキャブレタ内のガソリンが変質し、次の始動が困難になります。



1HADA00005A09

- (1) クイックドレン
- (2) ドレンチューブ
- (A) 引く



1HADA00045A01

- (1) フィルタポット

管理機を運搬するとき



警告

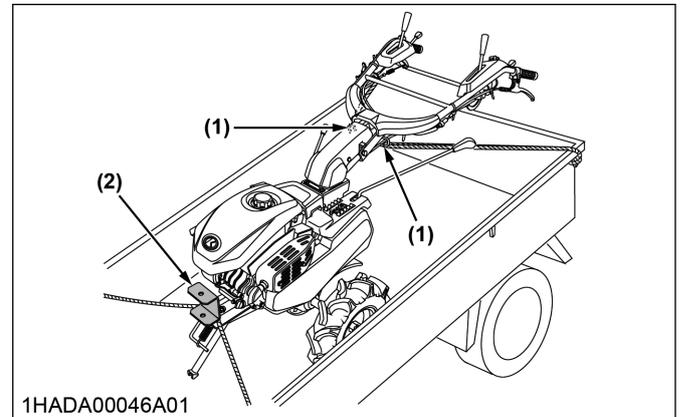
- 積み込み、積降ろしは、平たんで交通の邪魔にならない安全な場所で行ってください。
- アユミ板はすべり止めの付いた、機体重量に耐える物で、トラックの荷台の高さ“1”に対しアユミ板の長さ“4以上”の物を使用し、確実に固定してください。
- 足元に注意し、車速は最低速で上りは“前進 1 速”、下りは“後進 1 速”で行ってください。
- 途中で主クラッチや操向クラッチを切ったり、変速操作を絶対にしないでください。落下や転倒のおそれがあります。
- トラックは、荷台に天井が無い車を使用してください。首や体をはさまれるおそれがあります。
- トラックでの運搬時は、タンク内のガソリンの量を、積み込みまたは積降ろしに必要な最低量とし、残りのガソリンは、別に用意しておいた法で定められたタンクに移して運搬してください。火災のおそれがあります。

トラックへの積み込み、積降ろし、運搬

重要：

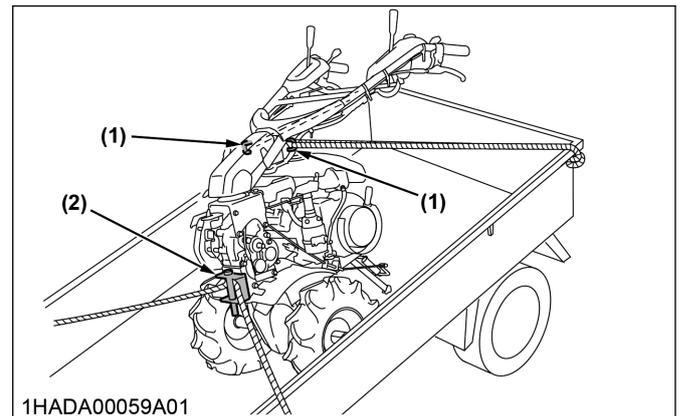
- ロープを掛けるとき、変速レバーや樹脂カバー、小物部品にロープが触れないように気をつけてください。破損したり機能が損なわれるおそれがあります。
 - ハンドルへのロープ掛けはしないでください。ハンドルが変形するおそれがあります。
 - エアクリーナの吸込口にカバーをかぶせないで運搬すると、雨水や砂ホコリが入り、エアクリーナ性能が低下します。
 - 燃料コックレバーを[ON]（燃料コック開）のまま運搬すると、キャブレタ内でガソリンがオーバーフローし、エンジン始動が困難となります。また、クランクケース内にガソリンが流入することもあります。
1. トラックを平たんな場所に止め、駐車ブレーキを掛けます。
 2. アユミ板を荷台に確実に固定します。
 3. 車速は最低速で、上りは“前進 1 速”で、下りは“後進 1 速”にします。
 4. スタンドを立て、機体を荷台にロープで確実に固定します。
 5. 機体は荷台にロープで確実に固定します。

ハンドル正位置時



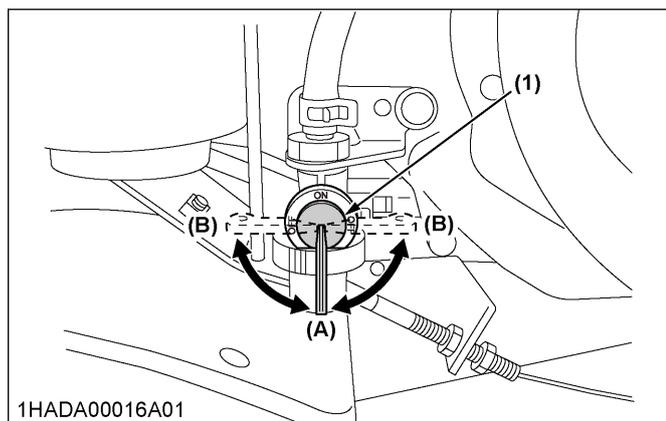
- (1) ロープ掛け用フック (2) フロントヒッチ

ハンドル逆位置時



- (1) ロープ掛け用フック (2) リアヒッチ

6. 燃料コックレバーを[OFF]（燃料コック閉）にします。



(1) 燃料コックレバー

(A)	ON	燃料コック開
(B)	OFF	燃料コック閉

7. 雨天時には、エアクリーナの吸込口にカバーをかぶせませます。

付表

主要諸元



警告

- 歩行時、前進 6 速はたいへん速く機体が飛び出しケガをするおそれがありますので、草削りロータ（直径 300 mm）作業以外は、必ず高速率制ボルトを[入]位置に固定してください。

販売型式		TA701N-K	TA701N-SCK	TA701N-SCJ	TA701N-SCW	TA801N-N	TA801N-SCK	TA801N-SCJ	TA801N-SCW	
機体寸法	全長(mm)	1555								
	全幅(mm)	625								
	全高(mm)	1120		1145	1150	1120		1145	1150	
機体質量(重量)		71	74	76	81	68	75	77	82	
エンジン	型式名	GB181				GB221				
	種類	空冷 4 サイクル傾斜型 OHV ガソリンエンジン								
	総排気量(L{cc})	0.181{181}				0.215{215}				
	出力 (kW{PS}/rpm)	3.3/1700{4.5/1700}				3.7/1700{5.0/1700}				
	最大出力 (kW{PS})	4.6{6.3}				5.1{7.0}				
	使用燃料	自動車用レギュラーガソリン（無鉛）								
	燃料タンク容量 (L)	2.8								
	始動方式	リコイルスタータ式								
走行部	車輪	3.50-7	3.50-7	4.00-7	16×7.00-8	ゴムラグ車輪	3.50-7	4.00-7	16×7.00-8	
	輪距(mm)	200,250	190~290	190~490	265~515	120	190~290	190~490	265~515	
	主クラッチ方式	ベルトテンション式								
	操向クラッチ方式	なし	ボール式			なし	ボール式			
	変速段数	ハンドル正位置 (段)	前進 6・後進 3 ^{*1}							
		ハンドル逆位置 (段)	前進 4・後進 3							
	走行速度	ハンドル正位置(km/h)	前進 0.55~3.7 後進 0.52~1.1	前進 0.63~4.3 後進 0.60~1.2	前進 0.65~4.4 後進 0.61~1.3	前進 0.55~3.7 後進 0.52~1.1	前進 0.63~4.3 後進 0.60~1.2	前進 0.65~4.4 後進 0.61~1.3	前進 0.65~4.4 後進 0.61~1.3	前進 0.65~4.4 後進 0.61~1.3
		ハンドル逆位置(km/h)	前進 0.52~1.8 後進 0.55~1.1	前進 0.60~2.0 後進 0.63~1.3	前進 0.61~2.1 後進 0.65~1.3	前進 0.52~1.8 後進 0.55~1.1	前進 0.60~2.0 後進 0.63~1.3	前進 0.61~2.1 後進 0.65~1.3	前進 0.61~2.1 後進 0.65~1.3	前進 0.61~2.1 後進 0.65~1.3
	車軸の形状・寸法 (mm)	六角 対辺 23								
	ホイールチューブの形状・寸法(mm)	六角 (内対辺 23、外対辺 32)								
PTO 回転速度 (rpm)		791								
ハンドル回転 (度)		-22.5, 0, 22.5, 45, 157.5, 180, 202.5 (レバーワンタッチ式)								
ハンドル上下調節 (段)		4 (レバーワンタッチ式)								

*1 前進 6 速は、草削りロータ（直径 300 mm）作業以外は使用しないでください。

補足：

- この主要諸元は、改良のため予告無く変更することがあります。

走行速度一覧表



警告

- 歩行時、前進 6 速はたいへん速く機体が飛び出しケガをするおそれがありますので、草削りロータ（直径 300 mm）作業以外は、必ず高速牽制ボルトを[入]位置に固定してください。

販売型式		TA701N-K	TA701N-SCK	TA701N-SCJ	TA701N-SCW	TA801N-N	TA801N-SCK	TA801N-SCJ	TA801N-SCW	
タイヤサイズ		3.50-7		4.00-7	16×7.00-8	ゴムラグ車輪	3.50-7	4.00-7	16×7.00-8	
タイヤ径	(mm)	350		400	412	350		400	412	
エンジン定格回転数	(rpm)	1700								
ハンドル正位置 km/h (m/min) (定格回転時)	前進 1	0.55 (9.2)		0.63 (10.5)	0.65 (10.8)	0.55 (9.2)		0.63 (10.5)	0.65 (10.8)	
	前進 2	0.86 (14.4)		0.98 (16.4)	1.0 (16.9)	0.86 (14.4)		0.98 (16.4)	1.0 (16.9)	
	前進 3	1.1 (19.0)		1.3 (21.7)	1.3 (22.3)	1.1 (19.0)		1.3 (21.7)	1.3 (22.3)	
	前進 4	1.8 (29.7)		2.0 (34.0)	2.1 (35.0)	1.8 (29.7)		2.0 (34.0)	2.1 (35.0)	
	前進 5	3.7 (62.0)		4.3 (70.9)	4.4 (73.0)	3.7 (62.0)		4.3 (70.9)	4.4 (73.0)	
	前進 6	-*1		-*1	-*1	-*1		-*1	-*1	
	後進 1	0.52 (8.7)		0.60 (9.9)	0.61 (10.2)	0.52 (8.7)		0.60 (9.9)	0.61 (10.2)	
	後進 2	0.86 (14.4)		0.98 (16.4)	1.0 (16.9)	0.86 (14.4)		0.98 (16.4)	1.0 (16.9)	
	後進 3	1.1 (18.0)		1.2 (20.5)	1.3 (21.2)	1.1 (18.0)		1.2 (20.5)	1.3 (21.2)	
	後進 4	-*2		-*2	-*2	-*2		-*2	-*2	
	ハンドル逆位置 km/h (m/min) (定格回転時)	前進 1	0.52 (8.7)		0.60 (9.9)	0.61 (10.2)	0.52 (8.7)		0.60 (9.9)	0.61 (10.2)
		前進 2	0.86 (14.4)		0.98 (16.4)	1.0 (16.9)	0.86 (14.4)		0.98 (16.4)	1.0 (16.9)
前進 3		1.1 (18.0)		1.2 (20.5)	1.3 (21.2)	1.1 (18.0)		1.2 (20.5)	1.3 (21.2)	
前進 4		1.8 (29.7)		2.0 (34.0)	2.1 (35.0)	1.8 (29.7)		2.0 (34.0)	2.1 (35.0)	
後進 1		0.55 (9.2)		0.63 (10.5)	0.65 (10.8)	0.55 (9.2)		0.63 (10.5)	0.65 (10.8)	
後進 2		0.86 (14.4)		0.98 (16.4)	1.0 (16.9)	0.86 (14.4)		0.98 (16.4)	1.0 (16.9)	
後進 3		1.1 (19.0)		1.3 (21.7)	1.3 (22.3)	1.1 (19.0)		1.3 (21.7)	1.3 (22.3)	
後進 4		-*2		-*2	-*2	-*2		-*2	-*2	
後進 5		-*2		-*2	-*2	-*2		-*2	-*2	
後進 6		-*2		-*2	-*2	-*2		-*2	-*2	

*1 草削りロータ（直径 300 mm）作業時以外は使用しないでください。草削りロータ（直径 300 mm）作業時以外は、高速牽制装置を[入]位置にしてください。

*2 牽制のため使用できません。

補足：

- この主要諸元は、改良のため予告無く変更することがあります。

標準付属部品

品名	数量/台	備考
プラグ用ボックススパナ	1	プラスドライバー付き
取扱説明書	1	
保証書	1	
ガソリンメンテナンス要領書	1	
固定ボルト	1	ハンドル固定用

主な消耗部品一覧表

消耗部品（エンジン関係）

品名	品番	適用機種	数量	備考
スパークプラグ	LE010-1378-0	全機種共通	1	
パッキング	LE010-1517-0		1	燃料コック
フューエルフィルタ	LE010-1519-0		1	燃料コック
フューエルホース	KF082-5473-0		1	燃料タンクからフィルタポット
フューエルホース	LE010-1805-0		1	フィルタポットからキャブレタ
クリーナエレメント	E2149-1118-0		1	エアクリーナ用
スタータロープ	LE010-1252-0		1	リコイル用

消耗部品（本機関係）

品名	品番	適用機種	数量	備考
Vベルト	KF082-6221-0	全機種共通	1	
ケーブル（シュクラッチ）	KF082-4219-0		1	
ケーブル（PTOクラッチ）	KF082-4242-0		1	
ケーブル（ハンドルジョウゲ）	KF052-4253-0		1	
ケーブル（スロットル）	KF082-4293-0		1	
ケーブル（スタンド）	KF082-4311-0		1	
ケーブル（ASC,ハンドル LH）	KF082-4332-0	SC仕様	1	操向クラッチハンドル左側
ケーブル（ASC,ハンドル RH）	KF082-4337-0		1	操向クラッチハンドル右側
ケーブル（ASC,ミッション LH）	KF082-4333-0		1	操向クラッチミッション左側
ケーブル（ASC,ミッション RH）	KF082-4334-0		1	操向クラッチミッション右側
シャジクピン	61041-1717-0	全機種共通	4	タイヤ取付け用
スナップピン	05516-5080-0		4	タイヤ取付け用
オイルシール	61011-1715-0		2	車軸用
オイルシール	KF022-1416-0		1	PTO 軸用

トラブルと処置

エンジンが始動しないとき

原因	処置
<ul style="list-style-type: none"> 始動の手順が間違っている。 	正しい順序で始動する。 (詳細は、運転のしかた (29 ページ) を参照)
<ul style="list-style-type: none"> タンクにガソリンを入れたまま 1 か月以上保管しガソリンが劣化した。 	タンクやキャブレタ内の劣化したガソリンを排出し、新しいガソリンを入れる。
<ul style="list-style-type: none"> フィルタポットに水やゴミが混入している。 	ポットを外してフィルタエレメントを清掃する。また新しい物と交換する。 キャブレタ内のガソリンも排出する。
<ul style="list-style-type: none"> チョークを引いた (閉じた) 状態でリコイルを何回も引きすぎガソリンを吸いすぎた。 	チョークを戻し (開き) リコイルを引くか、点火プラグを外して乾燥させる。
<ul style="list-style-type: none"> エンジン停止後、燃料コックレバーを閉じないで本機を前に倒したり、車両で運搬したためキャブレタがオーバーフローした。 	クランクケース内にガソリンが混入していたら、新しいエンジンオイルと交換する。
<ul style="list-style-type: none"> エアクリーナエレメントが目詰まりしている。 	エレメントを外して清掃する。 または新しい物と交換する。
<ul style="list-style-type: none"> 点火プラグの火花が弱い、飛ばない。 	点火プラグを外して付着したカーボンを清掃する。または、新しい物と交換する。

エンジン回転が上がらない、不安定、出力が不足するとき

原因	処置
<ul style="list-style-type: none"> エンジンが暖まってもチョークを引いた (閉じた) まま運転している。 	チョークを戻す (開く)。
<ul style="list-style-type: none"> フィルタポットに水やゴミが混入している。 	ポットを外して清掃する。 キャブレタ内のガソリンも排出する。
<ul style="list-style-type: none"> エアクリーナエレメントが汚れている。 	エレメントを外して清掃する。
<ul style="list-style-type: none"> スロットルケーブルの引っ張りが不足している。 	ケーブルのセット位置の調整が必要です。 ご購入先に相談してください。

エンジンが振れる、異音が発生する

原因	処置
<ul style="list-style-type: none"> エンジン取付けボルトがゆるんでいる。 	取付けボルトを締め付ける。

ハンドルのガタが多い

原因	処置
<ul style="list-style-type: none"> ハンドル回転部のガタが多い。 	ハンドル中央位置のみで使用するときは、固定用ボルト (付属品) でハンドルを固定する。

補足:

- 処置をしてもトラブルが直らないときは、購入先にご相談ください。

索引

アルファベット

PTO 牽制金具	
取扱い.....	24
PTO ケーブル	
調節.....	47
PTO レバー.....	23

あ

安全に作業するために.....	27
安全ラベル	
手入れ.....	13
貼付け位置.....	11
エアクリーナ	
調節.....	34
点検.....	42
エアクリーナエレメント	
オイル交換.....	43
清掃.....	43
エンジン	
始動のしかた.....	29
停止のしかた.....	30
エンジンオイル	
交換.....	42
点検.....	41
エンジン始動不良を防ぐために.....	48

か

各ケーブル	
点検.....	42
管理機	
外観.....	17
機械の周りを歩いて.....	41
給油一覧表.....	40
作業前の準備.....	33
トラックへの積込み、積降ろし、運搬.....	50
主要諸元.....	52
準備.....	29
使用後の手入れ.....	48
前回の異常箇所.....	41
発進のしかた.....	32
耕うん作業.....	33
高速牽制ボルト	
取扱い.....	23
ご相談窓口.....	15

さ

主クラッチケーブル	
調節.....	46
主クラッチレバー.....	18
主変速レバー.....	22
操作.....	23
上手な作業のしかた.....	33

消耗部品一覧表.....	56
スタンド	
格納.....	25
立てる方法.....	25
スタンドの調節	
調節.....	47
スタンド	
取扱い.....	24
スタンドレバー	
取扱い.....	24,25
スロットルケーブル	
調節.....	47
スロットルレバー.....	19
整備.....	41
旋回.....	33
洗車時の注意.....	39
操向クラッチ切替ボタン [SC 仕様]	19
操向クラッチケーブル	
調節.....	47
操向クラッチレバー [SC 仕様]	19
走行速度一覧表.....	54
その他	
点検.....	42

た

タイヤ	
空気圧の調整.....	45
空気圧の点検.....	45
車輪交換.....	36
車輪交換の注意.....	37
輪距の調節.....	36
輪距の調節の注意.....	37
注意事項	
PTO 軸を使用するとき.....	8
移動時.....	16
移動するとき.....	5
運転してはいけない人.....	3
運搬時.....	16
運搬するとき.....	6
エンジンを回すとき.....	4
降すとき.....	6
回転している爪に注意.....	7
格納するとき.....	9
各部の調節.....	34
カバー類は必ず付ける.....	8
ハンドル回動するとき.....	7
機械から離れるとき.....	7
機械の改造禁止.....	9
給油や注油するとき.....	4
耕うん作業するとき.....	6
坂道を移動するとき.....	6
作業機の着脱について.....	10
作業に適した服装.....	3
周囲への注意.....	4

掃除をするとき.....	8
タイヤの確認.....	9
正しい運転方法.....	3
他人に貸すときの注意.....	4
積み込むとき.....	6
点検、整備、アタッチメント脱着時の注意.....	8
排ガスに注意.....	4
廃棄物の処理について.....	9
ハウス、車庫などでの移動.....	5
発進するとき.....	5
ほ場がかたいとき.....	7
夜間作業の禁止について.....	10
ロータ装着時の後進は禁止.....	5
長期格納時の手入れ.....	48
調子よく作業するために.....	26
チョークレバー.....	21
定期点検箇所一覧表.....	40
点火プラグ	
交換.....	44
清掃.....	44
調節.....	44
点検.....	41
トラブルと処置.....	57

な

ならし運転.....	29
日常点検	
安全に作業するための点検.....	42
認定番号.....	15
燃料	
給油.....	41
抜取り.....	48
燃料キャップ.....	22
燃料コックレバー.....	21
燃料タンク.....	22
燃料チューブ	
交換.....	44
燃料フィルタ	
清掃.....	44

は

廃棄物	
処理.....	39
ハンドル	
逆位置から正位置への切替え [SC 仕様以外]	36
逆位置から正位置への切替え [SC 仕様]	35
上下調節.....	47
正位置から逆位置への切替え [SC 仕様以外]	35
正位置から逆位置への切替え [SC 仕様]	35
高さの調節.....	34
向き（正、逆）の変更方法.....	34
ハンドル回動レバー.....	20
ハンドル高さ調節レバー.....	19
標準付属部品.....	55
ファンカバー	
清掃.....	45
フィンガーレバー.....	18

補修用部品	
供給年限.....	15
補助主クラッチレバー.....	18

ま

マフラ.....	24
ミッションオイル	
交換.....	43
点検.....	41
メインスイッチ.....	18

ら

リコイルスタータ.....	21
六角ホイールチューブ [N 仕様以外]	24